

ご使用前に必ずお読みください

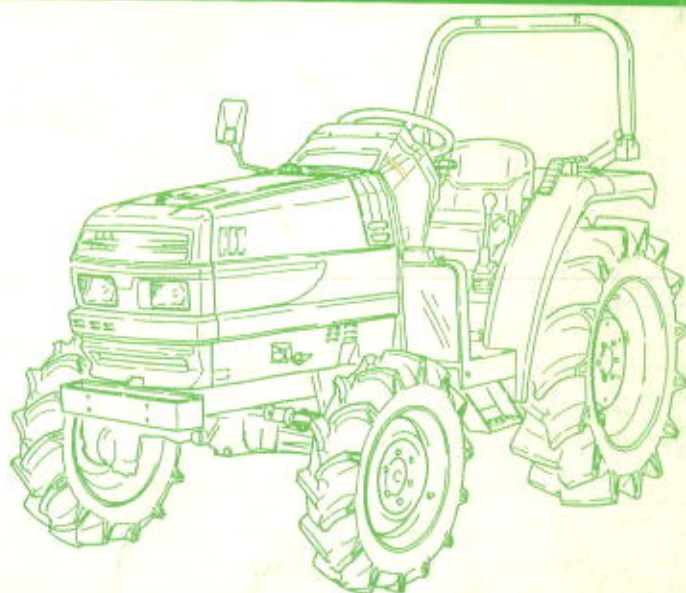


三菱トラクタ

MT225・MT245・MT265
MT285・MT285H・MT305

パルサーGO

取扱説明書



 三菱農機株式会社

はじめに


このたびは、トラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

このトラクタの性能を発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用のまえに「取扱説明書」をよくお読みいただき、機械の使い方を理解してから正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

いつまでもすぐれた性能を発揮できるよう本書をいかして、機械を大切にお使いください。

安全のポイント

安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

この取扱説明書のなかでぜひ守っていただきたい安全作業のポイントをそのつど  マークで表示し説明しています。さらに安全のポイントを抜粋した「安全ポスター」を添付しておりますので合わせてお読みいただき、事故のない楽しい作業をしてください。

◆トラクタの転落事故は自動車への積込み・積降ろしや、ほ場への出入りおよび路肩への寄りすぎの時に多く発生しています。

アユミの上ではクラッチ操作、変速操作や必要以上のハンドル操作をしないでください。

ほ場以外では左右のブレーキペダルを連結してデフロックを解除し、周囲を確認して低速で運転してください。

◆トラクタの負傷事故はロータリへの土の詰まりや草の巻付を除去する時に多く発生しています。

回転部分やロータリ部が最も危険な部所ですので作業中は触れないでください。

詰まり等の除去、点検、掃除の時はエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。



安全作業をするために

1. 点検・エンジン始動

- (1) 給油・注油・点検は平坦な場所で駐車ブレーキをかけて、エンジンを停止して行なってください。
- (2) 燃料補給時は火気を近づけないようにしてください。
- (3) 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク回りのワラクスを削除してください。
- (4) ラジエータキャップの取外しはエンジンが冷えてから行なってください。
- (5) エンジンを始動するときは、主変速・副変速・PTO変速レバーを《N》(中立)にし、駐車ブレーキをかけてクラッチを切っ行って行ってください。
- (6) 屋内やハウスでの始動は窓や戸をあけて、換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。
- (7) 発進するときは、周囲を確認し機械のそばに人を近づけないようにしてください。

2. 自動車への積込み、積降ろし

- (1) 積込み、積降ろしは強度、幅、長さ(荷台高さの4倍以上)のあるスベリ止め、フック付のアユミを使用し、低速で行なってください。
- (2) アユミの上ではクラッチ操作、変速操作、必要以上のハンドル操作は、落下・転倒の恐れがありますので行わないでください。
- (3) 積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行なってください。

3. 路上走行

- (1) ナンバープレートの交付を受けて、運転免許証を携帯し、交通法規を守って走行してください。
- (2) 公道走行時は作業機を装着しないでください。
- (3) 左右のブレーキペダルを連結します。
- (4) デフロックを解除してください。
- (5) 発進、旋回は、低速で行います。
- (6) 路肩の軟弱な所や草の生い茂っている所は転落の恐れがありますので走行しないでください。

4. ほ場での作業

- (1) ほ場への出入り、あぜ越えは、低速であぜに対して直角に行なってください。
- (2) 高いあぜや溝越えはアユミを使用します。
- (3) 作業中は、ワラなどの巻きつきや詰まりに手を出さないでください。異常が発生した場合はエンジンを停止してから掃除してください。
- (4) あぜ際での旋回時は周囲を確認してください。
- (5) 作業中の飛乗り、飛降りを行わないでください。
- (6) 安全カバー、保護カバーは全て取付けて作業してください。
- (7) 急傾斜地での走行や作業はしないでください。

5. その他

- (1) 次のような状態では運転しないでください。
飲酒運転、過労運転
いねむり運転、妊娠中
- (2) 服装はキチンと身体に合ったものを着用してください。
- (3) 点検整備、掃除およびロータリ爪の交換などの時はエンジンを停止して取扱説明書に従って行なってください。
- (4) 駐車時は、駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしてください。
- (5) 機械を他人に貸す時は、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」「安全ポスター」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを理解してから作業するように指導してください。機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげてください。
- (6) 機械の整備点検は、定期的に行なってください。定期点検整備は「お買いあげ先」の整備工場に純正部品を使用して行なってください。

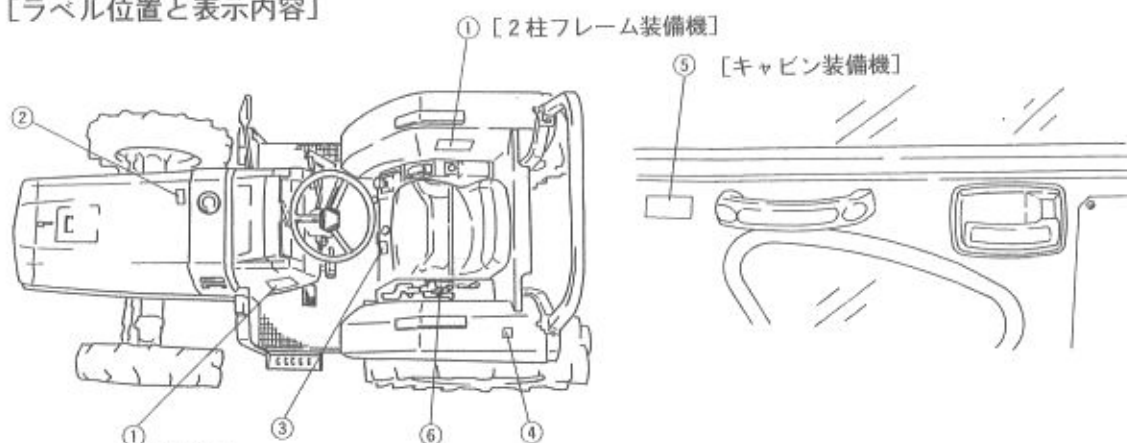
トラクタ作業で起こりやすい事故を未然に防止していただくための注意事項を記しました。詳細は本文の中で▲印の安全注意マークを符しておりますので、よくお読みいただき必ず守って事故のないようにしてください。

⚠ ラベルについて

安全な取扱いについて説明している「ラベル」を機械に貼付しています。

- ラベルをすべて読んでから使用してください。
- 機械に貼ってあるラベルが破損したり、なくなったり、塗料が付いたり、または読めなくなったら、新しいラベルに貼り替えてください。
- ラベルが付いている部品を交換するときは、新しいラベルも一緒に付けてください。
- ラベルは機械のお買いあげ先に注文してください。

[ラベル位置と表示内容]



[キャビン装備機]

①

<h3>警告</h3>	<p>詳細</p>	<p>取扱説明書並びに本機に貼ってある危険・警告・注意ラベルをすべて読まないと、エンジンを始動してはいけません。</p>
<p>ケガや死亡事故を起こさないために</p> <p>■ エンジンを始動する前に</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。 ● すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。 ● 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。 ● 変速レバー及びP.T.O.レバーを「N(中立)」にして、クラッチペダルを踏んでください。 ● 屋内やハウスでは、窓や戸を開けて換気をしてください。 <p>■ 正しい操作方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。 ● エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。 ● 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。 <p>■ 転倒防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 坂への上り下り、アユミの上、道端走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。 ● 急道、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。 ● 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。 ● 下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。 		
<ul style="list-style-type: none"> ● 路肩に寄りすぎないようにください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。 ● あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。 ● 自動車への横込み・横断ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は低速、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。 ● けん引作業はドロブを使用してください。 <p>■ 停止する時は</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平坦な場所、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びP.T.O.レバーを「N(中立)」にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。 <p>■ 清掃・点検・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。 ● 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。 ● ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行ってください。 ● 火災防止のため、エンジン、マフラー、燃料タンク周囲のフラカ革等を掃除してください。 		

②



[225・245型]

③

⚠ 注意		
本車両は、後軸距を下表の通り調整（調整番号は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。		
軸距 mm	後軸	1015
10352766001		

[265型]

⚠ 注意		
本車両は、後軸距を下表の通り調整（調整番号は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。		
軸距 mm	後軸	1050
10352767001		

[285・285H・305型]

⚠ 注意		
本車両は、後軸距を下表の通り調整（調整番号は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。		
軸距 mm	後軸	1095
10292716001		


[2柱フレーム装備機]

④

⚠ 警告	
	
<ul style="list-style-type: none"> ● 運転する時は ● 安全フレームを起こし矢印の位置にピンをセットしてください ● シートベルトを締めてください 	
09603200021	

[キャビン装備機]

⑤

	<p>⚠ 警告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転する時は、シートベルトを締めてください。
12086266001	

[パルシフト装備機]

⑥

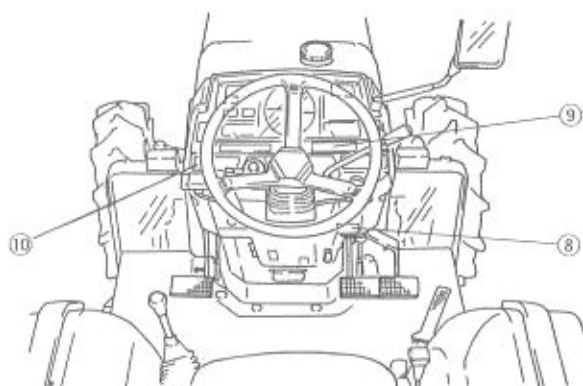
⚠ 警告	パルシフト
<ul style="list-style-type: none"> ● 寒冷時には十分暖気運転を行なって下さい。暖気運転を短時間にして発進する時は、クラッチペダルを踏んで変速操作をして下さい。寒冷時、ミッションオイルの粘度が上がるまでは、トラクタの発進が遅れることがあります。 ● トラクタから降りる時は、変速位置をN（中立）にし、駐車ブレーキを掛けて下さい。 ● 急な坂道、トラックへの積み込み・積み降ろし、ほ場への出入り、あげ越え等での変速操作は行なわないで下さい。予め低速にしてから進入して下さい。 	
10352765002	



⑦

⚠ 警告

<ul style="list-style-type: none"> ● エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足・衣服等を近づけないでください。
09603200019



⑧

 <small>09603200016</small>	<p>警告</p> <p>● 駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。</p>
--------------------------------	--

⑩

<p>注意</p> <p>■ 排気ガスは屋外へ放出してください。 ■ 燃料給油中・点検・調整時は、必ずエンジンを停止してください。</p>

⑨

<ul style="list-style-type: none"> ■ 超低速が で割変速Hの場合、ダイヤウィックターンは作動しません。 ■ ノーフラッチ仕様車は、超低速が でバルシフト5速以上の場合ダイヤウィックターンは作動しません。 ■ ダイヤウィックターンの入、切時は前輪タイヤを直進状態にしてください。 ■ 路上走行、傾斜地作業、フロントローダ作業等の前輪に高負荷のかかる作業時や圃場から出る時は、ダイヤウィックターンの使用しないでください。
--

⑪

 <small>09603200013</small>	<p>警告</p> <p>● エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。</p>
--------------------------------	--

⑫

 <small>09603100016</small>	<p>注意 マフラー</p> <p>● 熱い時は手・足及び身体を近づけないでください。</p>
--------------------------------	--

安全作業説明編

ご使用前に安全作業説明編を含めた取扱説明書を必ずお読みください

安全作業説明編

安全運転



のために

お客さまの安全をまもる

安全確認を習慣づけるようにしましょう。

この中で説明している守っていただきたい安全作業のポイントはトラクタ作業全般についてのものであります。

安全作業説明編

もくじ

- 作業前にこれだけは守りましょう！……………1
- トラクタ作業の安全注意ポイント……………2
- 作業前の点検・整備・掃除をするときは…4
- エンジンを始動するときは……………9
- 走行運転をするときは……………10
- 狭い農道・凸凹道・坂道の走行は……………12
- 自動車への積み込み・積降ろしのときは……14
- ほ場で作業をするときは……………15
- 1日の作業が終わったら……………18
- 長期格納するときは……………19

この「安全作業説明編」はイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

⚠️ 作業前にこれだけは守りましょう！

こんな人は、運転しないでください

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、正常な運転操作ができない人



- 酒気をおびた人



- 妊娠している人



- 若年者
- 未熟練者



服装は作業に適していますか？

活動的なすっきりした服装を！

こんな服装は事故のもと



トラクタを他人に貸すときは…

他人に機械を貸すときには、「取扱説明書」をよく読んでもらい取扱い方法や本書に書かれている安全作業のポイントをよく理解してから作業するように指導してください。

機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげてください。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりすると、せっかくの親切があだとなってしまいます。

安全フレームを付けましょう！

トラクタ事故の第1原因は、転倒や転落。死亡事故や大けがも、ほとんどがこの原因によるものです。

万が一のとき、安全フレームを装着してシートベルトをしていれば、最悪の事態は防げます。このような事故を防ぐためにも、安全フレームを正しく装着し、倒すことのできる安全フレームは起こして使用してください。安全フレームを起こして使用するときにはシートベルトを着用してください。



安全運転

のために

- 取扱説明書、機械のラベルをよく読んでから



始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止する
- エンジン回り、バッテリー、燃料タンクの周辺を掃除
- バッテリーコードや電気配線、燃料パイプの点検
- 給油、冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合と左右の遊び量の点検
- ハンドルの遊びやガタが大きいか確認
- 方向指示器などの保安部品の作動確認
- 作業機を上げて点検するときは油圧をロックして作業機の下に固定脚を置く
- 作業機の装着時はトラクタと作業機の間立たない
- 油脂類の廃却は、廃却設備のある所で処理する



エンジン始動

- すべてのカバーを取付け、安全フレームをおこす
- 本機や作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキをかけ、シートベルトをする
- 主変速、副変速、PTO変速を「N（中立）」にし、クラッチペダルを踏む
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

走行・運転

- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認
- PTO変速の「N（中立）」、ダイヤクイックターンの「切」、マイコン自動スイッチの「OFF」を確認する
- 本機や作業機に人や物を乗せない
- 発進時は周囲をたしかめる
- エンジンコントロールレバーを「低」にし、フートアクセルで走行する
- 急発進、急ブレーキ、急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない



道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し、交通法規を守る
- 公道走行する時は作業機を装着しない
- 前後左右を確認し、低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける
- 走行中に飛び乗り、飛び降りはない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

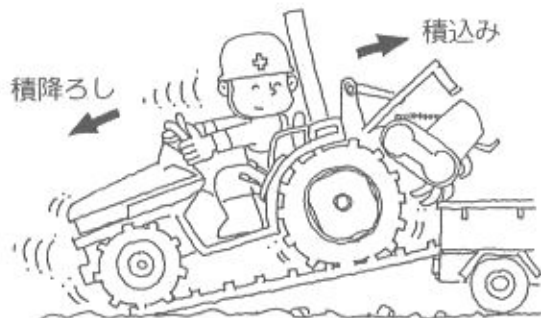
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避ける時、端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げエンジンブレーキを使用する
- 坂道では走行クラッチを切らない、変速レバーを「N（中立）」にしない

停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、主変速・副変速、PTO変速を「N（中立）」にし作業機を降ろしてからエンジンを停止して、変速レバーを「低速」に入れておく
- 坂道では駐車しない
（やむをえず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れる時は始動キーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度、幅、長さ、すべり止め、フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の回りには人を近づけない
- PTO 変速を「N（中立）」にする
- 積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ、デフロックは使用しない



ほ場作業 〔ほ場の出入り〕

- PTO 変速を「N（中立）」にする
- 右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認
- 低速であぜに対して直角に行く
- 高あぜ、溝越え、急傾斜はアユミを使用する
- 上がる時は後進、降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う



ほ場での作業

- 人をそばに近づけない。2人乗りはしない
- ウェイトがわりに人や物を乗せない
- 旋回時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドロバを使用し、後車軸の高さより上では引っ張らない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

作業中途の点検

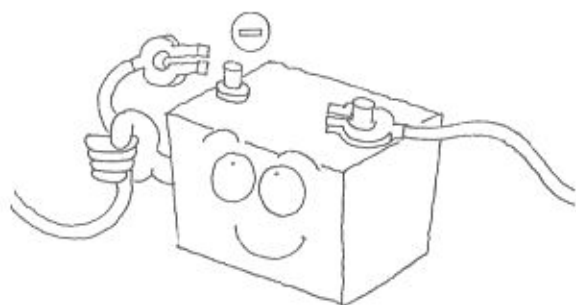
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をする時は油圧をロックする
- エンジン回りの点検はエンジンが冷えてから行う

終業・格納 1日の作業が終わったら

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止して始動キーを抜取る
- エンジン回り、バッテリー、燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ、ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換、輪距の変更はジャッキと固定脚を使用
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

- 作業機は外すか、降ろしておく
- 燃料は満タンにし、燃料コックをOFFにする
- バッテリーのアースコードを外すか、バッテリーを外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に歯止めをし、駐車ブレーキを解除する
- 機械は改造しない
- 部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する



⚠ 作業前の点検・整備・掃除をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が!

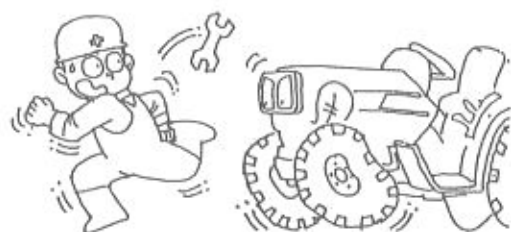
- ◆給油、注油、点検時はエンジンを停止しエンジン回転中や、エンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。
- ◆燃料補給時は、くわエタバコなどの火気を近づけないでください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類の廃却は、廃却設備のある所で処理してください。
 - 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとる。
 - エンジン始動前に、給油、注油、各部の点検をする。

燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。



- ◆点検、整備、掃除は平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止させてから行なってください。
 - 主変速、副変速、PTO 変速レバーが「N（中立）」になっていることを確認する。
 - タイヤに歯止めをする。

変速やクラッチが入っていると機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。



- ◆ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さないでください。
 - 冷却水の点検などを行う場合は、エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。

熱湯が吹きだし、ヤケドをすることがあります。



- ◆バッテリーの点検時、火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。

バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。



◆バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

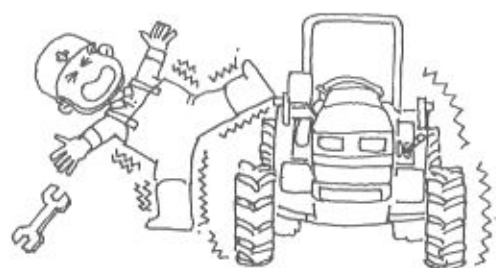
服が破れたり、ヤケドをすることがあります。



◆バッテリー端子の取外しは、⊖側を取外した後⊕側を取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。

- バッテリーの交換は指定されたバッテリーを使用。
- 取外し、取付け時に⊕端子を機体に接触させない。
- 逆に接続しない。

ショートして、ヤケドや火災の原因となります。



◆配線コードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。

- もれている場合は交換する。

火災事故を引起こすことがあります。



◆ブレーキのききが悪くないか、片ぎきなどがなく基準寸法に合わせて点検調整してください。

(調整方法は取扱説明書参照。)

◆機械は改造しないでください。

- 左右のブレーキのきき具合は良いか、また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。
- 改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく、人身事故の原因になることがあります。

正常な走行運転ができず事故を引起こす原因となります。



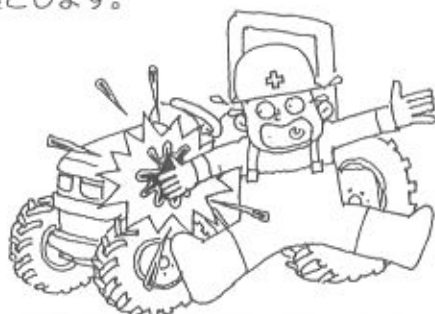
◆エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンク回りにワラクス・ゴミなどが付着していないか、作業前に点検して付着していれば取除いてください。

火災事故を引起こすことがあります。



◆点検・整備などで外した回転部のカバーなどは、全て取付けてください。
●カバーは正しく取付ける。

機械に巻きこまれたりして、傷害事故を起こします。



◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。

交通事故を引起こす原因となります。

◆ステアリングハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。
◆前後輪取付ボルトのゆるみがないか確認してください。

正常な走行ができなくなり、事故を引起こす原因となります。



◆作業機を着脱する時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の動きが止ってから行なってください。
●着脱は平坦な場所で、地盤のしっかりしたところで行う。

トラクタが動き出したりして、思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。



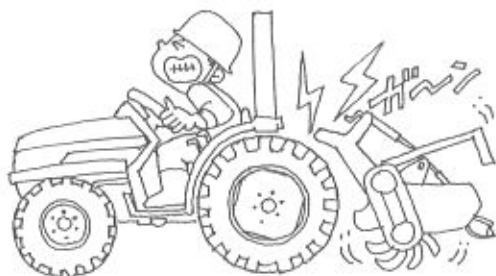
- ◆作業機の着脱で2人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。
- 作業機の着脱時は、トラクタと作業機の間立たない。
- 装着は手順通り正しく行う。
- 確実に装着して、ピンに抜け止めピンをする。
- 作業員以外の人を近づけない。
- ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。
- 上げたままで行うと、トップリンクが抜けて作業機が落下することがある。

機械にはさまれたりして、傷害事故を起こします。



- ◆2点リンク、3点リンク、特殊3点リンクなどの装着方式に合った作業機を装着してください。
- 吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。
- 左右のチェックチェーンを調整し、作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。

思わぬ事故を引起こすことがあります。



- ◆ユニバーサルジョイントの安全カバーは取外さないでください。
- 安全カバーの回り止めをする。
- ◆ユニバーサルジョイントのかみあい代を適正にして確実にロックピンで固定してください。
- ユニバーサルジョイントは作業機に標準装備されているものを使用する。
- ユニバーサルジョイントは作業中できるだけ真っ直ぐになるようにトラクタに装着する。

巻きこまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



- ◆各部のボルト、ナット、ロータリの爪等がゆるんでいないか確認してください。
- ボルト、ナット類、耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば、直ちに締める。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



- ◆トラクタを使用する前に始業点検を行い、異常個所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了後も点検を行なって異常がないかをチェックしてください。
- ◆1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。
- 部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。



⚠ エンジンを始動するときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

◆主変速、副変速、PTO変速を「N（中立）」にしてください。

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

●主変速、副変速、PTO変速のレバーが「N（中立）」になっているかレバーを手で動かして確認する。

●周囲を確認し、合図してから始動する。

●クラッチを切ってからスタータを回す。

変速やクラッチが入っていると機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。



◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。



◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。

機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

◆暖機運転は、主変速、副変速、PTO変速を「N（中立）」にし、駐車ブレーキをかけて行なってください。

急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。



⚠ 走行運転をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

- ◆発進するときは、周囲を確認してから発進してください。
- ◆エンジンコントロールレバーを「低」にし、フットアクセルで走行してください。

傷害事故を引起こす原因となります。



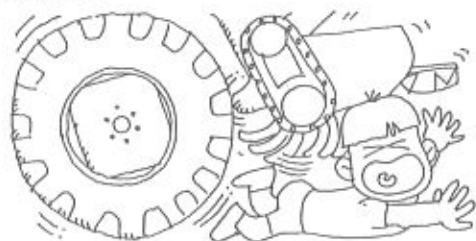
- ◆左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。
- 発進前に、ブレーキペダルの連結を確認する。
- デフロックを入れたままハンドル操作しても旋回できない。発進前に解除を確認する。

ブレーキが片ぎきになったり、ハンドル操作しても旋回できなかつたりして事故を引起こす原因となります。



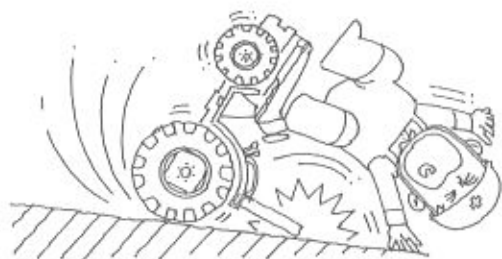
- ◆ダイヤクイックターンの「切」、PTO 変速の「N（中立）」を確認してください。
- 発進前に、ダイヤクイックターンレバーを「切」にする。
- 発進前に、PTO 変速の「N（中立）」を確認する。
- マイコン自動切替を「OFF」にする。
- PAC/ドラフトコントロールレバーを「解除」にする。

旋回時に急旋回をしたり、作業機が動き出したりして傷害事故を引起こすことがあります。



- ◆急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
- 主変速を低速に入れて発進する。
- クラッチペダルをゆっくり離す。
- 旋回するときは、エンジン回転を低速にして行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



⚠️ 狭い農道・凸凹道・坂道の走行は……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

◆道路の端には寄りすぎないでください。

- 対向車を避けるとき、端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
- 雨天や雨あがりのときは、低速で慎重に走行する。
- 凸凹道、下り坂はスピードを落とし、慎重に走行する。

路肩がくずれ転倒事故を引き起こすことがあります。



◆坂道走行、道路走行時は片ブレーキ、デフロックは使用しないでください。

- 左右のブレーキペダルの連結を確認する。
- デフロックが解除されていることを確認する。

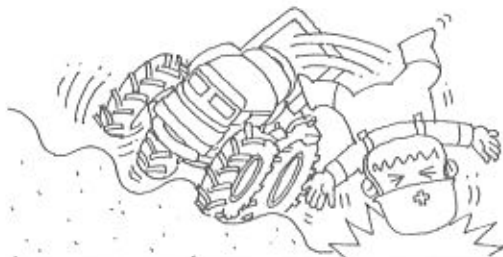
思わぬ事故を引き起こすことがあります。



◆坂道や凸凹道、カーブの多い道路では、高速運転をしないでください。

- スピードを落として慎重に走行する。

転倒事故を引き起こします。



◆坂道では、主変速や副変速を中立にしたり、クラッチを切ったりして、ニュートラルで走行しないでください。

- 坂にさしかかったら、坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。
- 下り坂では、速度を下げてエンジンブレーキを使用する。

スピードが速くなり事故の原因となります。



◆駐車・停車するときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止してください。

- 作業機（ロータリ等）を降ろす。
- 機械を離れる時は始動キーを抜取っておく。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となることがあります。



◆やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて後輪に歯止めをしてください。

- 坂道ではやむをえない時のほかは、駐・停車しない。
- 副変速を「低」に入れ、主変速レバーを登り坂では「1速」、下り坂では「後進」に入れておく。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となります。



⚠ 自動車への積み込み・積降ろし的时候は……

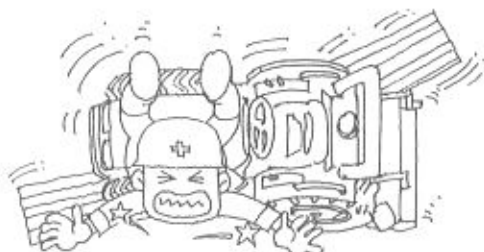
必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

◆アユミは強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フックのあるものを使ってください。

- 前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。
- 自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。
- 自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ、歯止めをする。

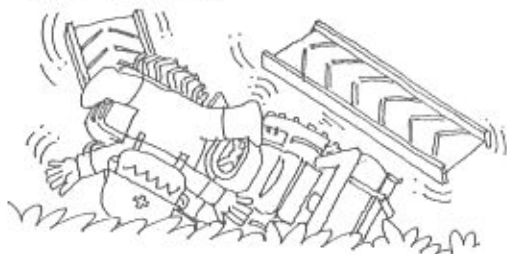
アユミが折れたりして、転倒事故を起こすことがあります。



◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。

- 荷台にアユミのフックを確実にかけ、はずれないかを確認する。
- 積み込みは後進、積降ろしは前進で行う。
- ロータリの爪がアユミに引っかからない状態を確認して走行する。

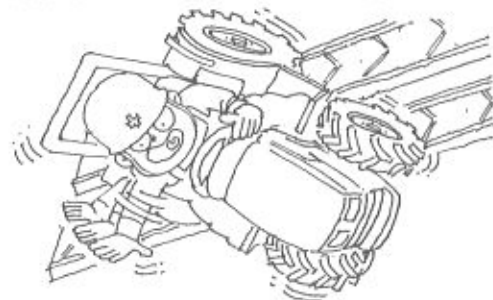
バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



◆アユミの上では、必要以上のハンドル操作はしないでください。

- 2枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き、荷台に対して真っ直ぐにする。
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する。

進路変更するとバランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。

- 途中でトラクタを止める必要がないよう、アユミの左右位置や平行、安定を確認し、低速で積み・降ろしを行う。
- 積み・降ろし的时候は機械の回りに人を近づけない。

エンジンブレーキがきかなくなり、急降下して事故を起こすことがあります。

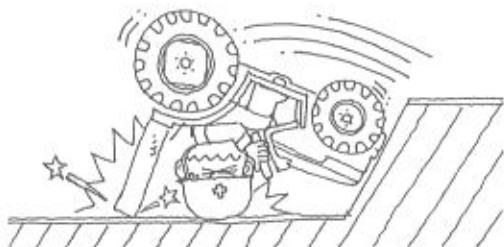
⚠ ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

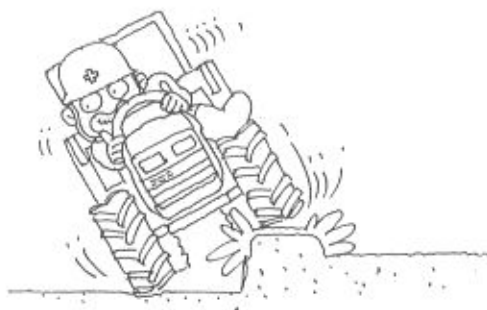
- ◆急傾斜、溝越え、高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。
- ほ場への出入りは上がるときは後進、降りるときは前進で低速で行う。
- PTO変速を「N（中立）」にする。
- アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。

バランスをくずしたりして、転倒事故を引起こします。



- ◆あぜ越えは、低速であぜに直角に行なってください。
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する。
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



- ◆トラクタ作業での傷害事故の大半は転倒事故です。安全フレームを装着してください。
- ◆通常の作業では安全フレームを「おこして」シートベルトを着用してください。
- ◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが、この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトは締めないでください。
- ヘルメットをかぶる。
- 急傾斜地では作業をしない。

転倒したときは死亡または傷害事故になります。



◆作業中は、トラクタに人を近づけないようにしてください。

- わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は、周囲に人がいないことを確認して行う。
- あぜ際での作業はむりをせず、枕地を十分にとって、余裕をもって旋回する。

作業機が衝突したりして傷害事故を引き起こすことがあります。



◆作業機の下へもぐったり、足を踏んだりしないでください。

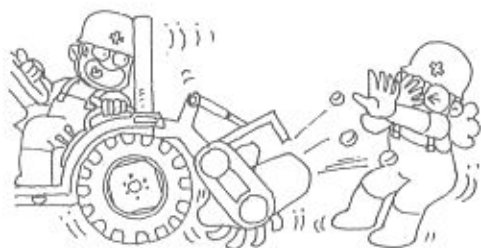
- 駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めてPTO変速を「N（中立）」にする。
- 作業機を上げて点検するときや、草・ワラの巻付の除去するときは油圧をロックし、作業機が降りないことを確認する。

何かの原因でロータリが急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。



◆点検、調整時、爪交換時などにはずしたカバー類は、すべて元の位置に正しく装着してください。

機械に巻込まれたり、泥や石がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。



◆けん引や傾斜地での作業をするときは、輪距を広くしてください。

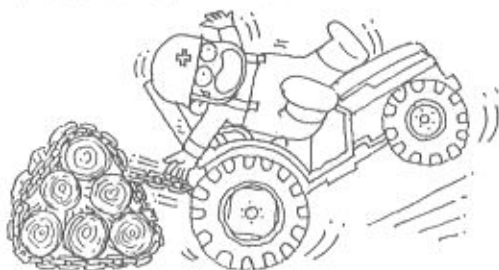
転倒事故を引き起こす原因となります。



◆けん引作業は純正ドーバを使用し、後車軸の高さより上で引っ張らないでください。

- 負荷の大きなけん引をするときは、トラクタが後方に転倒しないように純正ドーバを使用し、ゆっくりスタートする。

転倒事故を起こす原因となります。



◆PTO軸を使用しないときは、PTO軸にグリスを塗り、PTOキャップを取付けてください。

巻きこまれたりして傷害事故を起こすことがあります。



◆重い作業機を装着したときは、トラクタのフロントに、バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

トラクタがバランスをくずし傷害事故を起こすことがあります。



◆フロントローダ作業をするときは、後方に他の作業機を装着するなどして、バランスを保ってください。

- ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。

バランスをくずし転倒事故を起こします。



◆低速回転作業機を高速回転で使用しないでください。作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



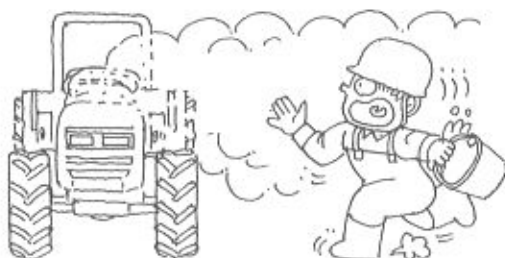
⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

- ◆作業が終了したら、平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。
- エンジン、マフラ、燃料タンク回りのワラ、草等を除去・掃除する。
- 掃除後注油個所に注油する。

火災の原因となることがあります。



- ◆保管は平坦な場所に置き、ロータリ等作業機部分は地面に降ろし、駐車ブレーキをかけてください。
- 始動キーは抜取っておく。
- 副変速を「低速」に入れ、主変速は「1速」に入れ、シャトル変速は「前進」に入れておく。
- PTO変速は「N（中立）」にしておく。

油圧が抜けたりして、作業機が急降下するなどして思わぬ事故を引起こします。



- ◆シートカバーをかける場合は、マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。

火災事故を引起こすことがあります。



- ◆ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さないでください。
- 冷却水の点検などを行う場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。

熱湯が吹きだし、ヤケドすることがあります。



⚠ 長期格納するときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

◆各部を水洗いして平坦なところに格納し、キーを抜取ってください。

◆機械は改造しないでください。

- 故障箇所、爪の摩耗があれば、早目に修理、交換する。
- ボルトやナットがゆるんだ状態であれば、直ちに締める。
- バッテリーを外して保管する。バッテリーは、1ヶ月毎に充電を行うと寿命が長くなります。
- 燃料は満タンにし、燃料コックをOFFにしておく。

思わぬ事故の原因となることがあります。



◆格納するときは、クラッチ板錆付防止のためクラッチ板を離れた状態にしておいてください。

- クラッチペダルを一杯踏込んでフックをかける。
- 後輪の前後に歯止めをし、駐車ブレーキを解除しておく。

クラッチが切れなくなり思わぬ事故の原因となるときがあります。



◆作業機は外すか、降ろしておいてください。

油圧が抜けたりして、作業機が下がったりして思わぬ事故を引起こします。



◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- 1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。
- 部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。



取扱説明書もくじ

ご使用まえに

1 「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」について	1
2 「用語」と「マーク」について	1
3 「仕様（装備）」について	2
4 小型特殊自動車について	3
① 小型特殊自動車の届出と免許	3
② 公道を走行するとき	3
5 大型特殊自動車について	4
① 大型特殊自動車の届出と免許	4
② 公道を走行するとき	4

主な名称

	5
--	---

各部の取扱いかた

1 運転装置の取扱い	6	② 作業機降下速度の調節	24
① スイッチ，計器関係	6	③ フロントローダの取扱い （オプション）	25
② レバー，ペダル，シート関係	10	④ パワーステアリングの取扱い	26
2 安全フレームの取扱い	19	5 3点リンクの取扱い	27
① 安全作業について	19	① トップリンクの取付け（オプション）	27
② 安全フレームの たおしかた・おこしかた	19	② 作業機を取付けないときの注意	27
3 電装関係の取扱い	21	③ ドローバ（オプション）	27
① ヒューズ及びヒューズブルリンク の取扱い	21	④ PTOキャップ	27
4 油圧装置の取扱い	23	⑤ ロータリの取付け	27
① コントロールレバーの操作 （標準機）	23		

上手な運転のしかた

1 運転まえの点検と準備	28	③ 停止のしかた	37
① 給油・注油・給水・給脂個所	28	④ エンジン自動緊急停止	38
② 給油・注油・給水表	29	⑤ 走行のしかた	38
2 運転操作のしかた	33	⑥ 自動車への積込み・積降ろし	40
① エンジンの始動	33	⑦ 坂道での運転のしかた	41
② 発進のしかた	34		

もくじ

上手な作業のしかた

- | | | | |
|--------------------|----|----------------------------|----|
| 1 ほ場作業のしかた | 42 | 2 作業に必要な装置の使いかた | 47 |
| 1 1 ほ場への出入りのしかた | 42 | 1 1 トレッドの調節のしかた | 47 |
| 1 2 作業に適した速度の選びかた | 43 | 1 2 3点リンクの取付け寸法の
設定のしかた | 49 |
| 1 3 デフロックの使いかた | 45 | 1 3 作業機の取扱い | 50 |
| 1 4 ほ場での旋回のしかた | 45 | | |
| 1 5 ダイヤクイックターンの使い方 | 46 | | |

マイコン装備機の取扱い

- | | | | |
|-------------------|----|---------------------|----|
| 1 マイコンの取扱い | 51 | 5 安全装置の取扱い | 58 |
| 1 1 マイコンの機能 | 51 | 1 1 安全装置 | 58 |
| 2 ポジションコントロールの取扱い | 52 | 1 2 ヒューズ | 61 |
| 1 1 運転装置 | 52 | 6 作業機切替 | 62 |
| 1 2 取扱い操作 | 52 | 1 1 作業機切替機能 | 62 |
| 3 傾斜自動の取扱い | 54 | 7 マイコンの操作要領 | 63 |
| 1 1 運転装置 | 54 | 8 マイコン装備機の作業別、組合せ操作 | 65 |
| 1 2 取扱い操作 | 54 | 1 1 標準機 | 65 |
| 4 耕深自動の取扱い | 56 | 1 2 パルシフト装備機 | 67 |
| 1 1 運転装置 | 56 | | |
| 1 2 取扱い操作 | 56 | | |

キャビン装備機の取扱い

- | | | | |
|--------------------|----|----------------|----|
| 1 各部の取扱い | 69 | 2 ラジオ | 75 |
| 1 1 ドア・ウインドウ開閉のしかた | 69 | 3 カーステレオ | 76 |
| 1 2 スイッチ操作のしかた | 71 | 4 ヒーター | 79 |
| 2 運転装置の取扱い | 74 | 5 エアコン | 81 |
| 1 1 バックミラー | 74 | 4 キャビンの注油、給水個所 | 85 |
| 3 室内装備の取扱い | 74 | 1 1 給油・給水表 | 85 |
| 1 1 灰皿 | 74 | | |

手入れのしかた

- | | | | | | |
|---|---------------------------|----|----|--------------|-----|
| 1 | 定期点検整備表 | 87 | 9 | タイヤの空気圧および損傷 | 96 |
| 2 | 点検と掃除 | 89 | 10 | ハンドルの遊びの点検 | 96 |
| 1 | エンジンオイル、オイルフィルタの
点検と交換 | 89 | 11 | ホース類の点検 | 96 |
| 2 | 燃料の補給 | 90 | 12 | 電気配線の点検と掃除 | 96 |
| 3 | 冷却水の保守管理 | 91 | 13 | バッテリーの点検と充電 | 97 |
| 4 | エアクリーナの掃除 | 93 | 3 | 調整のしかた | 101 |
| 5 | ラジエータ・
ラジエータスクリーンの掃除 | 93 | 1 | ベルトの点検・調整 | 101 |
| 6 | ミッションオイル
の点検と交換 | 93 | 2 | ペダルの点検・調整 | 101 |
| 7 | 油圧フィルタの交換 | 94 | 3 | トーインの点検・調整 | 103 |
| 8 | フロントアクスルオイル
の点検と交換 | 95 | 4 | 格納のしかた | 104 |
| | | | 1 | 機械の掃除・洗浄・格納 | 104 |
| | | | 2 | 格納中の手入れ | 105 |
| | | | 3 | 再使用にあたって | 105 |

不調の発見と処置

- | | | | | | |
|---|----------|-----|---|----------|-----|
| 1 | エンジン部 | 106 | 3 | 油圧部 | 112 |
| 2 | 走行・運転操作部 | 110 | 4 | 電気・自動制御部 | 113 |

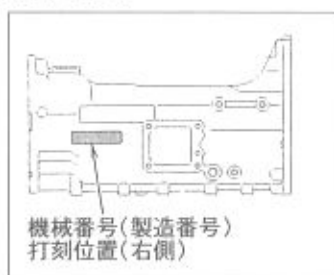
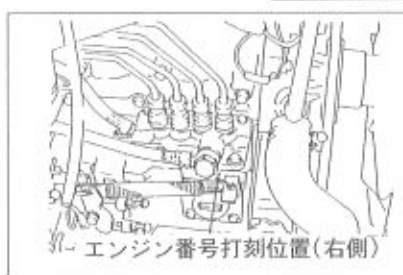
付 表

- | | | | | | |
|---|--------|-----|---|------------|-----|
| 1 | 主要諸元 | 116 | 4 | アタッチメント一覧表 | 127 |
| 2 | 電気配線図 | 117 | 5 | 潤滑油 | 129 |
| 3 | 主な消耗部品 | 125 | 6 | トラクタ関連商品 | 131 |

ご使用まえに

1 「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」について

このトラクタには「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」がそれぞれ図示のところに表示してあります。サービスについてのお問い合わせや部品などご用命のときには、「お買いあげ先」に「型式名」・「機械番号（製造番号）」・「エンジン番号」をお知らせください。



2 「用語」と「マーク」について

この取扱説明書で使用している「前後・左右・左回り・右回り」などの用語は、上記図のように決めております。またこの取扱説明書では特に注意していただくところに下記マークを使用しております。



安全のポイント

- ◆重要な安全事項について説明しています。守らないと人身事故の危険性がありますので、必ず読んでください。

取扱いのポイント

- 機械の性能を最大限に発揮するための説明をしています。守らないと本来の性能を発揮できません。また故障の原因になることがあります。

3 「仕様（装備）」について



安全のポイント

◆機械は改造しないでください。改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく人身事故の原因になることがあります。

225・245・265・285・285H・305型の主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については、異なる点のみ追加説明していますので、お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ、まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

型 式 仕 様	225・245					265					285					285H					305					
	F	F	F	X	X	F	F	F	X	X	F	F	F	X	X	F	F	C	X	X	F	F	F	C	X	X
	V	L	M	L	V	V	L	A	M	V	V	A	M	V	V	M	V	M	M	V	A	M	V	M	M	V
2柱安全フレーム	○	○	○			○	○	○			○	○	○			○	○	○			○	○	○			
パワーステアリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チルトハンドル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤクイックターン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リターンPTO	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハイスピード(大型特殊仕様)																○	○	○	○	○						
AGタイヤ								○					○								○					
大径タイヤ		○	○	○			○			○																
MAC	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
PAC	○					○					○					○					○	○				
パルシフト	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○								○		○
ヒータキャビン																		○							○	
デラックスエアコンキャビン			○	○	○				○	○				○	○				○	○					○	○

型式記号の説明

F=2柱安全フレーム C=ヒータキャビン X=デラックスエアコンキャビン H=ハイスピード仕様(大型特殊自動車)
M=マイクロコンピュータ装備機(MAC) V=パルシフト・MAC A=AGタイヤ L=大径タイヤ

4 小型特殊自動車について

225・245・265・285・305型は、道路交通法、道路運送車両法の「小型特殊自動車」に該当します。

1 小型特殊自動車の届出と免許

① 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は、市（町・村）条例により、その取得を市（町・村）役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので、詳しいことは「市（町・村）役所」または「お買いあげ先」にご相談ください。

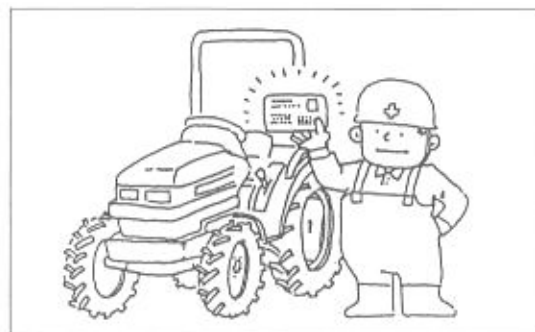
小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「お買いあげ先」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは、機械の指定された位置に取付けます。



② 運転免許

道路を走行するときは、「小型特殊自動車」の運転免許が必要です。運転免許証を所持して運転します。



③ 小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最高速度	15km/時以下	
原動機の総排気量	1500cc以下	

小型特殊自動車は、上記の条件を満たしていなければなりませんので、次のようなことをしてはいけません。

- ・型式の異なるエンジンの搭載
- ・走行装置の構造の改造
- ・エンジン、本体の封印されてる部分の解封

④ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ、任意保険に加入されるようお勧めします。

2 公道を走行するとき

公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って、「安全速度」で走行します。

- ① 作業機を取付けた状態では走行しない。
- ② 指定輪距

指定輪距以外での走行はしない。

シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。（47ページ参照）

5 大型特殊自動車について

285H型は、道路交通法、道路運送車輛法の「大型特殊自動車」の新型自動車届出を出しております。

1 大型特殊自動車の届出と免許

① 大型特殊自動車とは

農耕作業用および運輸大臣が指定する特殊な構造を有する自動車で、下記の基準を越えるものをいいます。

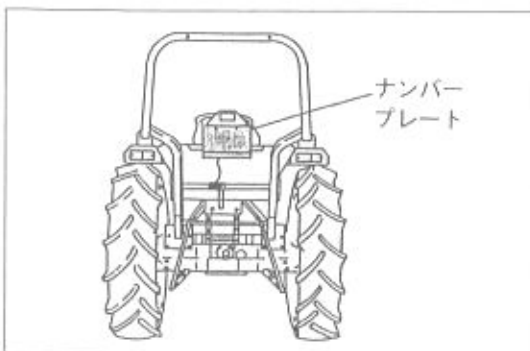
車体の大きさ	全長	4.70m
	全幅	1.70m
	全高	2.00m
最高速度	15km/時	
原動機の総排気量	1500cc	

② 大型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

大型特殊自動車を運行の用に供するためには、運輸大臣（陸運支局）が行う検査を受け、有効な自動車検査証の交付を受けると同時に、自動車登録ファイルに登録を受けなければなりません。

届出については、「お買いあげ先」にご相談ください。

このトラクタの運行には交付されたナンバープレートを車輛後部の取付部に取付け、自動車検査証をトラクタに備えておきます。



③ 運転免許

道路を走行するときは、「大型特殊自動車」

の運転免許が必要です。運転免許証を所持します。



④ 自動車保険

農耕作業用大型特殊自動車は、「自動車損害賠償責任保険」に加入しなければなりません。詳しいことは「お買いあげ先」にご相談ください。

⑤ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ、任意保険に加入されるようお勧めします。

⑥ 点検整備

自動車検査証の有効期間は2年間です。期限の切れる前に、車検を受けてください。

このトラクタを運転する場合は、1日1回運転開始前に点検（始業点検）しなければなりません。

この他に6カ月ごとの点検整備が必要です。

詳しくは、「お買いあげ先」にご相談ください。

2 公道を走行するとき

公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って、「安全速度」で走行してください。

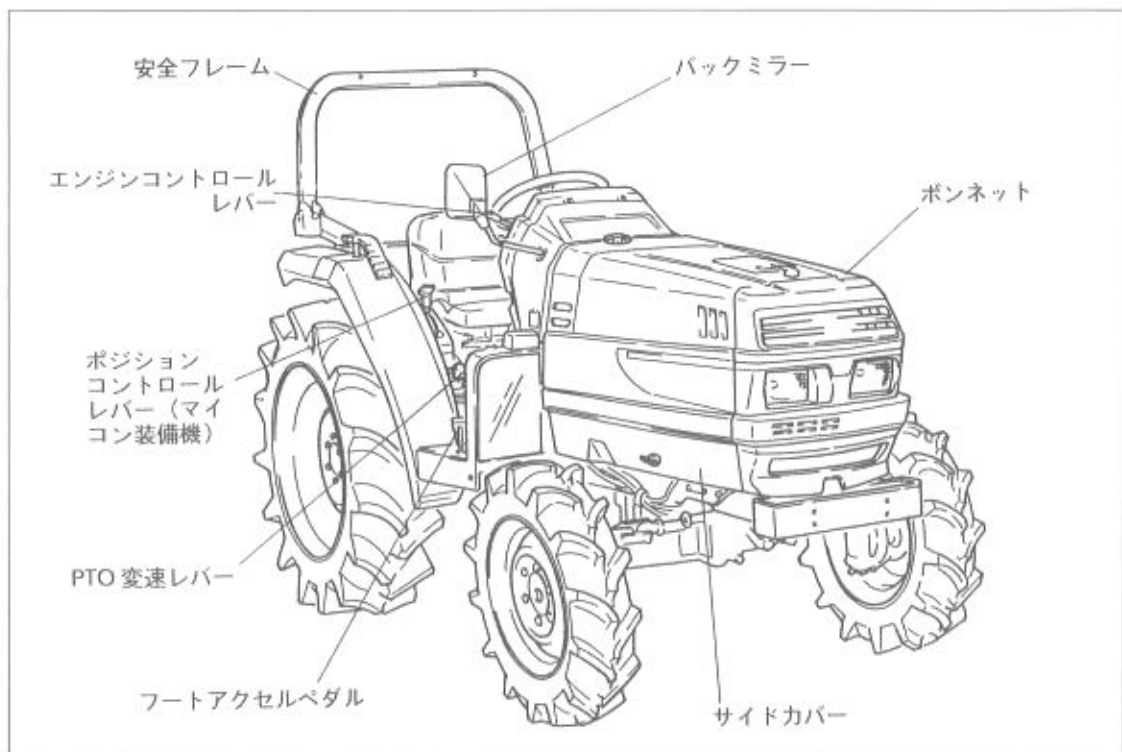
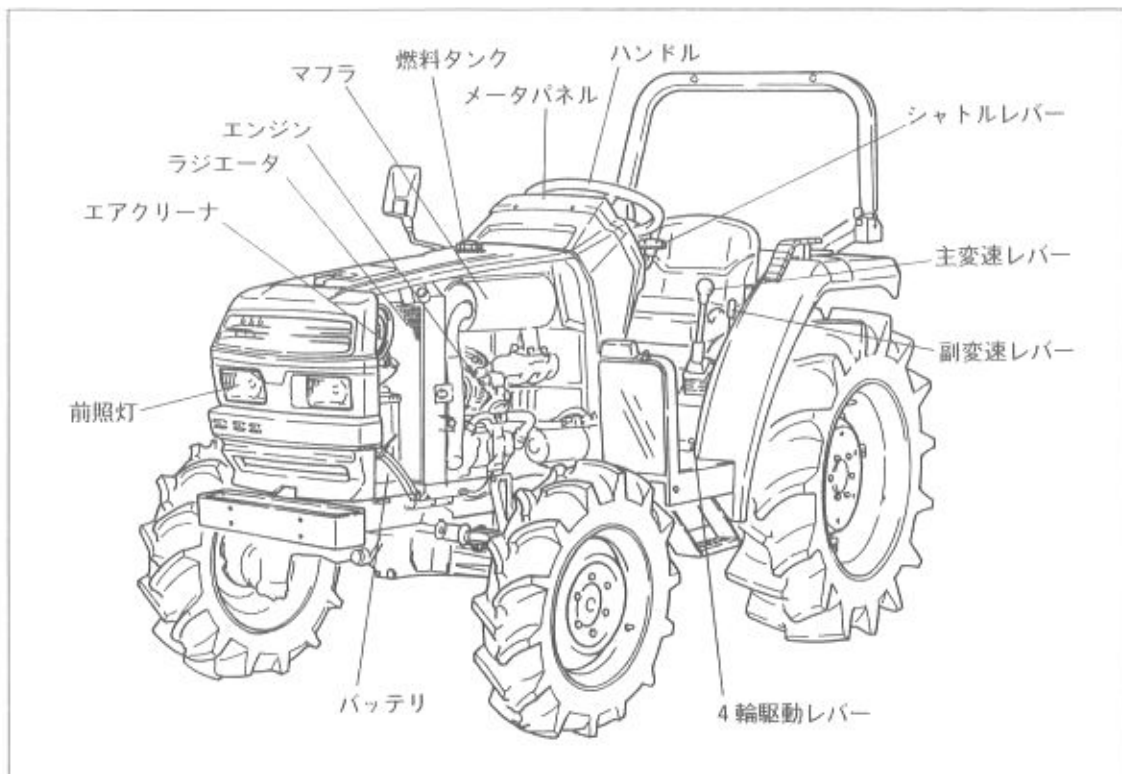
① 作業機を取付けた状態では走行しない。

② 指定輪距

指定輪距以外での走行はしない。

シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。（47ページ参照）

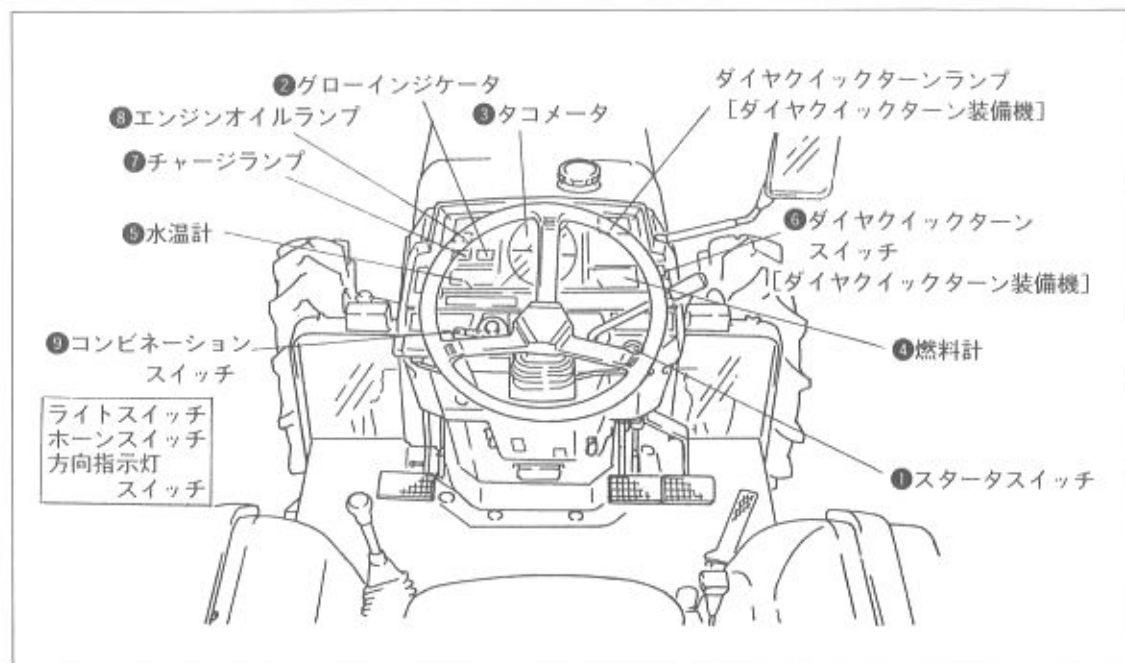
主な名称



各部の取扱いかた

1 運転装置の取扱い

1 スイッチ、計器関係



① スタータスイッチ



安全のポイント

- トラクタを使用しないときは始動キーを抜いておいてください。

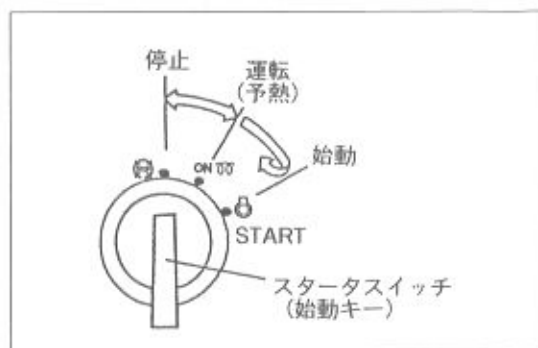
- ・《 〇〇 》(停止) ……電源切(エンジン停止) キーを《 〇〇 》(停止) にするとエンジンが停止します。
- ・《 ON 〇〇 》(予熱) ……電源入(運転中) キーを《 ON 〇〇 》 にするとメータ内のグローインジケータが点灯し、エンジンが予熱されます。予熱が完了するとグローインジケータが消灯しますので始動操作をします。

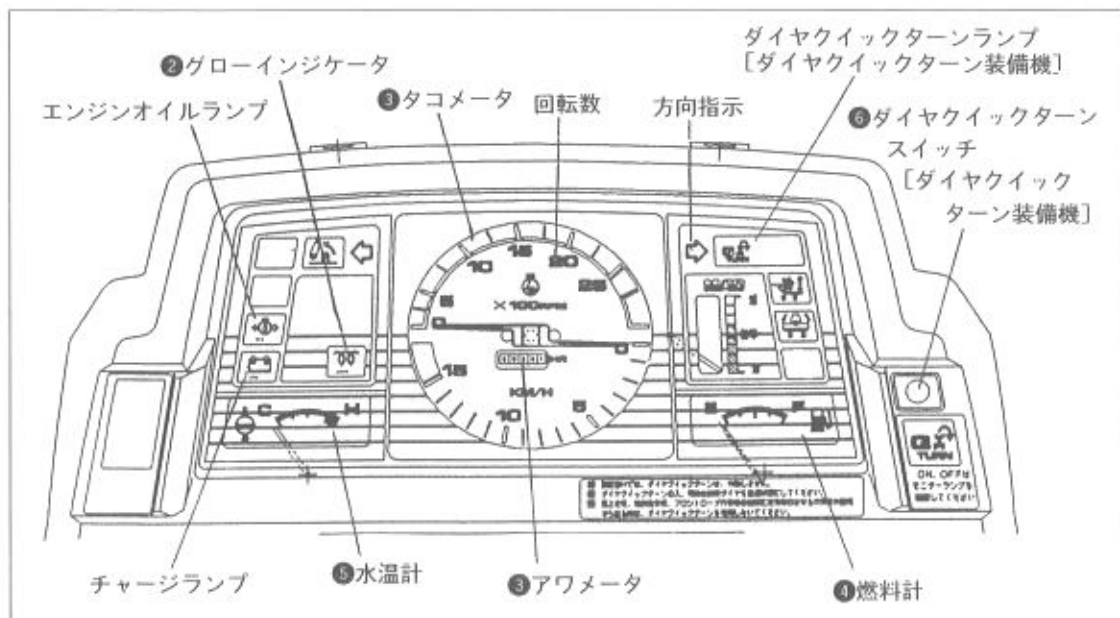
グローインジケータ点灯時間
冷却水温 5℃以上 …… 1秒
冷却水温 5℃以下 …… 3秒

- ・《 〇 〇 START 》 ……エンジン始動手を放せば自動的に《 ON 〇〇 》にもどります。

取扱いのポイント

- クラッチペダルをいっぱい踏込まないと、エンジンは始動しません。





② グローインジケータ



スタートスイッチを《 ON 00 》にすると、点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

③ タコメータ・アワメータ

・タコメータはエンジン回転数を示します。

(1) 上側の目盛

エンジン回転数を示します。

(2) 下側の目盛

最高速度段の走行速度を示します。

・アワメータは稼働時間を表示し、たとえば **00191** は19.1時間（19時間6分）使用したことを示します。



④ 燃料計

スタートスイッチ《 ON 00 》の状態では燃料の残量を示します。

針が「E」近くになったら早めに補給してください。



⑤ 水温計

スタートスイッチ《 ON 00 》の状態ではエンジン冷却水温度を示します。

取扱いのポイント


●水温計の針が《H》を示した場合は、オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量、ラジエータの目詰まり、ファンベルトの張りを点検してください。（91, 93, 101ページ参照）冷却水量、ラジエータの目詰まり、ファンベルトが正常であれば、ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

⑥ ダイヤクイックターンスイッチ
[ダイヤクイックターン装備機]




安全のポイント

◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業の時はダイヤクイックターンスイッチを切ってください。ダイヤクイックターンを使用すると、旋回速度が通常より速くなり、また、旋回半径も小さく車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

- 4輪駆動レバーを《入》れダイヤクイックターンスイッチを押すとパネル内のダイヤクイックターンが点灯し、ダイヤクイックターンが働く状態になります。ハンドルを切ってダイヤクイックターンが作動すると旋回時の速度が早くなり小回りができます。スイッチをもう一度押すとランプが消灯しダイヤクイックターンが働かなくなります。
- 安全のため副変速レバーが《H》で超低速レバーが《》(高速)のときはダイヤクイックターンが作動しない構造になっています。このときはパネル内のダイヤクイックターンランプは点灯しません。



取扱いのポイント

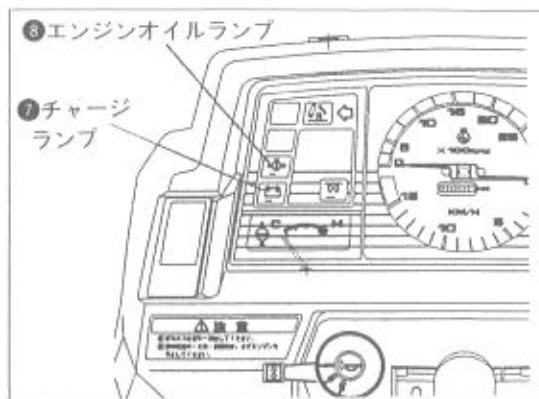
- ダイヤクイックターンに入れたり、切ったりするときは前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 副変速レバーが《H》で超低速レバーが《》(高速)のときはダイヤクイックターンが、作動しない構造になっています。



7 チャージランプ

エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止しているとき、スタートスイッチを《ON/OFF》位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。



取扱いのポイント

- エンジンの運転中にチャージランプが連続点灯するときは、エンジンを停止し、エンジンファンベルトを張ってください。(101ページ参照)
エンジンファンベルトが正常であれば、ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。



8 エンジンオイルランプ

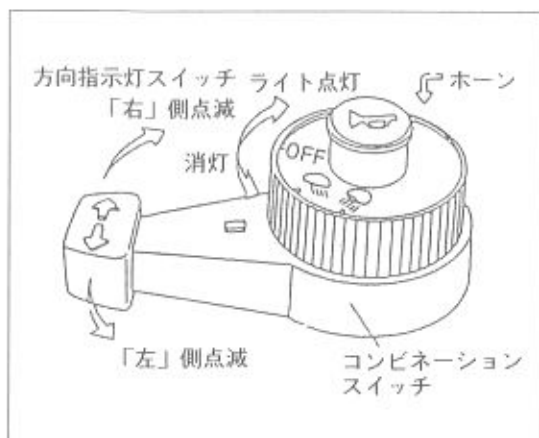
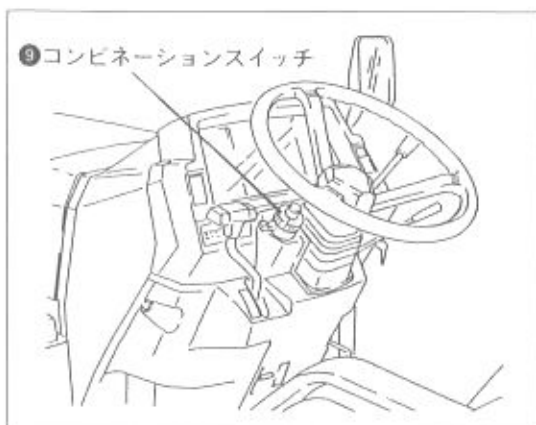
エンジン運転中、エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止をしているとき、スタートスイッチを《ON/OFF》位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

取扱いのポイント


- 運転中にエンジンオイルランプが点灯したときは、エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(29, 30, 89ページ参照)
オイル量が正規であれば、ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。


9 コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

《OFF》……消灯

《》……メータ類ランプ点灯及び
前照灯下向点灯

《》……メータ類ランプ点灯及び
前照灯上向点灯



(2) ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。



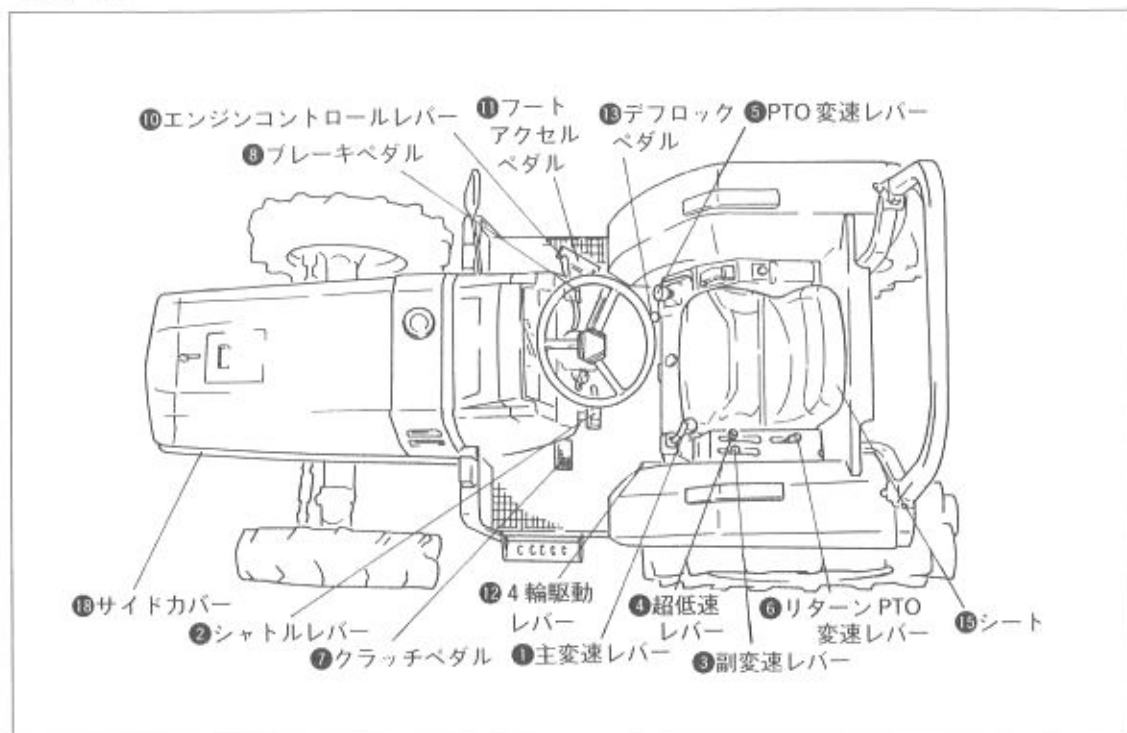
(3) 方向指示灯スイッチ

右折、左折のとき使用します。

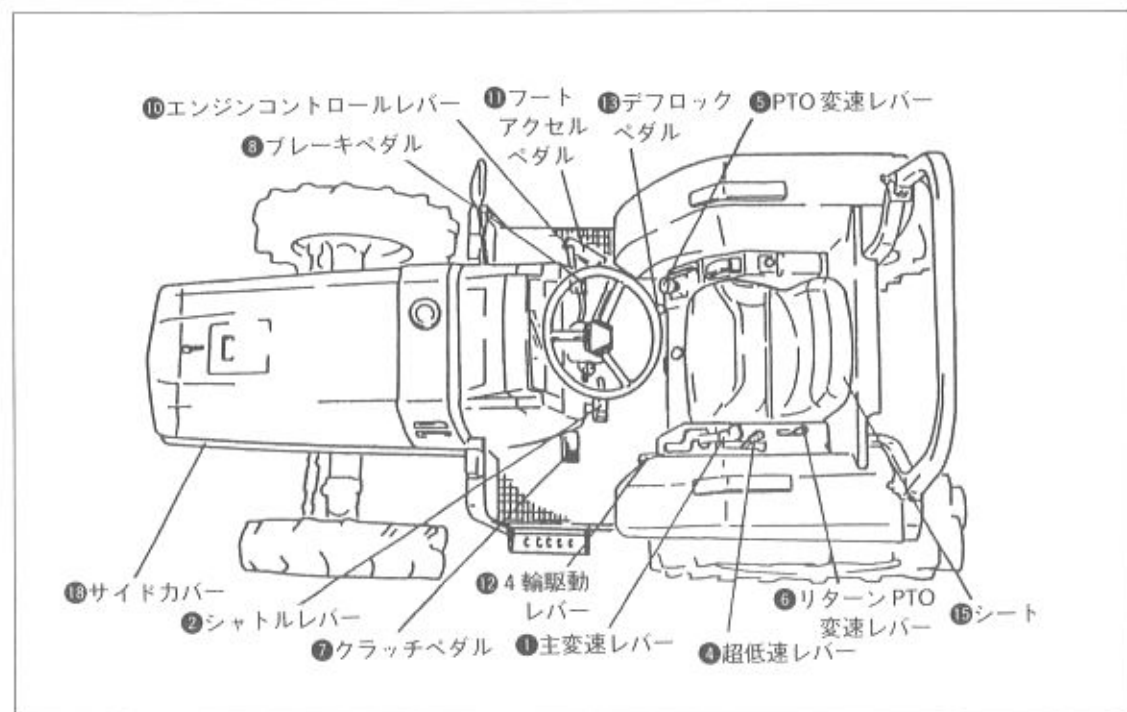


2 レバー、ペダル、シート関係

[標準機]



[バルシフト装備機]



取扱いのポイント

- パルシフト装備機は、主変速とシャトル変速がノークラッチで変速できますが、他の変速レバーは、標準機と同様にクラッチペダルを踏んで変速してください。

	変 速 方 法	
	ノークラッチ変速	クラッチペダル操作
主変速レバー	可能	可能 (併用可)
シャトル変速レバー	可能	可能 (併用可)
超低速レバー	不可	可能
PTO 変速レバー	不可	可能
リターン PTO レバー	不可	可能

① 主変速レバー

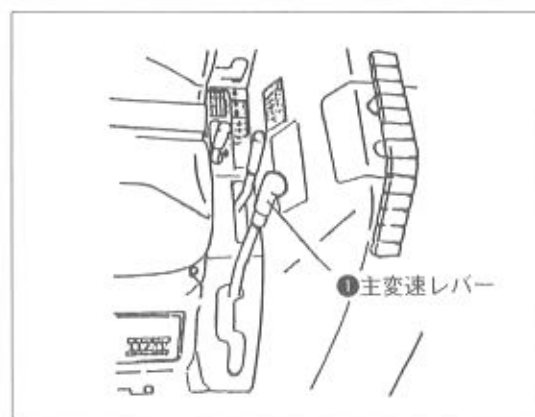
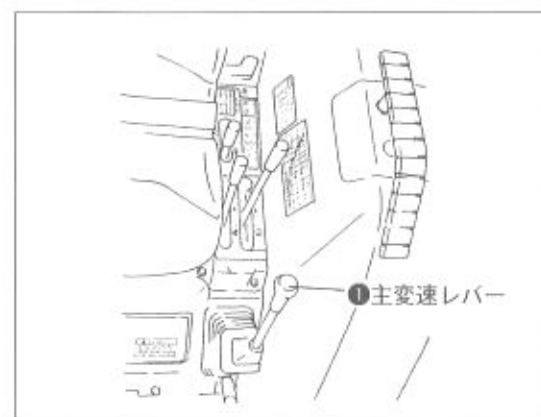
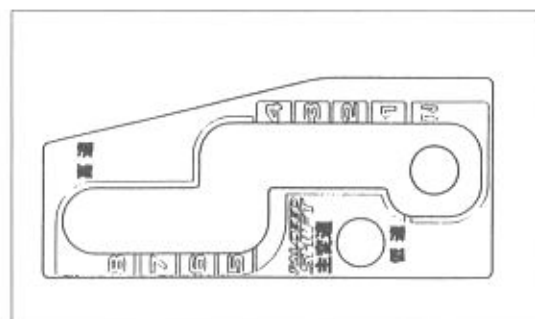
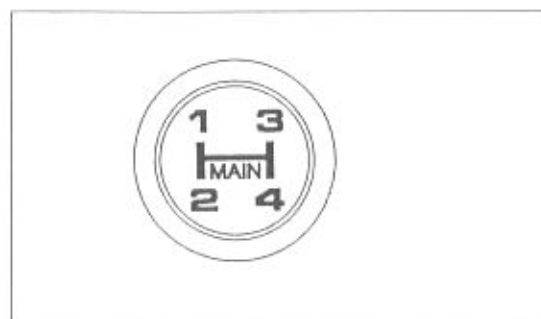


〔標準機〕

4 段の変速位置があります。副変速レバー・超低速レバーと併せて、16段の変速ができます。

〔パルシフト装備機〕

8 段の変速位置があります。超低速レバーと併せて、16段の変速ができます。

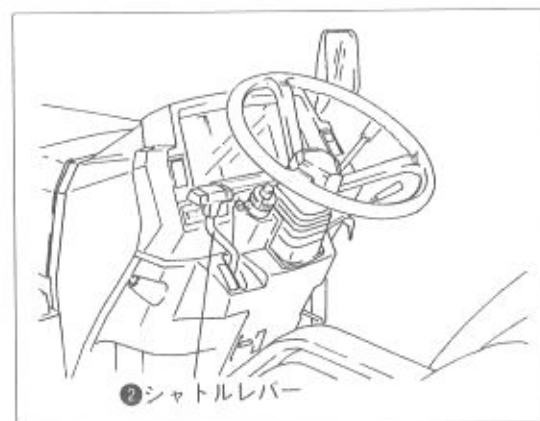
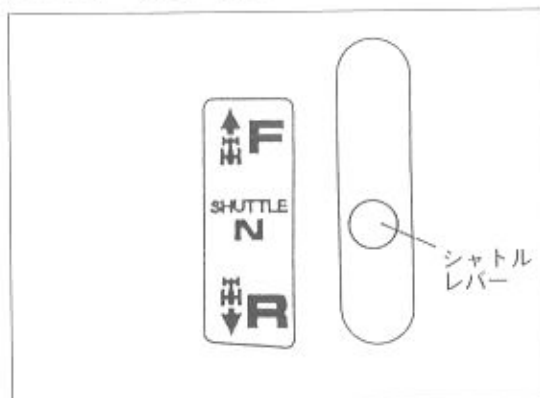


② シャトルレバー

安全のポイント

◆後進は、エンジンの回転を下げて、後方を確認してから行なってください。

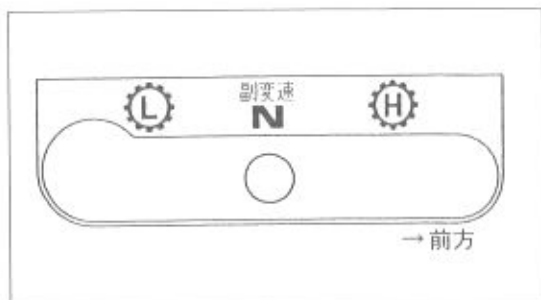
前進、後進の切換えができます。レバー位置は前側が前進、後側が後進となっています。



③ 副変速レバー [標準機のみ]

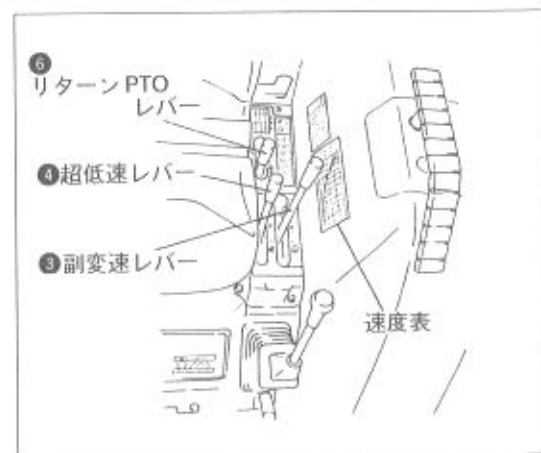
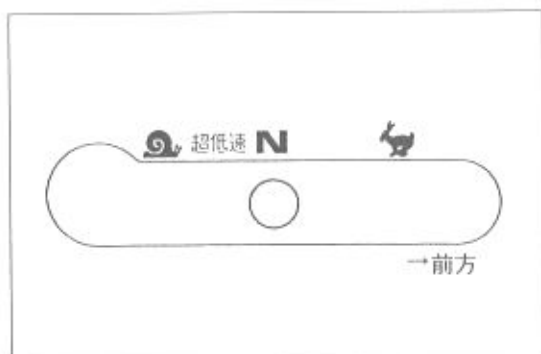


H (高速), L (低速) 2段の変速位置があります。



④ 超低速レバー [標準機]

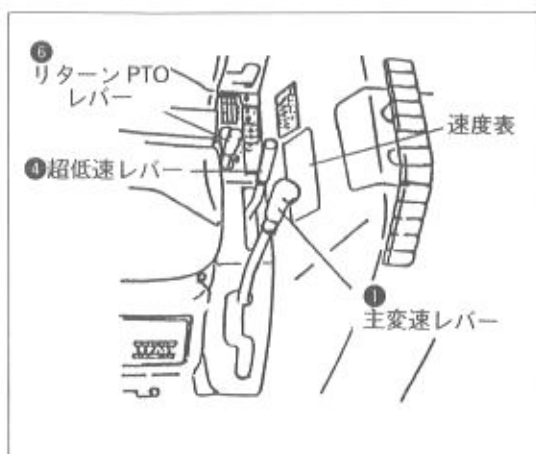
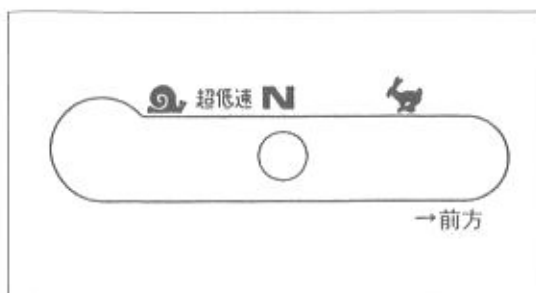
《>》(高速)と《<》(低速)の2段の変速位置があります。



[パルシフト装備機]

《》(高速)と《》(低速)の2段の変速位置があります。

変速時はクラッチペダルを踏んで走行が完全に停止してから変速します。

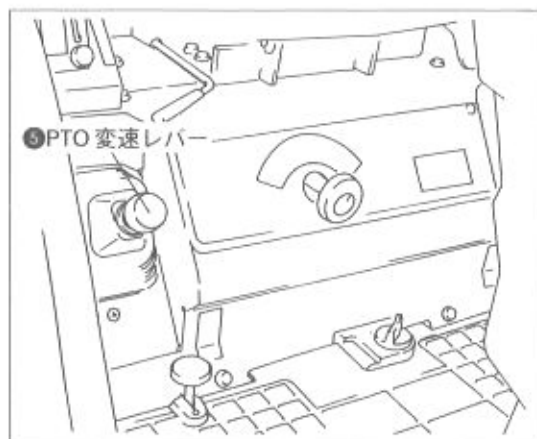


取扱いのポイント

- 主変速、副変速、超低速レバーの各々の位置での車速はフェンダ(左)に貼り付けてある速度表をご覧ください。(作業速度とPTO回転速度は43、44ページ参照)

⑤ PTO 変速レバー

PTO 軸の回転速度を4段に変速できます。



⑥ リターン PTO レバー

PTO 軸の回転方向を正転と逆転に切換えます。

PTO 変速レバーと合わせて正転4段・逆転4段の変速ができます。



取扱いのポイント

- PTO 変速レバー、リターン PTO レバーの操作は作業機(ロータリ等)を上げた後、クラッチペダルを踏込んで、PTO 回転が停止してから行ってください。入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度、クラッチペダルを踏み直してから操作をします。

7 クラッチペダル

- ペダルをいっぱい踏込むと、クラッチが切れます。
- エンジン始動、変速、停止のとき踏込みます。



7 クラッチペダル

取扱いのポイント

- クラッチペダルを踏込む時はす早く踏み込み、離す時はゆっくり離してください。
- 安全上、始動安全スイッチが装備されており、ペダルを踏込まないと始動できないようになっています。

8 ブレーキペダル



安全のポイント

- ◆ 道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業、フロントローダ装着時等は連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転、衝突、転落等の事故になることがあります。

- 左右のペダルに分かれており、連結板をはずして左のペダルを踏むと左後輪に、右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。
- 左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと、左右の後輪にブレーキがかかります。



取扱いのポイント

- 運転時は、クラッチペダル、ブレーキペダルから足を離してください。足を乗せたまま運転すると故障の原因となります。
- 停止する場合は、ブレーキペダルと同時にクラッチペダルも踏込みます。

P

9 駐車ブレーキレバー



安全のポイント

- ◆ 駐車・停車時には、左右のブレーキペダルを連結して駐車ブレーキレバーをかけてください。

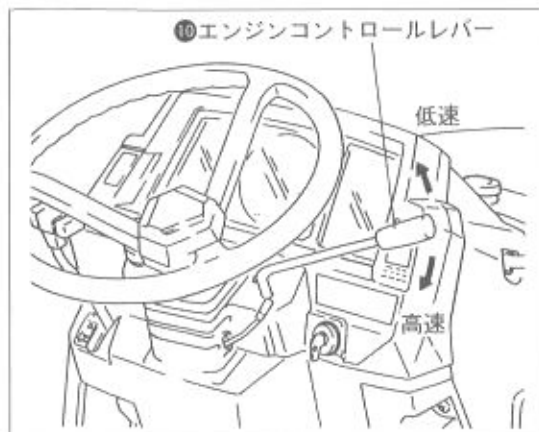
- 左右のブレーキペダルを連結し、駐車ブレーキレバーを下方に押えながらブレーキペダルを強く踏み込み駐車ブレーキをかけます。
- 駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。



⑩ エンジンコントロールレバー

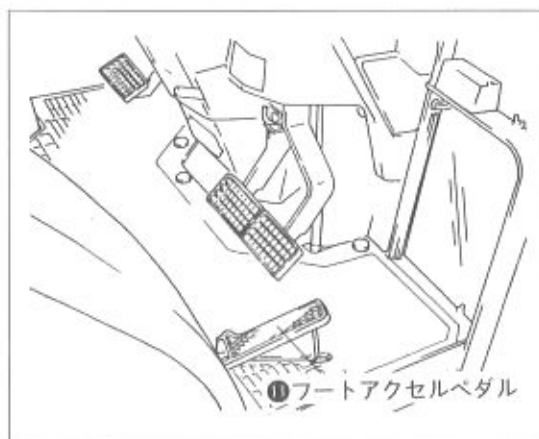


レバーを手前に引けば高速となり、前方へ押せば低速となります。



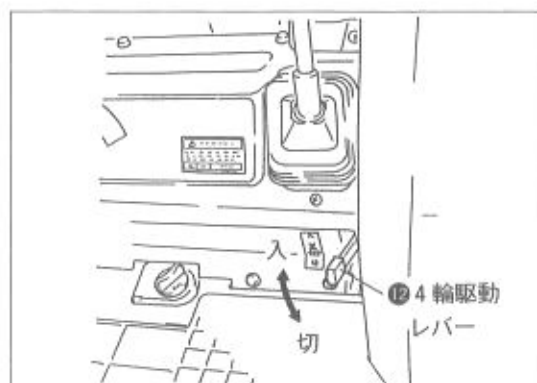
⑪ フートアクセルペダル

・道路走行に使用します。この時、エンジンコントロールレバーは低速にしておきます。



⑫ 4輪駆動レバー

4輪駆動レバーを上方に引上げると前輪駆動が入ります。



4輪駆動にすると、次のような場合に威力を発揮します。

- (1) 傾斜地、湿田、トレーラ、フロントローダ、ブラウ作業時でけん引力を必要とする場合。
- (2) 砂地で作業をする場合。
- (3) 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- (4) ほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積降ろしを行う場合。



取扱いのポイント

- 4輪駆動レバーを操作するときは、クラッチペダルを踏込んで行なってください。
- トラクタ単体での平坦な路上走行時は、タイヤ摩耗防止のため、4輪駆動レバーを《切》にし、走行します。

13 デフロックペダル



安全のポイント

◆自動車への積み積降ろしおよび道路走行するときは、デフロックを使用しないでくださいまたデフロックが外れていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり思う様に旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると、思わぬ事故になることがあります。

- ・ペダルを踏むと左右の後輪が同じ回転になります。
- ・片側車輪がスリップするときに使用します。
- ・ペダルから足を離すと外れます。はずれない場合はクラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏めば外れます。



取扱いのポイント

- ◆片側のタイヤが空転しているときはデフロックペダルを踏んでもデフロックが入らないことがあります。この場合は一度クラッチを切ってから行ってください。

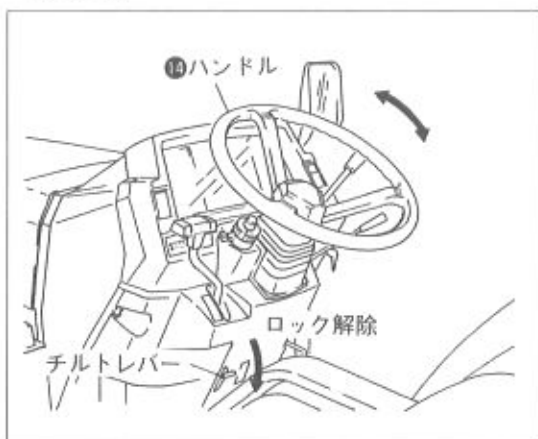
14 チルトハンドル



安全のポイント

◆ハンドルの角度を変えた時は、チルトレバーが上方に戻り、ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。

- ・チルトレバーを押し下げると、ハンドルの角度を前後3段階に変えることができます。
- ・レバーから手を離すとハンドルはロックされます。



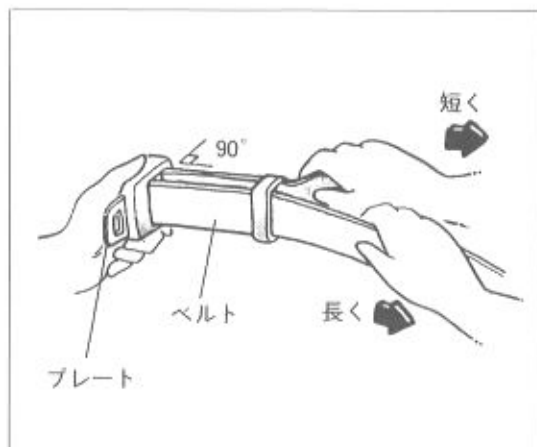
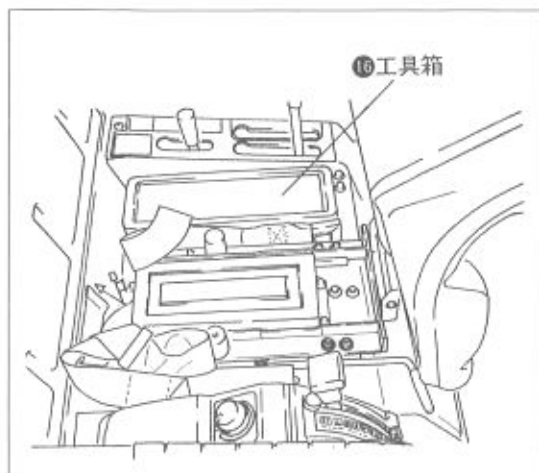
15 シート

シートの前後位置がシート調節レバーで5段階に調節できます。



16 工具箱

工具箱はシート下の左側にあります。



(2) 長さの調整は、ベルトをプレートと直角にして行います。ベルトが着けたときに腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。

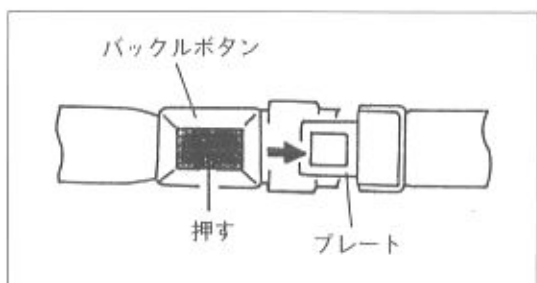
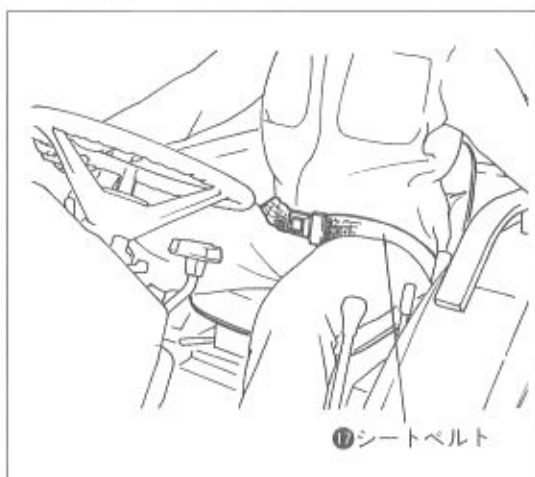
(3) シートベルトを外すときはバックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておきます。

17 シートベルト

安全のポイント

◆安全フレームをおこして使用するときは、シートベルトをしてください。

◆安全フレームをたおして使用するときは、シートベルトはしないでください。（19ページ参照）



(1) シートベルトがねじれないようにして、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。

18 サイドカバー

左右のサイドカバーは、カバー中央部のノブを回してフックを解除し、カバーの下方両端を手前に引いた後、持上げるようにして外します。



2 安全フレームの取扱い

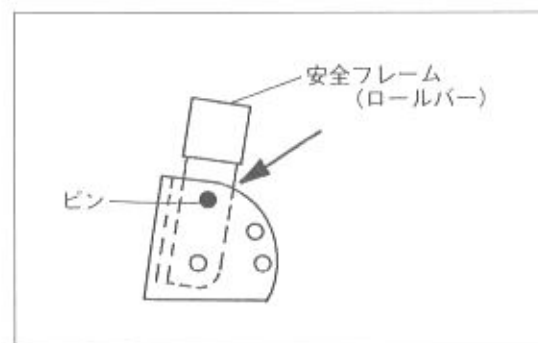
① 安全作業について

安全で快適な農作業をしていただくために、下記のことを守って行います。あわせて「安全作業をするために」の項をよく読み正しい取扱いをします。



安全のポイント

◆安全フレームは、トラクタが転倒した時に身を守るものですから、安全フレームを「おこして」矢印の位置にピンをセットして使用してください。



◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトを締めてください。

◆安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行ってください。

◆高さ制限のある屋内、果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおして行うことが

できますが、この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトは締めないでください。

◆たおして使用するときには、フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり最大高さまで上げて確認してください。

◆安全フレームに別部品を溶接したり、穴をあける等の改造はしないでください。

◆万一、事故により安全フレームが変形した場合は、新しい部品と交換してください。

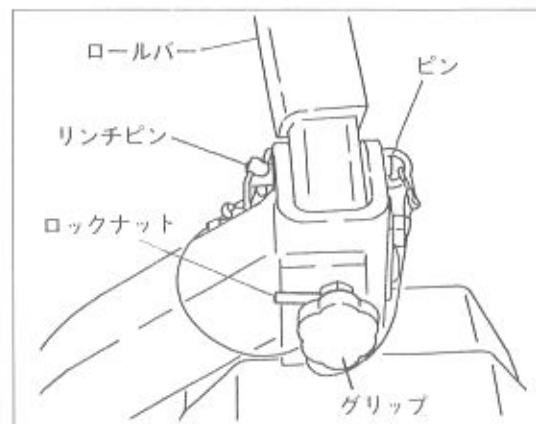
◆交換部品は、純正部品を使用してください。ボルト、ナットは適正な工具を使用して下表のトルクで締めつけてください。

サイズ	M10	M12	M14
締めつけトルク (kgf・m)	4.0	8.5	15.0
	~4.5	~9.5	~17.0

② 安全フレームのたおしかた・おこしかた

安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは、次の要領で行います。

① たおしかた

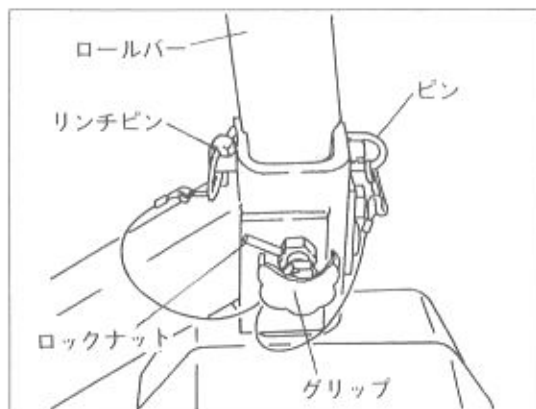


(1) リンチピンを抜きます。

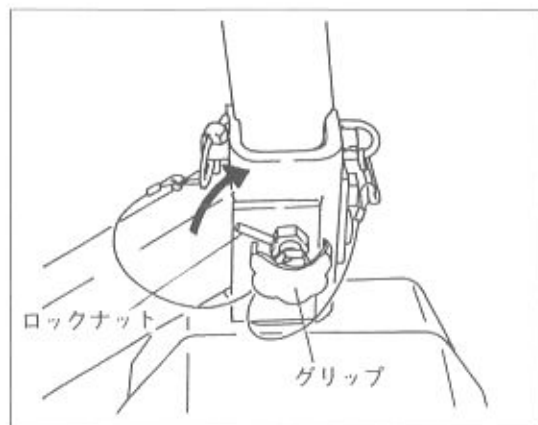
(2) ロックナットをゆるめ、ピンが手で抜けるまでグリップをゆるめます。

- (3) 反対側も同様にリンチピンを抜き、ロックナットとグリップをゆるめます。
- (4) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (5) ロールバーを後方にたおした位置で左右のピンを差込みます。
- (6) 左右のリンチピンを差込みます。

② おこしかた

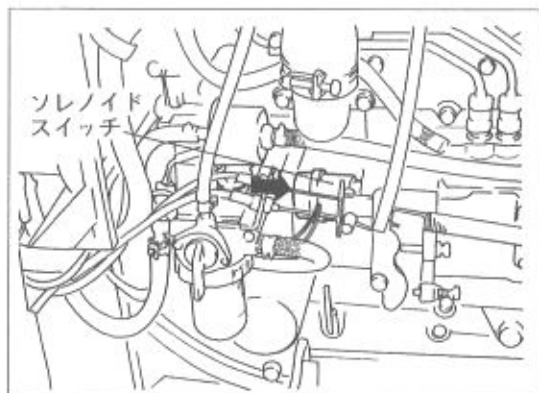


- (1) 左右のリンチピンを抜きます。
- (2) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (3) ロールバーを前方におこして直立にした位置で左右のピンを差込みます。
- (4) 左右のリンチピンを差込みます。
- (5) グリップをいっぱい締めます。
- (6) ロックナットをいっぱい締めておきます。
- (7) 反対側も同様にグリップとロックナットをいっぱい締めておきます。



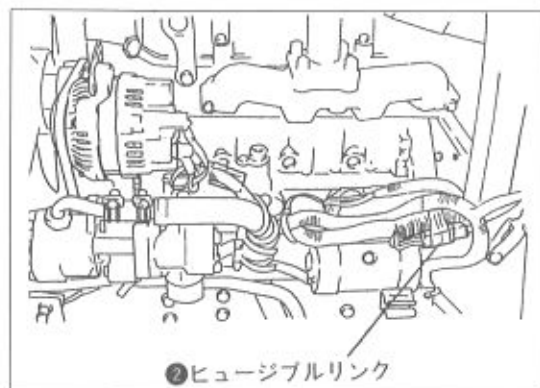
取扱いのポイント

- ヒューズが溶断しているときは、原因を調べ修理後、スペアのヒューズ（指定容量）と交換してください。針金などで代用しないでください。
- バッテリーが上がったり、ヒューズA、Eが溶断した場合はキー切り停止が効きません。その場合はボンネットを開けソレノイドスイッチを押せば止まります。



② ヒューズブルリンク

ヒューズブルリンクが溶断しているときはすべての電気系統が作動しません。



取扱いのポイント

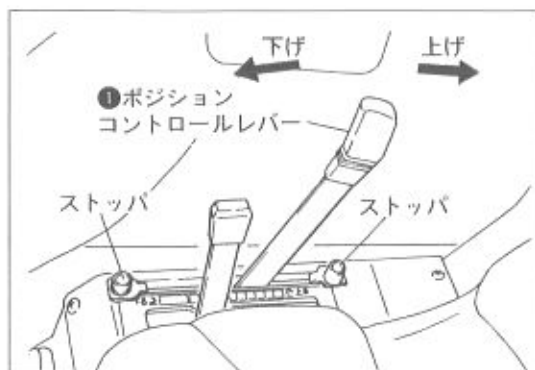
- ヒューズブルリンクが切れた場合は、切れた原因を調べ修理後、純正部品のヒューズブルリンクと交換してください。

4 油圧装置の取扱い

① コントロールレバーの操作 (標準機)

この油圧装置にはポジションコントロールレバー及びPACレバーを備えています。

マイコン装備機については「マイコン装備機の取扱い」の項(51ページ)を参照して操作します。



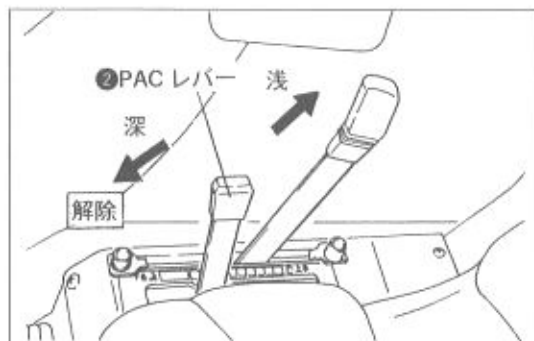
① ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーは作業機的位置が自由に決められ一定に保たれます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。

- ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。
- ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると、作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。

- 作業機を一定の高さに保ちたい場合は、「ストップ」を任意の位置に固定しポジションコントロールレバーの位置を決めることにより、作業機の上げ・下げの位置は同じになります。

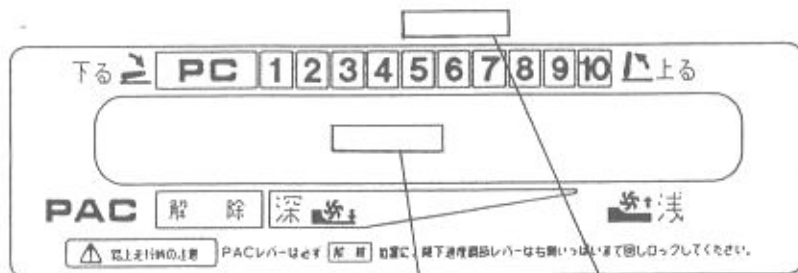
② PACレバー (耕深自動調節)



PACレバーは、ロータリ耕うん作業において耕深を自動調節します。

ロータリの耕深をレバーで検知して、自動的に油圧を作動させ、耕深を一定に保持します。PACレバーを使用する場合は、次のように操作します。

- ポジションコントロールレバーを《下げ》位置にします。ロータリは自重で下がります。
- PACレバーを操作して任意の位置にセットすると、ロータリの耕深を一定に保つことができます。PACレバーを前方にするほど耕深は《深》く、後方にするほど《浅》くなります。



前方 ←

PACレバー

ポジションコントロールレバー

- ・ポジションコントロールレバーでロータリを上げ・下げをします。ポジションコントロールレバーを下げて耕うんすると、PACレバーでセットしている耕深が維持できます。

取扱いのポイント

- ロータリのフラップカバー位置が《代かき》状態のときは、PACレバーは《浅》方向にしてください。
- ほ場移動するときはロータリを上げてPACレバーを《解除》位置にしてください。

2 作業機降下速度の調節



安全のポイント

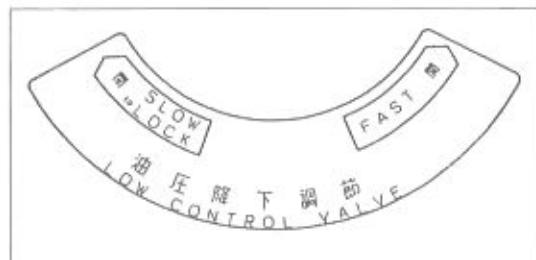
- ◆作業機を上げて、整備・点検・掃除を行う時は、エンジンを停止し降下速度調節グリップを《閉》にして、油圧をロックしてください。ポジションコントロールレバーを《下る》の方向に動かして、作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。
- ◆道路走行時は降下速度調節グリップを《閉》位置にしてください。



- ・降下速度調節グリップはシートの下にあります。
- ・降下速度調節グリップを回すことにより調

節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す《閉》	遅くなる
左に回す《開》	速くなる
右に軽く締込む	ロックされる



- ・作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。
 - ロータリ作業…降下速度を遅く
 - ブラウ作業…降下速度を速く
- ・硬いほ場でのロータリ作業では、普通の場合より降下速度を遅くすると飛び出しにくくなります。
- ・軟らかい土質又は砂地では降下速度調節グリップを《開》の方向にして飛び出ししない程度、速くします。

③ フロントローダの取扱い (オプション)

① フロントローダ



安全のポイント

- ◆フロントローダ使用の場合は、ダイヤクイックターンは使用しないでください。バランスがくずれ横転や傷害事故の恐れがあります。(ダイヤクイックターン装備機)

フロントローダの油圧取出しは、センタケース右側のブロック下側のメクラ栓(2個)を外し、Nポート側(後側)に六角穴付き止めネジをネジ込み、コネクタとホースを取付けます。

装置、取扱いの際はフロントローダの取扱説明書に従って行います。

取扱いのポイント

- フロントローダを装着する時は購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。
- フロントローダを使用される場合はトラクタのポジションコントロールレバーをリリーフ位置にしないでください。
リリーフ位置にした場合、フロントローダが作動しなくなり油圧トラブルの原因となります。
- フロントローダ以外で作業機側でコントロールバルブを準備している場合はこの油圧取出口を利用してください。但し、フロントローダとの共着はできません。
- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を2.5kg/cm²にしてください。

② 重量バランスの取り方

フロントローダを取付けたときは、バランスをよくするためロータリを取付けます。



ロータリはいっぱい上げて降下速度調節グリップを《閉》位置にし、油圧をロックしてロータリが下らないようにします。



4 パワーステアリングの取扱い



安全のポイント

- ◆下り坂でエンジンを停止しないでください。また、走行中エンジンが停止したときは、すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり、ハンドルが重くなり、衝突・転落等の事故になることがあります。
- ◆ハンドルをいっぱいに切ると安全弁が働きリリース音が出ます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったまま運転しないでください。
- ◆長時間、機械を放置したり、油温の冷えた状態でエンジンをかけないで他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を5 km/h以下としてください。
- ◆シリンダ部のホースは「2年ごと」に交換してください。

このトラクタは、全油圧形パワーステアリングが装備されています。従来形のパワーステアリングに比較し、操作感覚が少し異なりますので、以下の内容を理解してから運転します。

- ① ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので、いっぱいに切った後でも、力を加えることにより更にハンドルは回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため、必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにします。(リリース圧力以上の過大出力で装置の寿命を縮める原因となります。)
- ② ハンドルを切ったときのみ車輪が切れますので、旋回から直進に移るときも、ハンドルを回して直進に戻します。

- ③ 高速走行時は、ハンドルが軽く感じますので、急にハンドルを切らないようにします。
- ④ エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

他車にけん引してもらう場合は速度を5 km/h以下で行います。

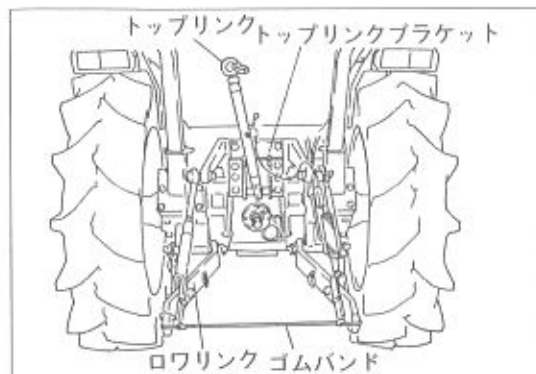
取扱いのポイント

- フロントローダ作業ですえ切りができないときには荷を軽くするか、前後に動く操舵できます。
- 寒冷地等で始動時異音が発生し、使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時、油圧系から異音がする場合、油圧回路に空気が入っていることがあります。5秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けますので、異音はしなくなります。それでも音が止まらないときは「お買いあげ先」にご相談ください。

5 3点リンクの取扱い

1 トップリンクの取付け (オプション)

トップリンクブラケットにトップリンクのボール幅が広い方を取付けます。



2 作業機を取付けないときの注意

- ① トップリンクを外します。
- ② 左右のロワリンクをゴムバンドでつなぎ振れ止めをします。

3 ドローバ (オプション)



安全のポイント

- ◆けん引作業をするときは、純正ドローバを使用し、ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。
- ◆ドローバは、横方向へは引かないようにしてください。横方向では、ドローバが外れたり、フレームが曲がる恐れがあります。
- ◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。(48ページ参照) 最小輪距では、左右のバランスが不安定になり転倒することがあります。

- ・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し、無理なけん引は避けます。
- ・けん引作業をする場合は、ドローバを利用します。他の所を利用してけん引すると転倒することがあります。

(装着の際はドローバの取扱説明書に従って行います。)

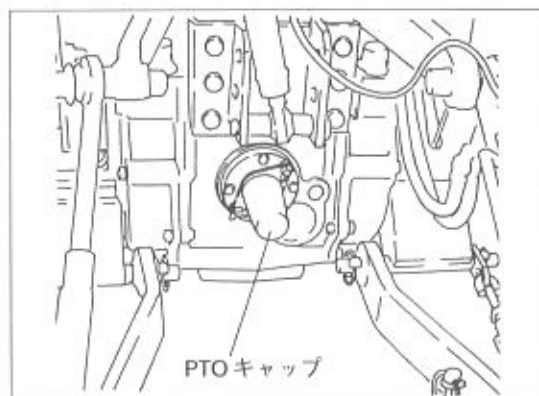
4 PTO キャップ



安全のポイント

- ◆PTO 軸を使用しない時は、PTO キャップを取付けてください。PTO キャップを取付けずに作業をすると巻き入れによる傷害事故を引き起こす恐れがあります。

PTOを使わないときは、PTO 軸にグリスを塗布し、PTO キャップを取付けておきます。



5 ロータリの取付け

ロータリの取付けは「ロータリ取扱説明書」をよく読んでから行います。

上手な運転のしかた

1 運転まえの点検と準備

1 給油・注油・給水・給脂個所

・出荷のときは各給油個所とも、オイル等は入っていますが、作業するまえに点検します。

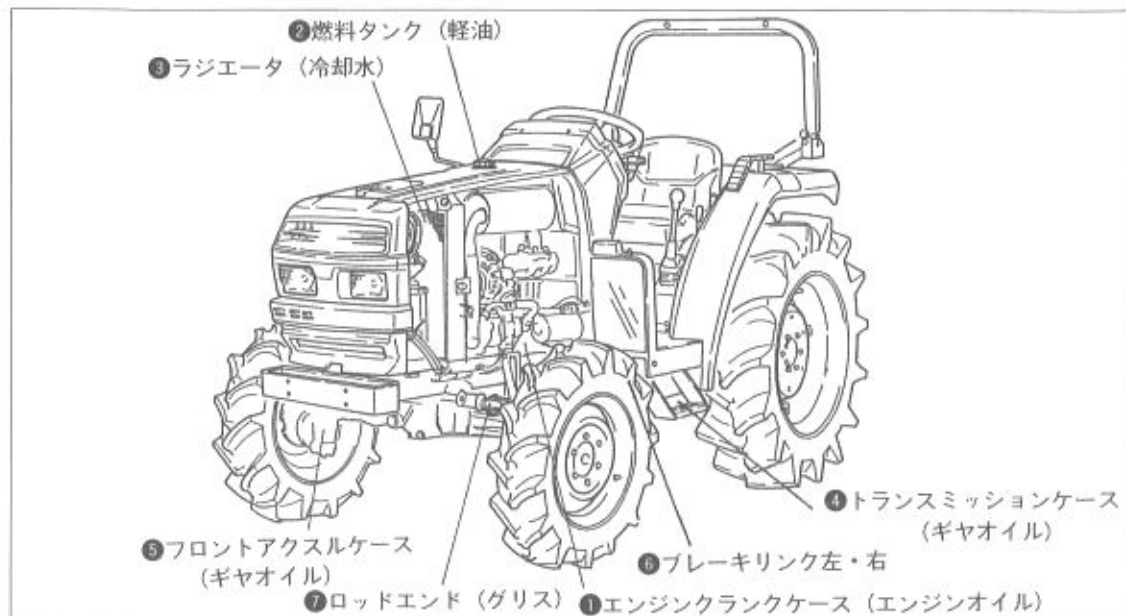


安全のポイント

- ◆給油・注油・給水・給脂するときには、機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけて、作業機を降ろし、エンジンを停止してから行なってください。
- ◆燃料ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し、もれている場合は、火災の原因となりますので交換してください。
- ◆エンジン回転中や停止直後のエンジンの熱いときの燃料補給はしないでください。
- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し、火災の原因になります。
- ◆燃料補給した後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆ラジエータキャップの取外しは、エンジンが冷えてから行なってください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却するときは、廃却設備のある所で廃却処理してください。

取扱いのポイント

- 各給油個所には、指定オイルを規定量給油してください。
- オイル交換は、オイルが暖かいうちに行うと容易にできます。



2 給油・注油・給水表

No	油種(水)	給油・注油・給水箇所	個所数	容 量	交 換 時 間
①	エンジン オイル	エンジン クランクケース	1	4.5ℓ	作業前点検・100時間ごと 交換(新車時50時間で交換)
②	軽 油	燃 料 タ ン ク	1	28ℓ	作業前点検(必要量補給)
③	水	ラ ジ エ ー タ	1	6.4ℓ	“(”)
④	ギヤオイル ※1	トランスミッション ケ ー ス	1	41ℓ	初回100時間, 後は200時間ごと交換
⑤	ギヤオイル ※2	フロントアクスル ケ ー ス	1	3.0ℓ	“
⑥	グ リ ス	ブ レ ー キ リ ン グ (左・右)	2	適 量	作業前点検・50時間ごと給脂
⑦	“	ロ ッ ド エ ン ド	4	“	“

- エンジンオイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CC級以上
- 燃 料……ディーゼル軽油 JIS2号(-10℃まで)
JIS3号(-10℃から-20℃まで)
JIS特3号(-20℃以下)
- ギヤオイル……純正油または※1……API分類GL-4級以上
※2……API分類GL-3級

※使用オイルの詳細は潤滑油の項(129ページ)を参照して使用します。

取扱いのポイント

- パルシフト装備機のトランスミッションオイルは、マルチSTOUオイルをお使いください。

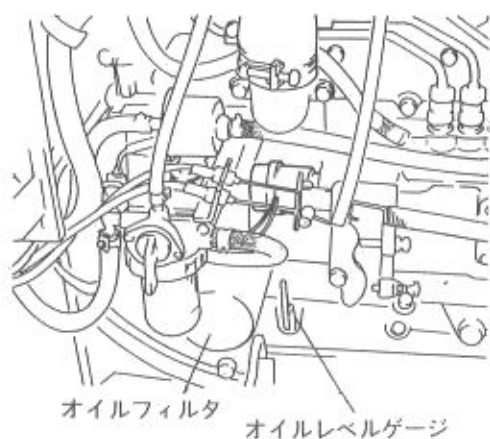
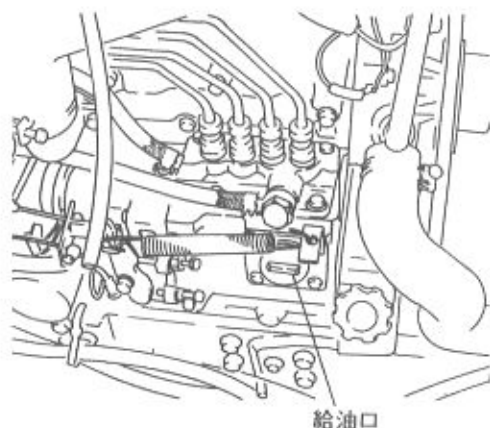
① エンジンクランクケース



- ・オイル……ディーゼルエンジン用オイル、CC級以上。

- ・オイル量……4.5ℓ

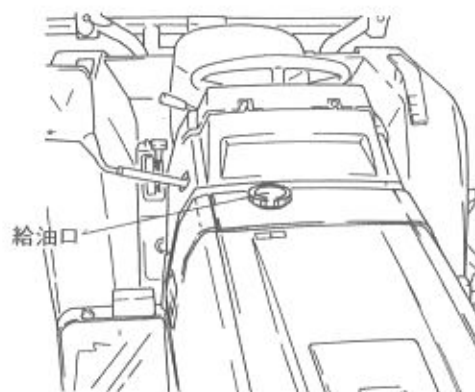
レベルゲージの刻み線まで給油します。



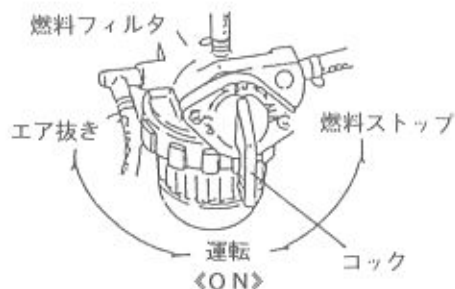
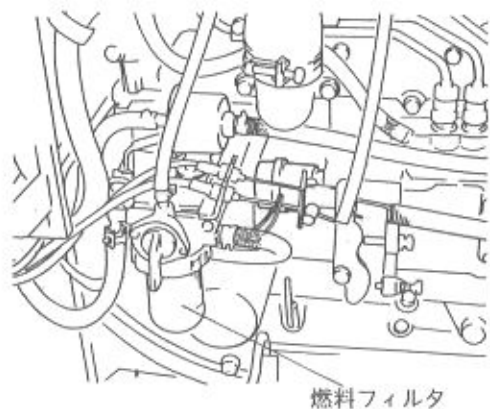
② 燃料タンク



- ・燃料……ディーゼル軽油
- ・タンク容量……28ℓ



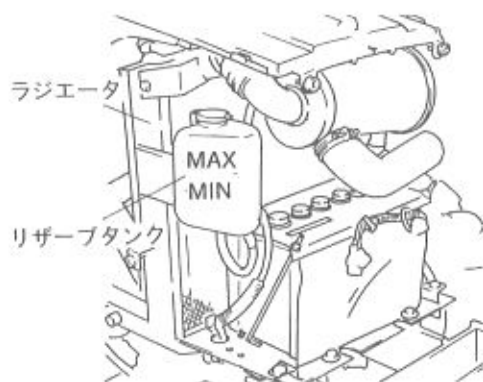
- ・燃料の供給はこし網を使用し、ゴミや水が混入しないようにします。
- ・燃料フィルタのコックを《ON》にします。



③ ラジエータ



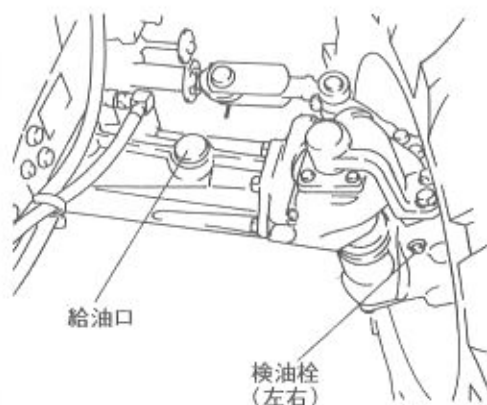
- ・冷却水……水
- ・容量……6.4ℓ
- ・リザーブタンクの《MAX》(上限), 《MIN》(下限)の間まで冷却水を給水します。



⑤ フロントアクスルケース



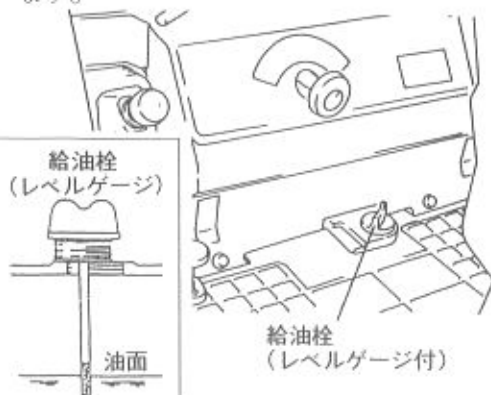
- ・ギヤオイル……API, GL-3級
SAE80
- ・オイル量……3.0ℓ
- ・左右の検油栓を外し, オイルを給油します。オイルが出たら栓を締めます。



④ トランスミッションケース



- ・ギヤオイル……API, GL-4級以上で湿式ブレーキ適正オイル。
- ・オイル量……4ℓ
- ・給油栓のレベルゲージ刻み線まで給油します。

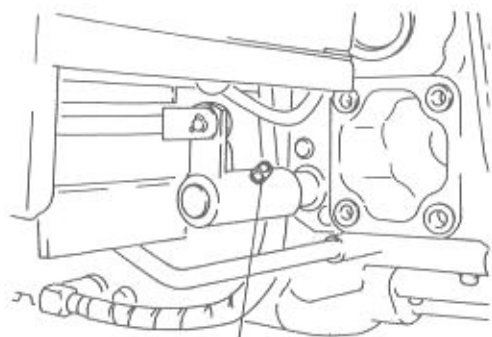


- ・給油はゆっくり行います。
- ・検油は給油後約5分間放置したのち行います。
- ・検油は, 給油栓を給油口にあてた状態で行います。

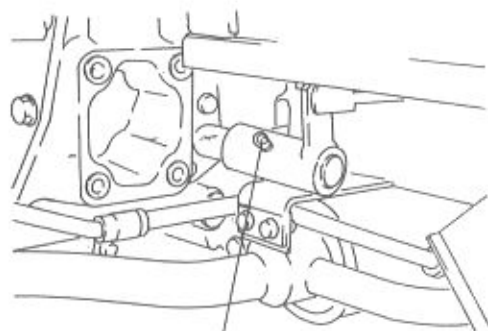
⑥ ブレーキリンク



- ・ グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



グリスニップル
(ブレーキリンク右)

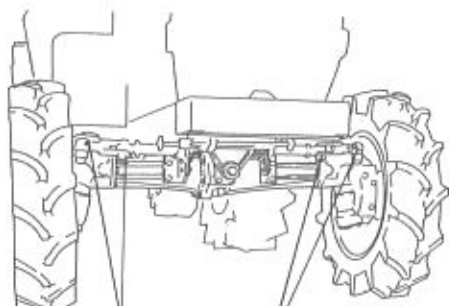


グリスニップル
(ブレーキリンク左)

⑦ ロッドエンド



- ・ グリスニップルよりグリスを適量給脂します。(4個所)



グリスニップル

グリスニップル

2 運転操作のしかた

- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけます。
- 点検などで取外したすべてのカバーをセットして安全フレームをおこします。
- ステップの左側から乗降します。
- シートに座り、シートベルトをします。

1 エンジンの始動

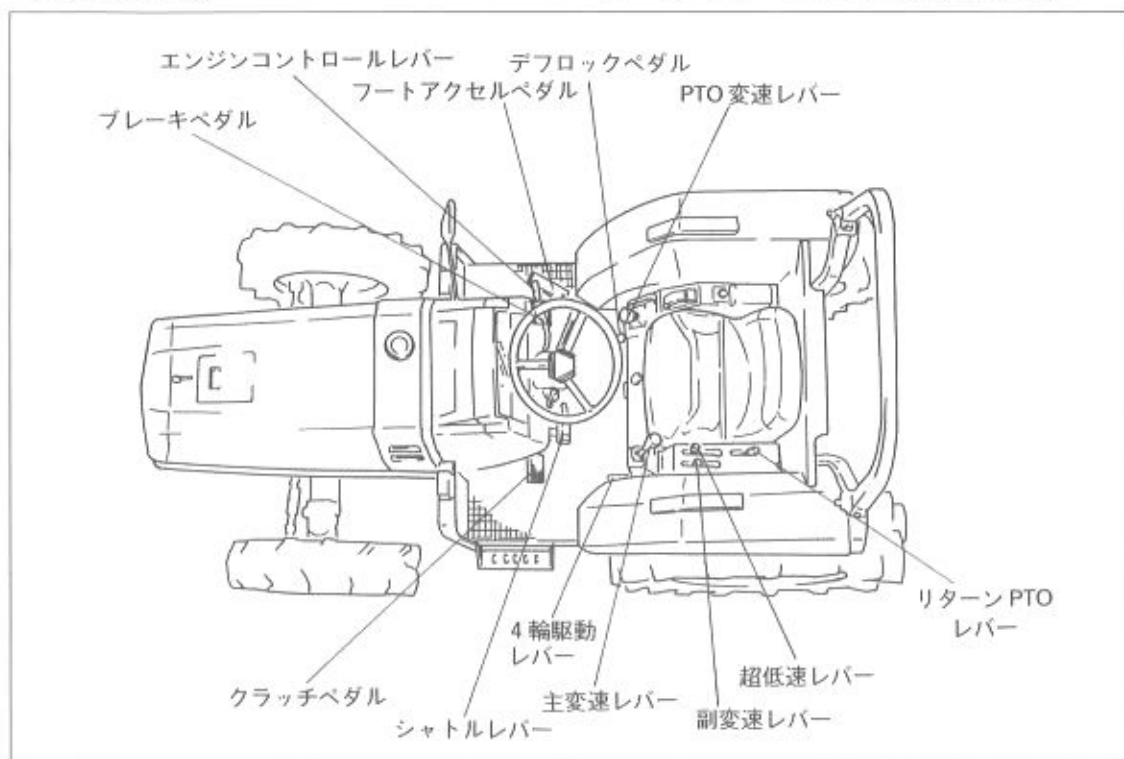



安全のポイント

- ◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
- ◆トラクタに乗車する前に、トラクタの外周を見て回り、異常がないことを確認してください。
- ◆主変速、PTO 変速レバーを中立にし、駐車ブレーキをかけてから、エンジンを始動してください。

- ◆エンジンの始動、発進するときは、周囲の人に気づきをトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
- ◆エンジンの始動はシートに座ってから行なってください。
- ◆トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。
- ◆暖機運転は主変速、PTO 変速レバーを中立にし、駐車ブレーキをかけてから行なってください。

- ① 左右のブレーキペダルを連結し駐車ブレーキをかけておきます。
- ② 主変速レバー、PTO 変速レバーを中立にします。
- ③ エンジンコントロールレバーを手前にいっぱいに引きます。
- ④ クラッチペダルをいっぱい踏込みます。
- ⑤ スタートスイッチを《ON 00》にするとエンジンオイルランプ、チャージランプ、グロウインジケータランプが点灯します。



⑥ グローインジケータランプが消灯してから、スタータスイッチを《 START》位置にします。

⑦ 始動したら、ただちにスタータスイッチより手を離します。キーは自動的に《ON/OFF》の位置に戻ります。

⑧ エンジンオイルランプ、チャージランプが消えれば正常です。消えないときは、すぐエンジンを停止して点検します。

⑨ エンジン回転を約1500回転にして暖機運転します。(約5分間)




⑩ 寒冷時の始動

・下表のエンジンオイル、燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

(エンジンオイル、冷却水を一度別の容器で暖めれば始動が容易になります。)

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジン オイル	SAE10W-30		SAE20		SAE30
燃料 (軽油)	JIS 特3号	JIS 3号	JIS2号		

取扱いのポイント

- 走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないと、エンジンは始動しません。
- エンジンが暖まっているとき、および気温の高いとき(夏期)は《》(停止)から直接スタータスイッチをまわしてエンジンを始動してください。
- スタータはエンジンが少しでも回転しているときは、使用しないでください。故障の原因となります。
- 始動操作を繰返した場合、グローインジケータランプは点灯しません。またエンジン停止後、すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか、点灯時間が短いことがあります。保護回路が作動するため、故障ではありません。

- 暖機運転は、寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると、エンジンの寿命を短くします。

[パルシフト装備機]

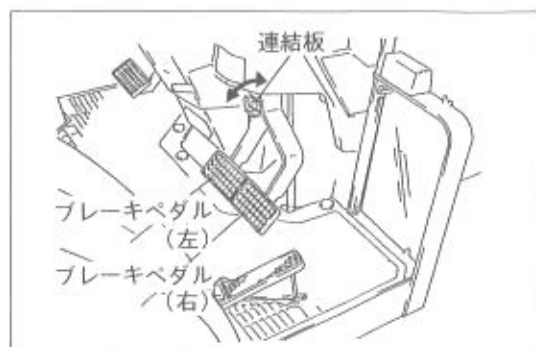
- パルシフト装備機は、油圧で変速していますので暖機運転を十分行なってください。
- 暖機運転中は駐車ブレーキをかけ、エンジン回転をアイドリングから《中速》回転にします。
- 主変速レバーを《中立》位置にし、シャトルレバーを《前進》または《後進》位置にし、油温が20℃以上になるまで暖機運転を行います。
- 暖機運転を行う時間がないときは、クラッチペダルを踏んで変速を行なってください。
- 寒い時には、発進が遅れたり、ギャ鳴りがすることがありますが、油温が上がると正常に動き出します。

2 発進のしかた

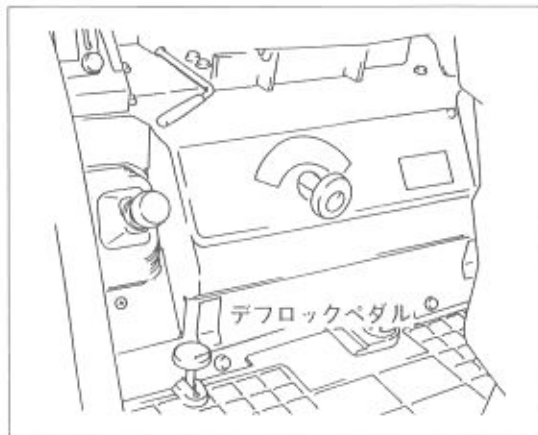


安全のポイント

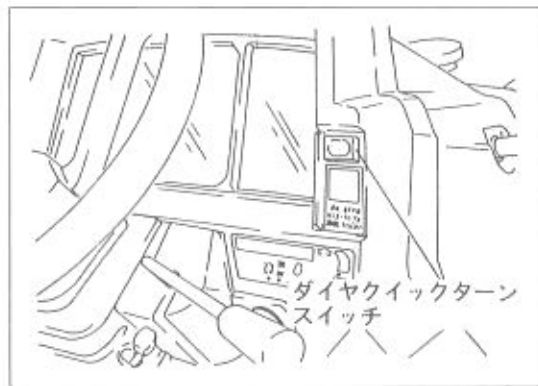
- ◆ 発進するときはクラッチペダルはゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。
- ◆ 左右のブレーキペダルは連結してください。



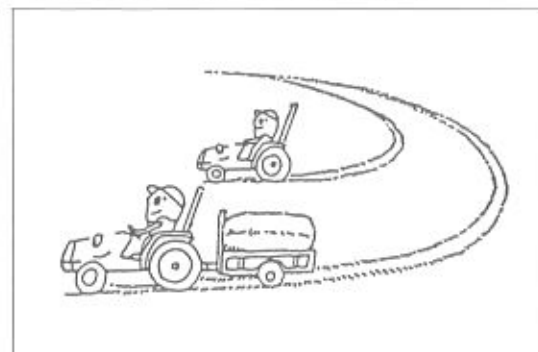
- ◆デフロックが外れていることを確認してください。



- ◆ダイヤクイックターンスイッチを切って走行してください。[ダイヤクイックターン装備機]

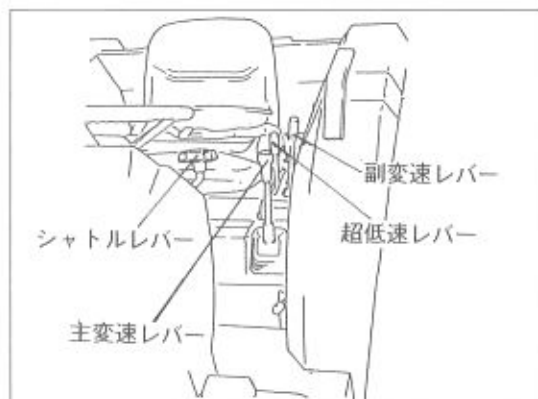


- ◆走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- ◆作業機を装着しているときは、周囲を確認し、ゆっくりと旋回してください。
- ◆高速で急旋回しないでください。エンジン回転を下げても旋回してください。



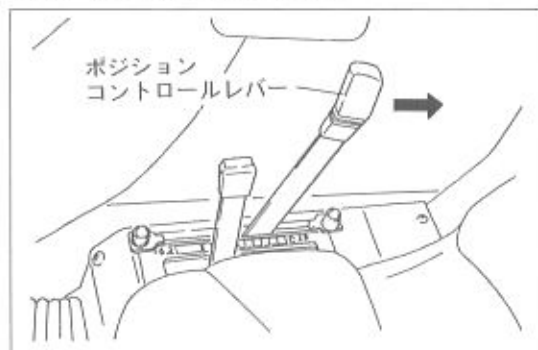
- ◆下り坂ではエンジnbrakeを使用してください。

主変速、副変速レバー、超低速レバー、シャトルレバーを《N》(中立)にしないでください。



[標準機]

- ① ポジションコントロールレバーを後方に引き、作業機を持上げます。



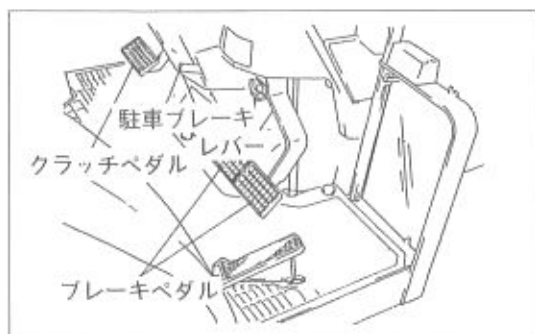
- ② エンジン回転を約1500回転位にします。
- ③ クラッチペダルを、いっぱい踏込みます。



- ④ 主変速レバー・副変速レバー・超低速レバー・シャトルレバーを所要変速位置に入れます。

取扱いのポイント

- 変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで、行なってください。
 - 変速が入り難い場合は、無理な操作をせず、もう一度クラッチペダルを踏み直してから変速操作を行なってください。
- ⑤ ブレーキペダルを強く踏込み、駐車ブレーキを外します。



- ⑥ クラッチペダルをゆっくり離して発進します。

【パルシフト装備機】

安全のポイント

- ◆ 急な坂道、車への積込み・降ろし作業、ほ場への出入り、あぜの乗り越えなどでは途中で変速すると変速が入らず、暴走する危険がありますので、あらかじめ安全な速度に変速しておいてください。
- ◆ トラクタから離れるときは、駐車ブレーキをかけてください。
坂道では変速を入れていても駐車ブレーキをかけないと、トラクタが動きだし傷害事故を起こすことがあります。

- ◆ トラクタで輸送する時は駐車ブレーキをかけロープで固定してください。

前項〔標準機〕の①～③項までの取扱い操作手順は〔パルシフト装備機〕も同じです。

- ① 超低速レバーを所要の変速位置に入れます。
- ② クラッチペダルをゆっくり離します。
- ③ ブレーキペダルを強く踏込み、駐車ブレーキを外します。
- ④ シャトルレバーを《前進》又は《後進》にします。
- ⑤ 主変速レバーを《1速》に入れるとトラクタが動き始めます。
- ⑥ 主変速レバーを1段ずつ変速して、希望する位置まで変速します。

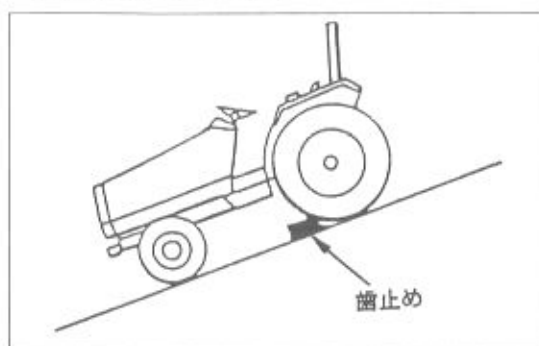
取扱いのポイント

- 主変速レバー・シャトルレバーはノークラッチ操作で変速することができますが、シャトルレバー操作は、いったん《中立》位置にして走行が停止してから操作してください。
- 一度に2段以上の急激なノークラッチ変速は避けてください。
- 緊急停止や、作業機の脱着時など微妙な走行が必要な時はクラッチペダルを使用してください。


③ 停止のしかた

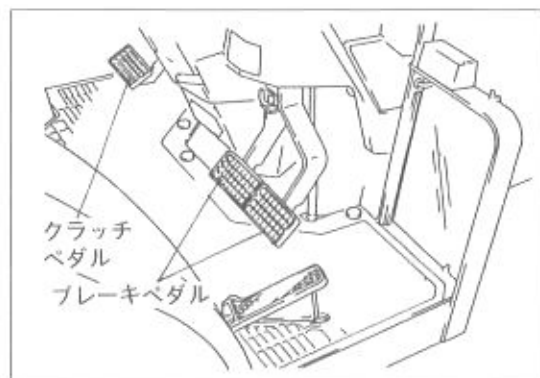


- ◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。
- ◆駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。
- ◆傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は、駐車ブレーキをかけ、変速レバーを低速に入ると共に後輪に歯止めをしてください。

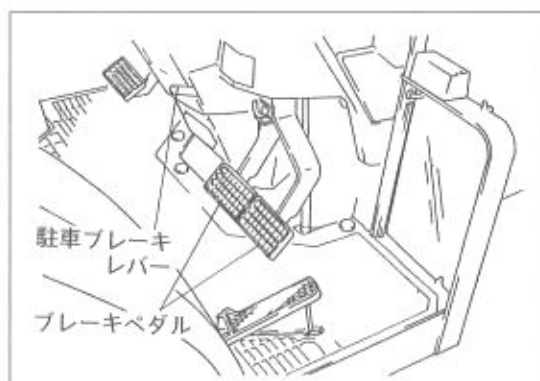



- ◆トラクタを停止するときは、乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると、火災の恐れがあります。
- ◆停車時、エンジンを空吹かししたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火する恐れがあります。
- ◆シートカバーは、エンジンが冷えてから掛けてください。エンジンが熱いうちに掛けると「火災」の原因になります。
- ◆トラクタを離れる場合は、キーを抜取ってください。

- ① エンジンコントロールレバーを  前方に押し、エンジンを低速回転にします。
- ② クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏んで停止します。



- ③ 左右のブレーキペダルが連結してあることを確認し、駐車ブレーキレバーを手前に引きながらブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキをかけます。ブレーキペダルより足を離します。




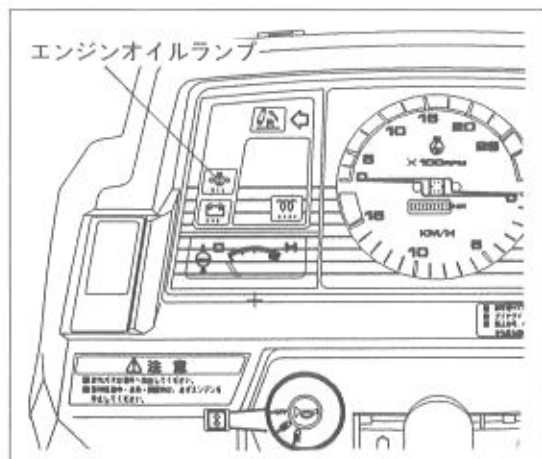
- ④ 主変速レバー、シャトルレバーおよびPTO変速レバーを《N》(中立)にしてから、クラッチペダルより足を離します。
- ⑤ 作業機をおろします。
- ⑥ スタータスイッチを《》(停止)にします。

取扱いのポイント

- 作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず、アイドリング回転で5分間ほど回転させてください。
- すぐ停止させますと、エンジンの冷却が悪くなり、寿命を縮めます。

4 エンジン自動緊急停止

- ・エンジンの油圧が何かの原因で規定圧より低下するとエンジンは自動的に停止します。その時「エンジンオイルランプ」が点灯しますので速やかにスタートスイッチを《》(停止)の位置にします。

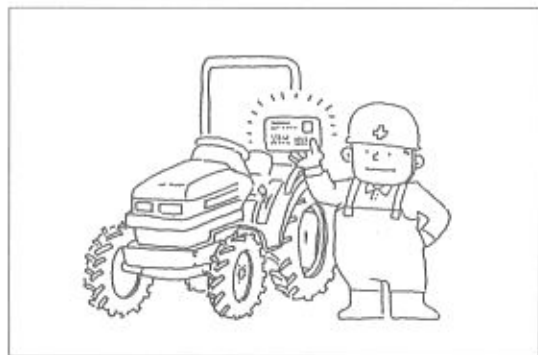


- ・自動緊急停止後、そのまま再始動するとエンジンは始動しますが、約2秒後再度停止します。この状態で始動すると始動後2秒間隔で停止をくりかえします。
- ・自動緊急停止した場合はエンジンオイルレベルまたはオイルフィルタを点検します。

5 走行のしかた



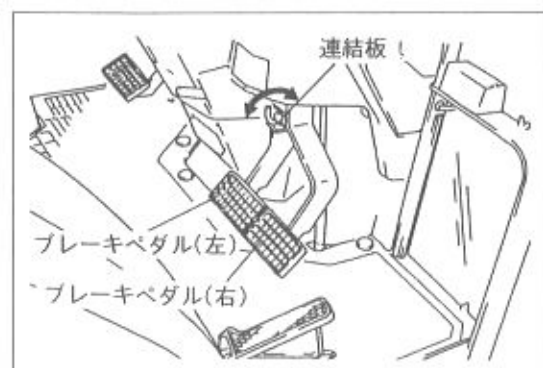
- ◆公道を走行するときは、運転免許証を携帯し、交通法規を守り、安全のためヘルメットを着用してください。



- ◆運転者の他に人や者を乗せないでください。
- ◆道路を走行するときは、左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引き起こすことがあります。
- ◆デフロックの解除を確認してください。
- ◆道路走行時には標準機はPACレバーを《解除》位置にしマイコン装備機はマイコン自動切替を《OFF》位置にして走行してください。
また、降下速度調節レバーを固定にして作業機の落下を防止してください。
- ◆ダイヤクイックターン装備機はダイヤクイックターンスイッチを「OFF」にしてください。ダイヤクイックターンが入っていると車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引き起こすことがあります。
- ◆安全フレームは、おこした位置で、シートベルトを締めて走行してください。
- ◆安全のため、急激な変速は避けてください。変速は1段ずつ行なってください。

- ◆発進・旋回、傾斜地、荒地では低速にし、急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。
- ◆走行中は、クラッチペダルに足を置いたり主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
- ◆ロータリなど作業機を装着すると、トラクタの前部が軽くなって、ハンドル操作をしても思うように操作できないことがあります。バランスウェイトを付けてバランスを保ってください。
- ◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
- ◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。
- ◆急な登り傾斜では、後進で走行してください。
- ◆公道走行時は、作業機を装着しないでください。
- ◆公道走行時は、補助車輪はつけないでください。

- ① PTO 変速レバーを《N》(中立) 位置にして、左右のブレーキペダルを連結します。



- ② デフロックが外れていることを確認します。
- ③ 油圧降下速度調節レバーを固定にして作業機の落下を防止します。
- ④ 標準機 [PAC 仕様] の PAC レバーは

《解除》位置にします。

マイコン装備機は傾斜自動切替スイッチ、耕深自動切替スイッチを《OFF》にします。

- ⑤ ダイヤクイックターン装備機はダイヤクイックターンスイッチを切ります。パネル内のインジケータランプが消えていることを確認します。
- ⑥ 走行スピードはフットアクセルペダルで調整します。
- ⑦ 進路変更するときは、方向指示灯スイッチによって進行方向を他の車に知らせます。
- ⑧ バックミラーで後続車を確認し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- ⑨ 夜間走行時、対向車とすれ違うときは、前照灯を下向きにし、対向車の妨害にならないようにします。
- ⑩ 狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないでスピードを落として走行します。
- ⑪ 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は、走行しない。
- ⑫ 公道を走行する時は、作業機を装着しない。
- ⑬ 公道では低速車線を走行します。

⑥ 自動車への積込み・積降ろし



安全のポイント

◆アユミは、強度、幅（前後輪が外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きのものを使用してください。

◆トラクタの重量で、アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで、補助者立会誘導のもとに行なってください。また、トラクタの周囲に人を近づけないでください。

◆アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように荷台と平行に掛けてください。

◆アユミの上でのクラッチ操作、変速操作をしなくてもいいように、前後輪のタイヤをアユミに、真っ直ぐにのせてください。

◆自動車への積込み、積降ろし中は、変速レバー、クラッチペダル、デフロック、片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落する恐れがあります。

◆積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行い、必要以上のハンドル操作はしないでください。

◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。

① 積載重量を超えない自動車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車は変速を入れてサイドブレーキをかけます。

② アユミは、強度、幅（前後輪が外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きのものを使用し、トラクタの車輪幅に合わせて荷台と平行にかけます。



③ 左右のブレーキペダルを連結します。

④ デフロックが外れていることを確認します。

⑤ PTO変速を中立にしダイヤクイックターン、超低速、バックアップ解除スイッチを「OFF」位置にします。

⑥ トラクタの車輪とアユミを一直線上に合わせ、作業機をいっぱいに上げます。

⑦ 変速は低速位置で「4輪駆動」に入れ、積込みは後進、積降ろしは前進で行います。

⑧ 途中でエンジンがストップした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、徐々にブレーキをゆるめ、いったん下まで降りてエンジンを再スタートします。

⑨ ハンドル操作は脱輪しないように慎重に行います。

⑩ 積込み後は、駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし、エンジンを切り、変速を低速に入れローブで本機を固定します。

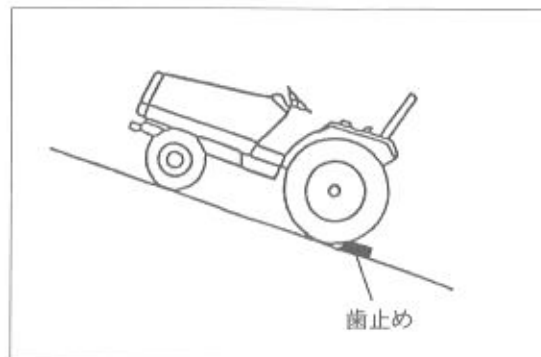
7 坂道での運転のしかた



安全のポイント

- ◆坂道を走行するとき、左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。
- ◆下り坂では、エンジンプレーキを使用し、クラッチペダルは踏まないでください。
- ◆下り坂では主変速、副変速、シャトルレバーを《N》（中立）にしたり、クラッチを切ったままで走行しないでください。
- ◆坂道では変速しないでください。あらかじめ遅い速度に変速してから走行してください。高速位置で急発進すると前輪がはね上がったり、トラクタがすべりおちたりして傷害事故を引き起こすことがあります。
- ◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、変速を登りでは前進側に、下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをしてください。

- ① 坂道では、速度をおとして走行します。
- ② 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。
- ③ 変速は坂を登りきってから、適切な変速位置に入れます。
- ④ 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。
- ⑤ 急な下り坂ではエンジンプレーキを使用します。変速位置を下げるとエンジンプレートはよくききます。
- ⑥ 坂道では駐車しない。やむをえず坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキを掛け、変速を登りでは前進側に、下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをします。




上手な作業のしかた

1 ほ場作業のしかた

1 ほ場への出入りのしかた



- ◆ほ場の出入りや、あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。
- ◆ほ場の出入りや、あぜ越えは PTO 変速レバーを中立にしてください。
- ◆ほ場の出入りや、あぜ越えは低速で、あぜに直角に行なってください。
- ◆高あぜ、急傾斜、溝越えは、アユミを使用してください。
- ◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。
- ◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

- ① 左右のブレーキペダルを連結します。
- ② デフロックが外れていることを確認します。
- ③ ダイヤクイックターンスイッチを切ってダイヤクイックターンランプが消灯していることを確認します。
- ④ 超低速レバーを《》(高速)の位置にします。
- ⑤ バックアップ機能を《OFF》にします。
- ⑥ 高低差が大きいほ場への出入りは、アユミを利用します。
- ⑦ ほ場への出入りや、あぜ越えは、直角に行います。
- ⑧ ゆるい傾斜を前進で登るときは、登り始めは、作業機を下げて行くと前輪が浮き上が

りません。トラクタの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。

常に前・後輪のバランスを考えながら、操作します。

⑨ 4輪駆動の特色を生かして、後進で上がると上がる能力が増します。そのときは、作業機をいっぱい上げて行きます。

⑩ ほ場への出入りの際は、途中で変速しないようにします。

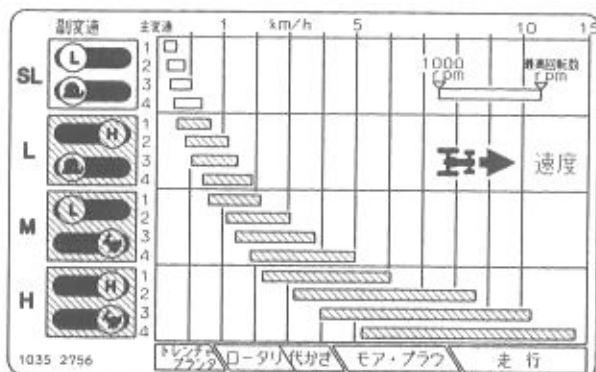
② 作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度及びPTO回転速度は、作業内容、ほ場の条件によって異なります。安全で最適な速度で運転します。

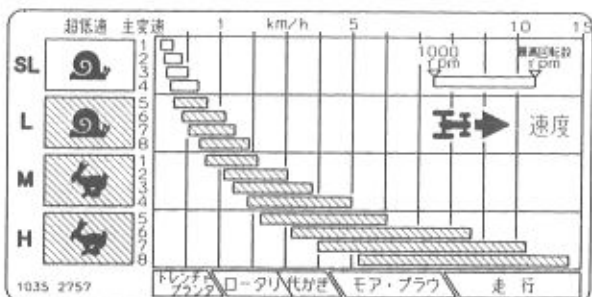
① 走行速度

[225・245・265・285・305型]

「標準機」

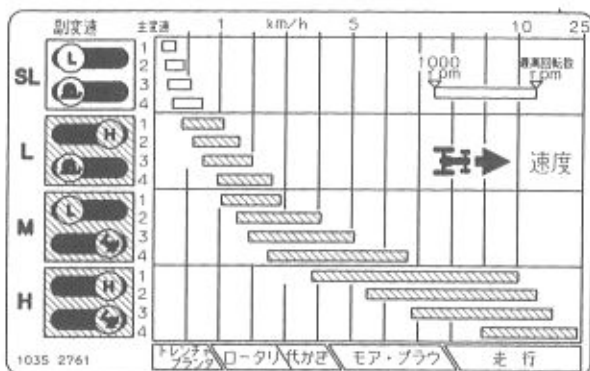


「パルシフト装備機」

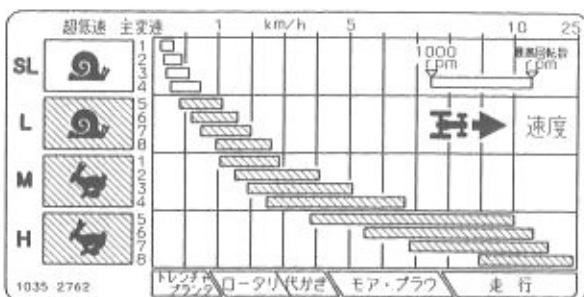


[285H型]

「標準機」



「パルシフト装備機」



② PTO 回転速度

P T O		作 業 内 容	回転数/分		
			225型 245型	265型 285型 285H 型	305型
正 転	1 速	ロータリ耕うん・うね立	543	555	581
	2 速	ロータリ耕うん・うね立	774	791	828
	3 速	代かき・碎土	965	986	1033
	4 速	代かき・碎土	1266	1294	1312
逆 転	1 速	} 逆転耕うん 土 寄 せ 碎 土	513	500	523
	2 速		731	712	746
	3 速		912	888	930
	4 速		1197	1165	1181

3 デフロックの使いかた



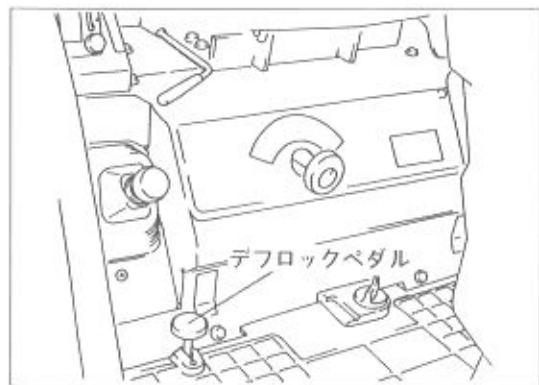
安全のポイント

◆自動車への積み積降ろし及び道路走行するときは、デフロックを使用しないでください。またデフロックが外れていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり、思う様に旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとする、思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏みます。デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果が得られます。

- ・軟らかいほ場
- ・プラウ作業



ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが、使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

取扱いのポイント

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げた後に行なってください。抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- 両輪の回転差が大きい場合は、一度クラッチを切ってから行なってください。
- 超低速でのデフロックは使用しないでください。

4 ほ場での旋回のしかた



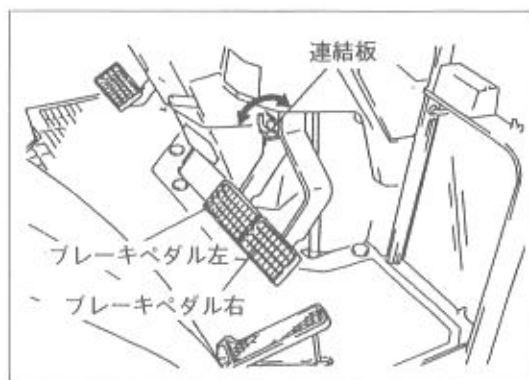
安全のポイント

◆道路走行時は左右のブレーキペダルを連結してください。

◆急傾斜地では作業をしないでください。

急傾斜地で旋回すると、転倒による傷害事故を起こすことがあります。

① ほ場では、ブレーキペダルの連結板を外し、左右独立して使用すれば小さく旋回できます。そのときは車輪が完全に止まるまで、ブレーキペダルを強く踏みます。



② 作業速度やほ場の傾斜の度合を考慮し、周囲を確認して作業をします。

⑤ ダイヤクイックターンの使い方 【ダイヤクイックターン装備機】



安全のポイント

- ◆ダイヤクイックターンは、小さく旋回でき、旋回速度も速くなり、作業能率が上がりますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。
- ◆ダイヤクイックターンスイッチ《入》では道路走行や傾斜地作業は行わないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出るときは、ダイヤクイックターンを《切》にしてください。
- ◆ダイヤクイックターンは、フロントローダ作業等、前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。
バランスがくずれ横転や傷害事故の恐れがあります。

4輪駆動レバーを《入》にしダイヤクイックターンスイッチを「ON」にすると小さく素早く旋回できます。



2 作業に必要な装置の使いかた

① トレッドの調節のしかた

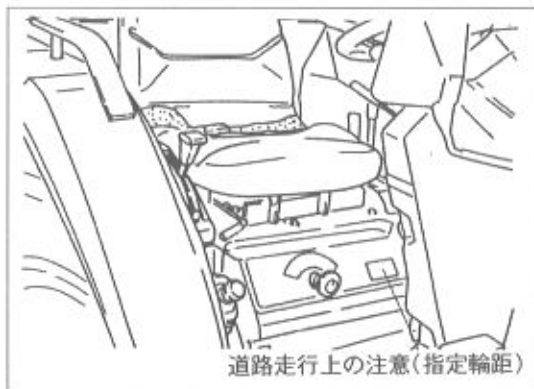


安全のポイント

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、
輪距を広くして使用してください。

最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。急ると転倒による傷害事故を起こすことがあります。

◆公道は指定輪距（シートの下のカバーに道路走行上の注意として指定輪距を貼付しています）で走行してください。



道路走行上の注意(指定輪距)

後輪トレッドは左右タイヤの入替えをすることにより2段に調節できます。但し、前輪はトレッド調節はできません。公道を走行するときは、指定輪距（※印）にします。

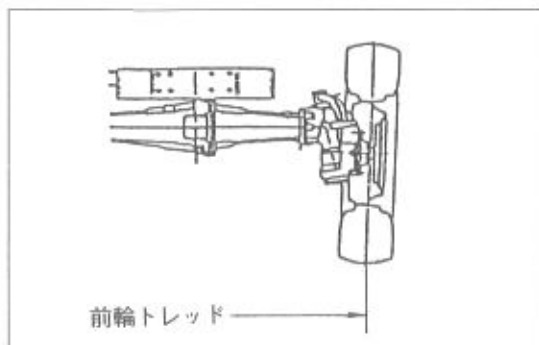
[標準タイヤ仕様]

型 式	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前 輪 トレッド (mm)	後輪トレッド (mm)		備 考
	前 輪	後 輪		前輪	後輪		※最小 (指定輪距)	最 大	
225型	6-14	9.5-22	4 駆	1	2	1,070	1,015	1,160	
245型	7-14	9.5-24	↑	1	2	↑	↑	1,160	
265型	7-16	11.2-24	↑	1	5	1,115	1,050	1,350	
265A 型	↑	11.2-24	↑	1	5	↑	↑	↑	並ラグ
285型 285H型	↑	11.2-26	↑	1	4	↑	1,095	1,345	
285A 型	↑	12.4-24	↑	1	4	↑	↑	1,395	並ラグ
305型	↑	↑	↑	1	4	↑	↑	↑	
305A 型	↑	↑	↑	1	4	↑	↑	↑	並ラグ

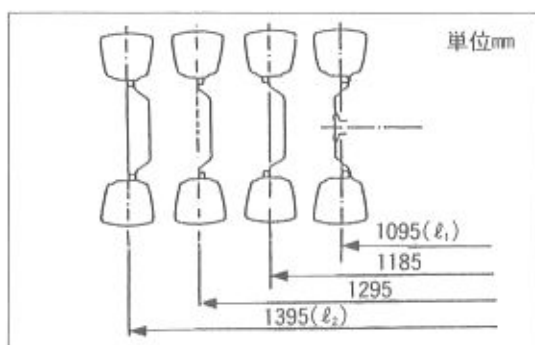
[大径タイヤ仕様]

型 式	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前 輪 トレッド (mm)	後輪トレッド (mm)		備 考
	前 輪	後 輪		前輪	後輪		※最小 (指定輪距)	最 大	
225L型	7-14	9.5-24	4 駆	1	2	1,070	1,015	1,160	
245L型	7-16	11.2-24	↑	1	5	1,115	1,050	1,350	
265L型	↑	11.2-26	↑	1	4	↑	1,095	1,345	

・前輪

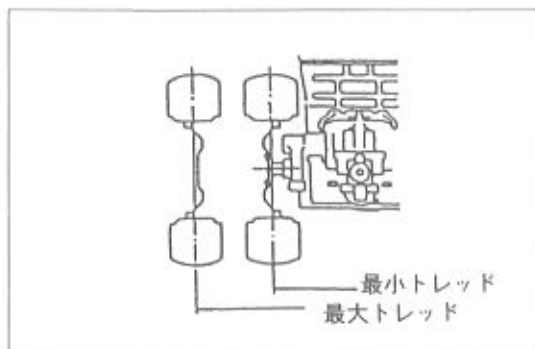


[285A型, 305型, 305A型]



・後輪

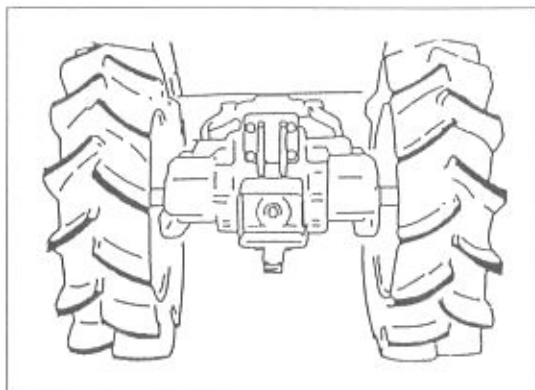
[225・245型]



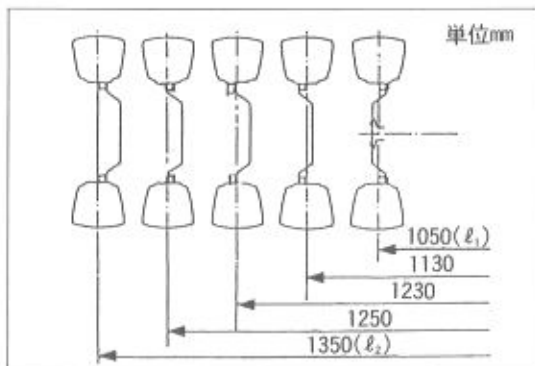
取扱いのポイント

- トレッド調節する時はタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。

(後方より見て「ハ」の字になるように)



[265型, 265A型, 245L型]



- トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。

●タイヤホイール締付トルク

前輪……12.0～13.5kgf・m

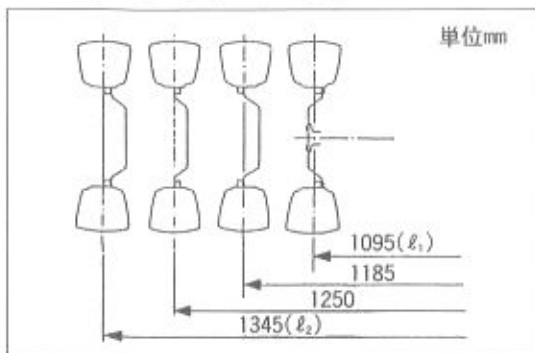
後輪……15.0～17.0kgf・m

●リムとディスクの締付トルク

(245L, 265, 265A, 265L, 285, 285H, 285A, 305, 305A型)

後輪……15.5～17.5kgf・m

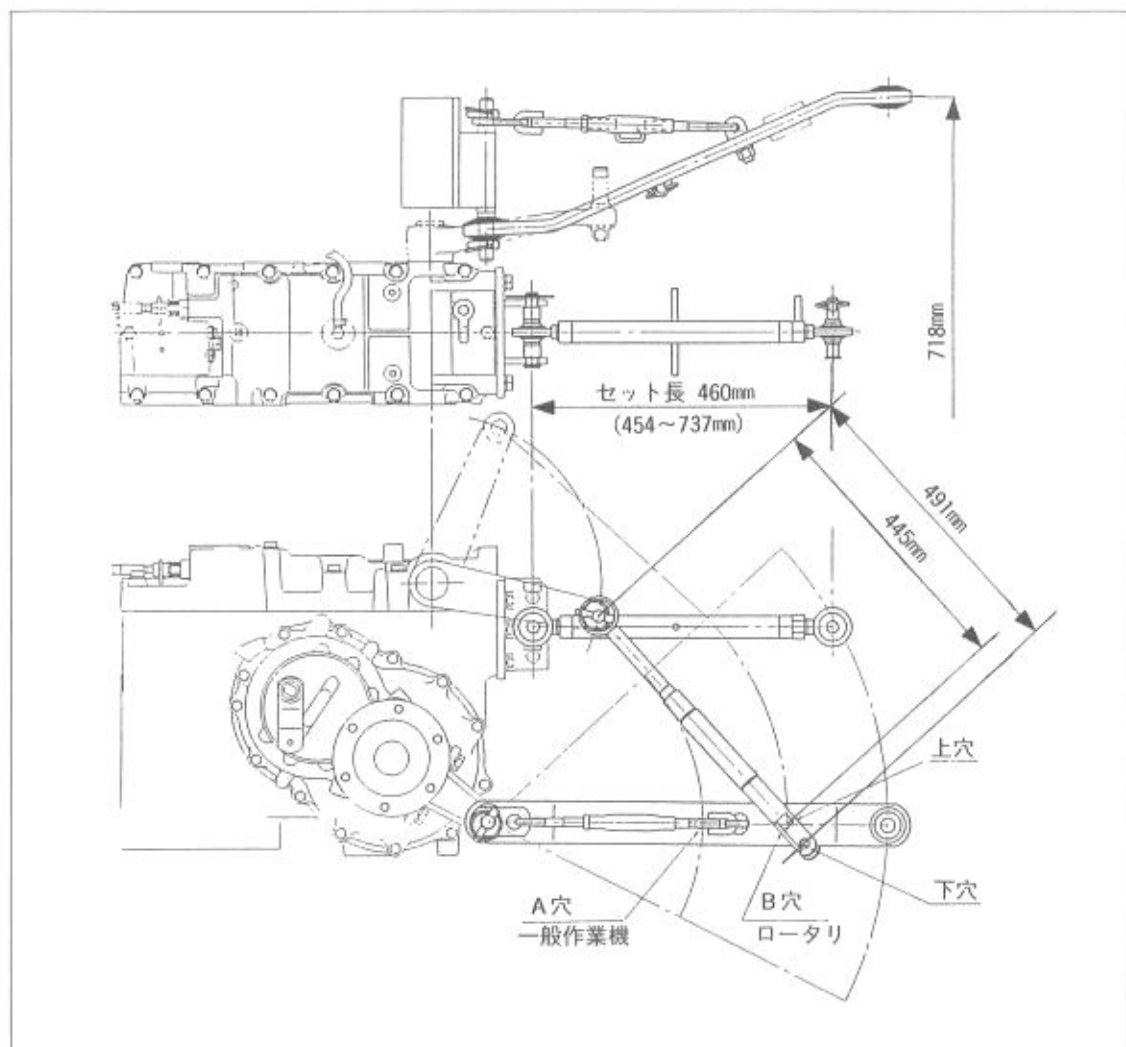
[285型, 285H型, 265L型]



② 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付けるときは作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「作業機の取扱説明書」を参照します。

- リフトロッド、トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。
- ・リフトロッド右（標準機）およびトップリンク（オプション）の調整は、ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して調整します。調整後ロックナットで固定します。



② ロワリンク後方目玉の地上高

(単位:mm)

機 種	ロワリンク	A穴 (一般作業機)		B穴 (ロータリ)	
	リフトロッド	下 穴	上 穴	下 穴	上 穴
225型	最下げ	57	162	264	353
	最上げ	719	790	740	790
	揚 程	662	628	476	437
245型	最下げ	86	192	293	383
	最上げ	748	819	769	819
	揚 程	662	627	476	437
265型	最下げ	104	209	310	399
	最上げ	766	836	786	837
	揚 程	662	627	476	437
285型	最下げ	168	278	409	503
	最上げ	842	912	876	925
	揚 程	675	634	466	422
305型	最下げ	168	278	409	503
	最上げ	842	912	876	925
	揚 程	675	634	466	422

※純正ロータリの取付けは、ロータリの取扱説明書により行います。

③ チェックチェン

作業機の横振れをナットをゆるめターンバックルで次のように調整します。調整後は確実にナットをロックします。

- (1) プラウ、ハロー、サブソイラ等の作業機は、作業機が左右に5～6cm動く程度に調整します。調整後、作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。
- (2) ロータリ・モア等の作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整します。

③ 作業機の取扱い

下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。



- ◆作業機の着脱は、平坦な場所で、正しい手順で行なってください。
- ◆作業機を着脱調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO 変速レバーを《N》(中立)にして行

なってください。

- ◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の人に人が入らないでください。
- ◆重い作業機を連結または装着した場合は、トラクタにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。
- ◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO 回転速度を守ってください。
- ◆けん引作業、傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。
- ◆トレーラをけん引するときは、坂の途中で変速しないでください。
- ◆作業機を装着すると、長さが長くなりますので、旋回時は周囲を確認して行なってください。
- ◆公道を走行するときは、作業機を取外し別の自動車に運搬してください。作業機を装着して走行すると道路運送車両法の違反になります。

マイコン装備機の手扱

1 マイコンの手扱

1 マイコンの機能



◆ほ場作業以外では、傾斜自動および耕深自動スイッチを《OFF》にしてください。

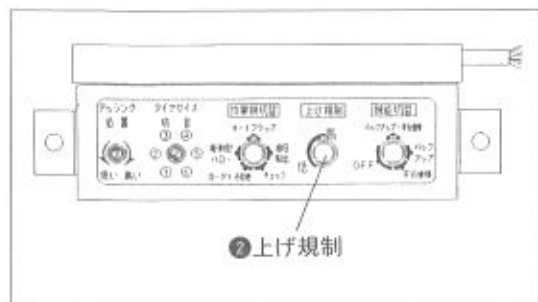
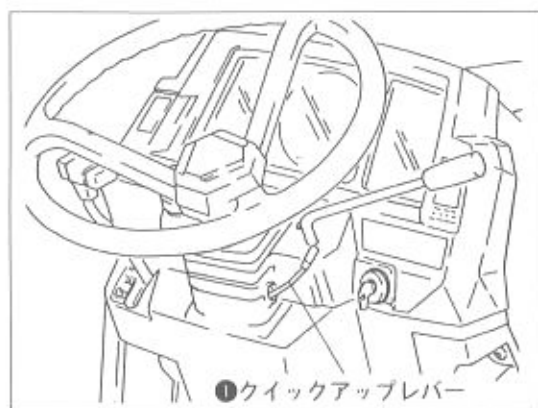
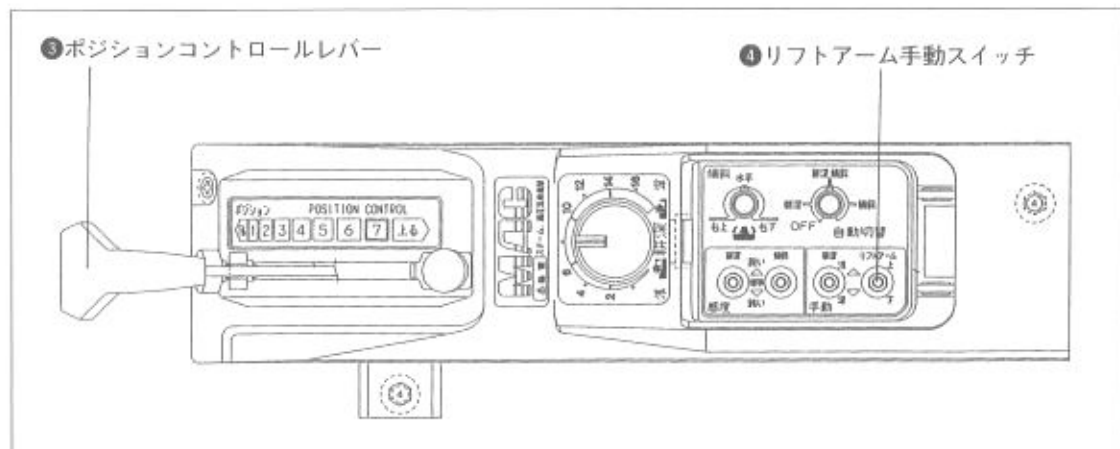
マイコン装備機は、高性能マイクロコンピュータ（略：マイコン）が搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ、オペレータの作業が軽減されます。

マイコンによる制御機能

- ・ポジションコントロール
- ・傾斜自動
- ・耕深自動
- ・安全装置
 - ・エンジン始動時の安全機能
 - ・バックアップ機能
 - ・平行復帰機能
 - ・ダッシング防止機能
- ・その他
 - ・作業機切替え機能

2 ポジションコントロールの取扱い

1 運転装置



上昇または下降します。

② 上げ規制

クイックアップレバーで作業機を上げる場合、上げ規制ダイヤルで上げ位置を規制することができます。

③ ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーの操作によって作業機の位置が自由に決められます。

・下げ規制

クイックアップレバーで作業機を下げる場合、ポジションコントロールレバーで下げ位置を規制することができます。

取扱いのポイント

- エンジン停止中、スタータスイッチ **《ON 00》** 状態でブザーが鳴っていなければポジションコントロールレバーの下げ操作で作業機は下降します。

(エンジン運転時に比べゆっくり下降します。)

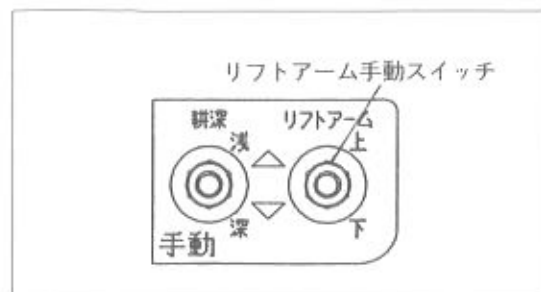
2 取扱い操作

① クイックアップレバー

クイックアップレバーを軽く上げ方向に操作すると「ピッ」とブザー音がして作業機が

④ リフトアーム手動スイッチ

ポジションコントロールレバーで操作できなくなったときはリフトアーム手動スイッチにより、作業機を動かし安全な所まで移動した後、ただちに点検サービスを受けます。

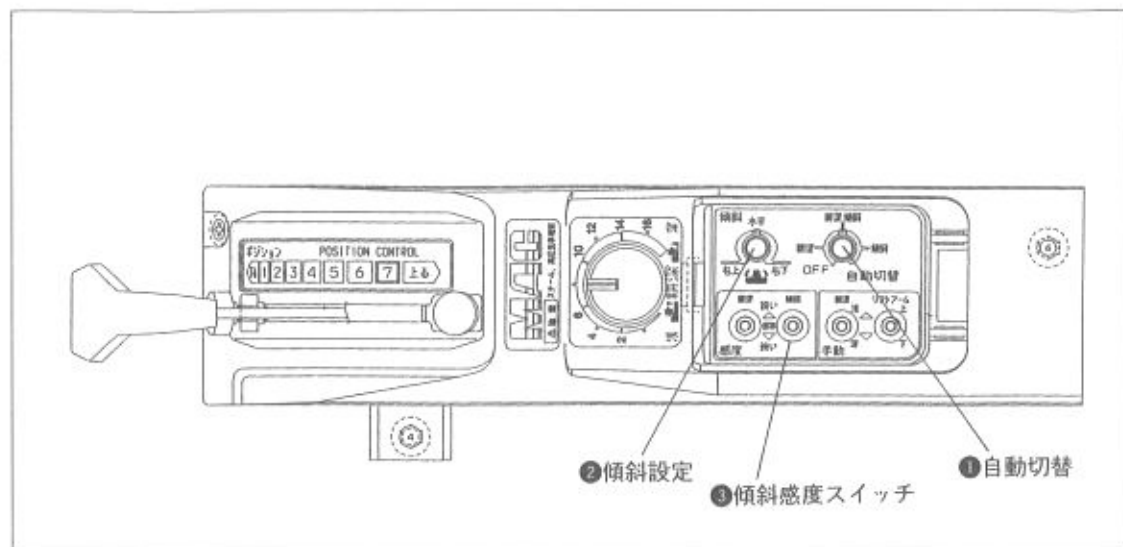


取扱いのポイント

- リフトアーム手動スイッチは、非常スイッチであり通常作業中は使用しないでください。
- リフトアーム手動スイッチを通常時に操作するとマイコンのセットが《解除》となります。

3 傾斜自動の取扱い

1 運転装置



2 取扱い操作



◆走行時は傾斜自動《OFF》（傾斜自動ランプ消灯）にしてください。《OFF》にしないと、作業機の傾斜が自動的に作動し、事故になることがあります。

① 自動切替

《傾斜》又は《耕深・傾斜》位置にします。



② 傾斜設定

作業機の角度調整は傾斜設定ダイヤルによっ

て行います。

- ・《水平》…… 作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。
- ・《右上》…… 常に右上りで保たれます。
- ・《右下》…… 常に右下りで保たれます。



なお、作業機をいっぱい上にあげると自動的に本機と平行になります。

（平行復帰機能 ON 時）

取扱いのポイント

- 作業機着脱時の右リフトロッド長さ調整は傾斜自動を《ON》にし、傾斜設定ダイヤルの操作により行なってください。

- リフトロッドシリンダ位置を変えて作業したい時は傾斜自動を《OFF》にし、傾斜設定ダイヤルの操作でシリンダを動作させてください。

《水平》……リフトシリンダは停止します。

《右上》……リフトシリンダは縮みます。

《右下》……リフトシリンダは伸びます。

動作させたい位置までシリンダがきたら傾斜設定ダイヤルを《水平》にして停止させます。

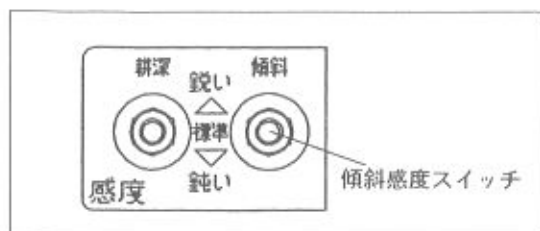


③ 傾斜感度スイッチ

傾斜自動（リフトロッドの動作）の感度を作業スピードに応じて切替えることができるスイッチです。

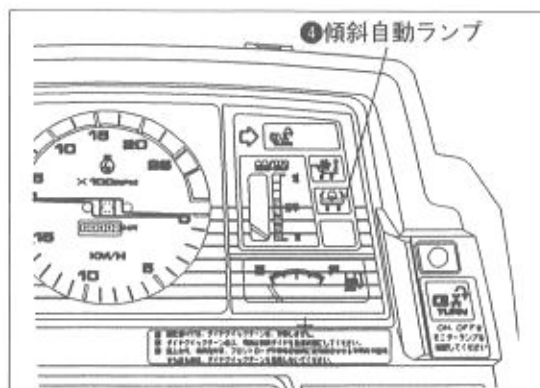
- ・《鋭い》……代かき作業などに適します。
- ・《標準》……通常の作業に適します。
- ・《鈍い》……作業スピードの遅いものに適します。

仕上りを確認しながら、ほ場条件により適宜切替えます。



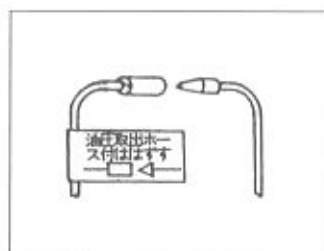
④ 傾斜自動ランプ

《傾斜》または《耕深・傾斜》位置で点灯し、傾斜自動状態を示します。



⑤ 油圧取出用ホース装着機

フロントローダなどを装着するために油圧取出用ホースを本機に装着した場合には、座席シート下にある「油圧ホース付は外す」ラベルの貼られたコードのギボシ端子を外してください。（端子を外さないと傾斜制御が正常に働かないことがあります。）

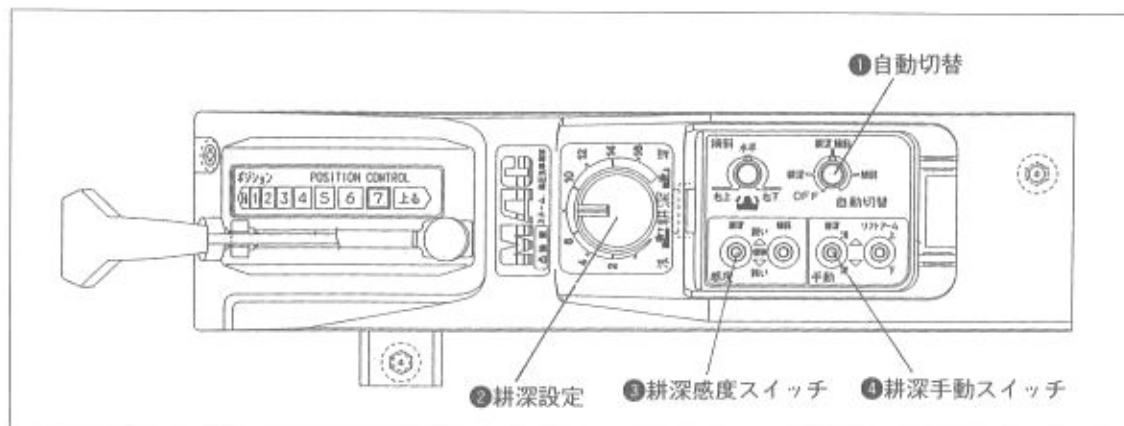


取扱いのポイント

- ギボシの切替えはスタートスイッチを《停止》（停止）にして行ってください。

4 耕深自動の取扱い

1 運転装置

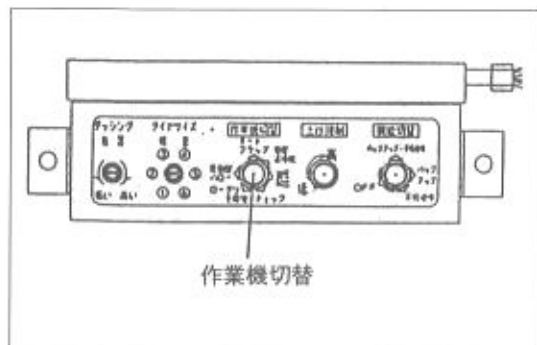


2 取扱い操作



安全のポイント

- ◆耕深自動時、作業機切替が《オートフラップ》の位置でフラップ（リヤカバー）スライド用電動シリンダが自動的に動作します。（耕深設定を《2～14》の間で操作したとき伸縮）



- ◆走行時は耕深自動《OFF》（耕深自動ランプ消灯）にしてください。《OFF》にしないと作業機が自動的に作動し事故になることがあります。

① 自動切替

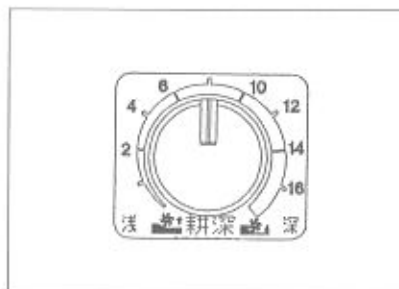
《耕深》又は《耕深・傾斜》位置にします。



② 耕深設定

ロータリの耕深量の調整は耕深設定ダイヤルによって行います。

- ・《12～14》位置……120～140mm範囲の耕深を維持します。
- ・《浅》へ回す……耕深が浅くなります。
- ・《深》へ回す……耕深が深くなります。

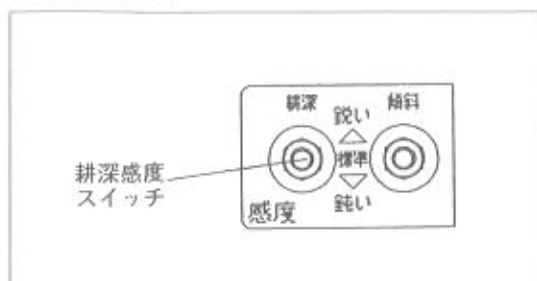


③ 耕深感度スイッチ

耕深自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて切替えることができるスイッチです。

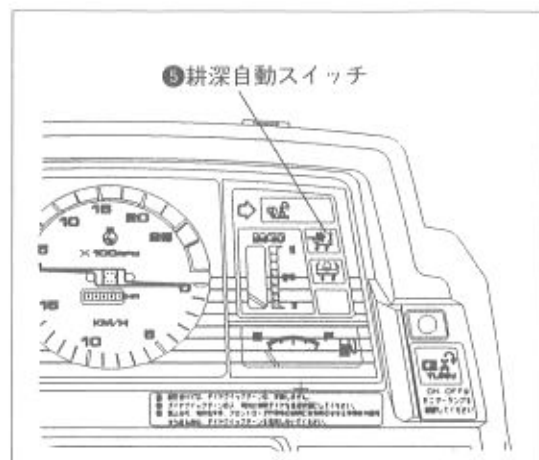
- ・《鋭い》…… しろかき作業などに適します。
- ・《標準》…… 通常の作業に適します。
- ・《鈍い》…… 浅耕・除草などの作業に適します。

仕上りを確認しながら、ほ場条件により適宜切替えます。



⑤ 耕深自動ランプ

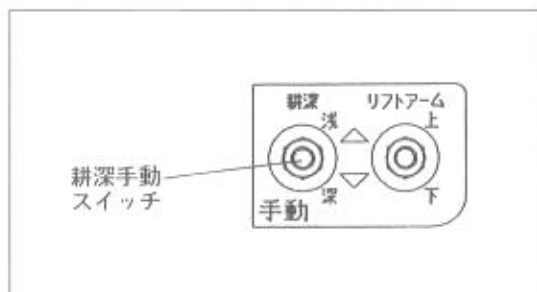
《耕深》または《耕深・傾斜》位置で点灯し、耕深自動状態を示します。



④ 耕深手動スイッチ

自動切替が《OFF》位置の場合、耕深を手動で調整するときを使用します。

- ・《深》…… 耕深が深くなります。
- ・《浅》…… 耕深が浅くなります。



5 安全装置の取扱い

1 安全装置

① エンジン始動時の安全機能

エンジン始動後、ポジションコントロールレバーの設定値と作業機の位置が一致するまでブザーが「ピッ、ピッ、ピッ」と鳴り一致点に近づくに近づくにつれて、ブザーの断続音が早くなります。ブザーが鳴らなくなったところが一致点です。

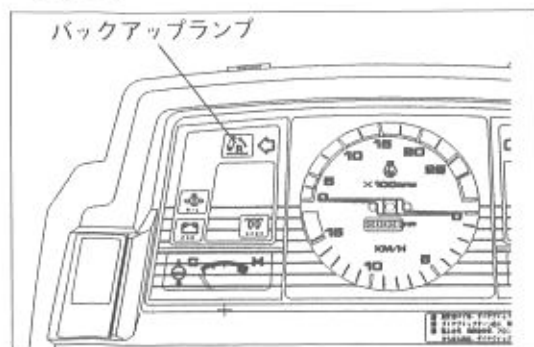
取扱いのポイント

- ポジションコントロールレバーはゆっくりと操作してください。



② バックアップ機能

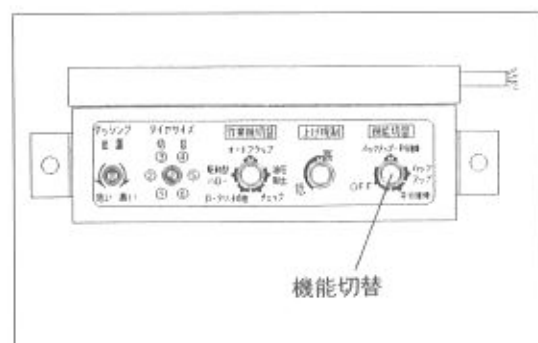
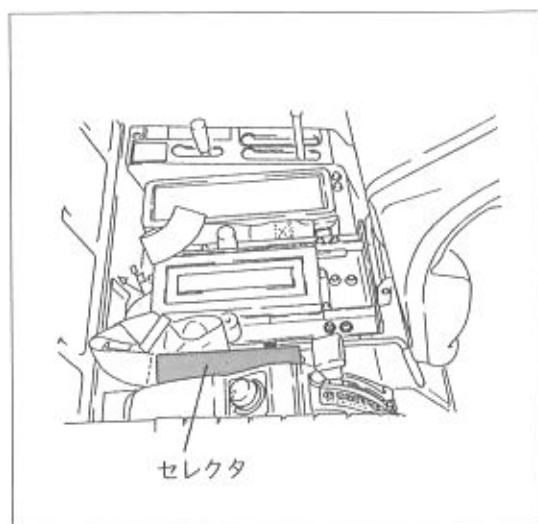
- (1) エンジンが回転中シャトルレバーを後進に入れると、メータパネル内のバックアップランプが点滅し、作業機が自動的に上昇します。



- (2) 作業機を下げるときは、クイックアップレバーを軽く上げ方向に操作します。するとバックアップ機能が「OFF」になり（バックアップランプが消える）作業機が下がります。

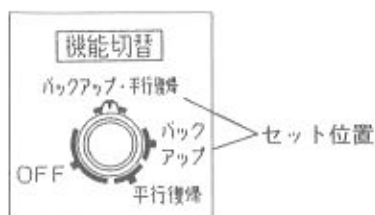
ポジションコントロールレバーの場合は、レバーを一度最上げにし、その後レバーを下げることで、作業機が下がります。

- (3) バックアップ機能の「ON, OFF」は、シート下セレクト内の機能切替ダイヤルにより行います。



・バックアップ機能「ON」

機能切替を《バックアップ・平行復帰》または《バックアップ》の位置にセットします。



・平行復帰機能「OFF」

機能切替を《OFF》または《バックアップ》の位置にセットします。



・バックアップ機能「OFF」

機能切替を《OFF》または《平行復帰》の位置にセットします。

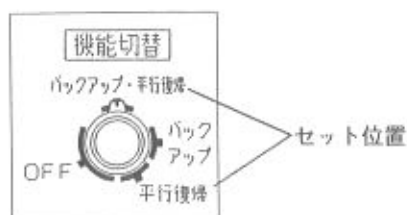


③ 平行復帰機能

セレクタ内の機能切替が《バックアップ・平行復帰》または《平行復帰》位置でエンジンが回転中作業機をいっぱい上に上げると、自動的に本機と平行になります。

・平行復帰機能「ON」

機能切替を《バックアップ・平行復帰》または《平行復帰》の位置にセットします。

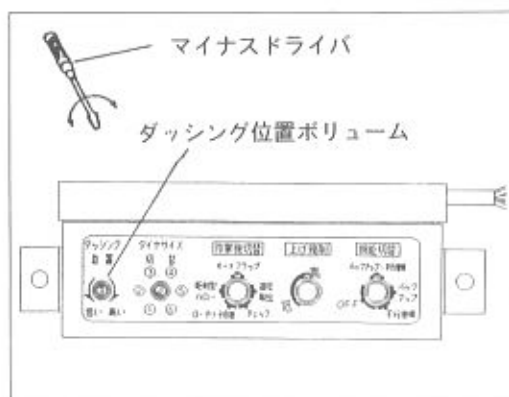


④ ダッシング防止機能

自動切替が《耕深》または《耕深・傾斜》位置のとき、ロータリが地面に接触する付近で降下速度が遅くなり、硬いほ場でのロータリ耕うん爪でのかけだしおよびエンストを防止します。

(1) ほ場条件、作業条件によってダッシング防止効き始め位置を変更することができます。

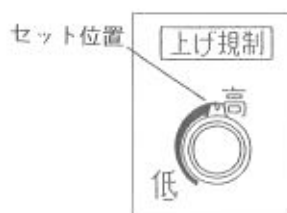
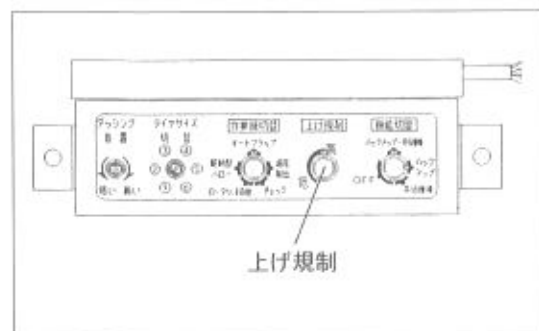
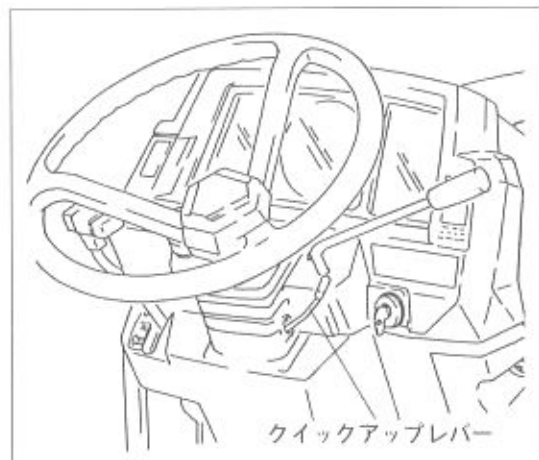
ダッシング防止効き始め位置を低くする時はダッシング位置ボリュームをドライバで反時計方向に回します。



- (2) ポジションコントロールレバーの操作でダッシング防止機能を使用するときは、レバーを最上げ位置まで上げてから下げ操作をします。

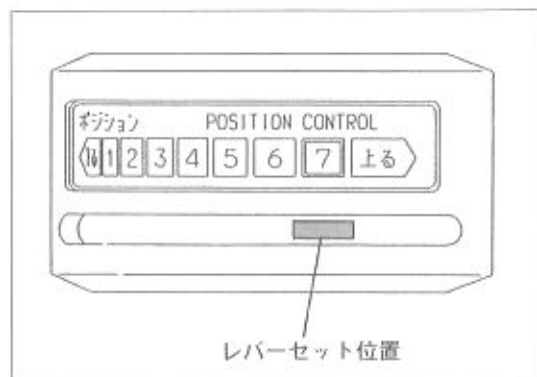


- (3) クイックアップレバーの操作でダッシング防止機能を使用するときは、上げ規制を下記の位置にセットしておいてください。

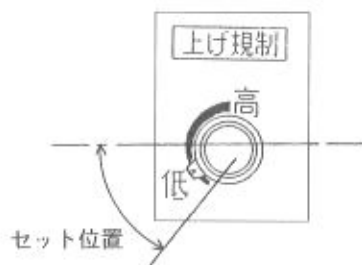


⑤ ダッシング防止機能の解除

ロータリ作業時、ダッシング防止機能を解除するときはポジションコントロールレバーをポジションレベル《7》のオレンジゾーン内にセットして使用します。(但し、その時は耕深設定ダイヤルが《浅》の位置にあると作業機下降速度が遅くなる場合があります。)



- クイックアップレバーの場合は、上げ規制を下図の矢印の範囲内にセットしておいてください。



取扱いのポイント

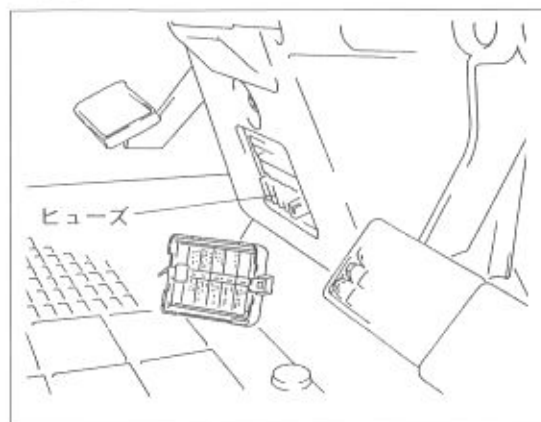
- ダッシングするような場合は4輪駆動レバーを《入》で作業をしてください。
- ダッシング位置ボリュームは工場出荷時中央部にセットされていますが《低い》↔《高い》の間でダッシング効き始め位置が約250mm変更可能です。

② ヒューズ

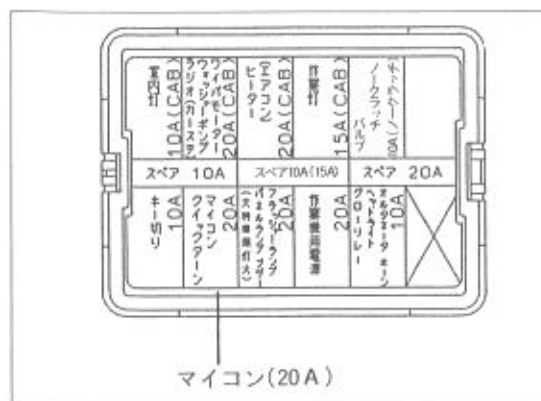
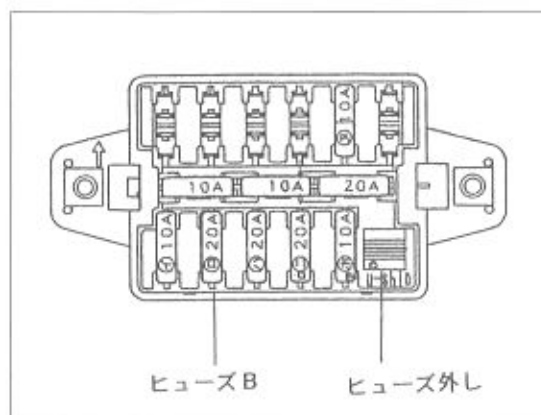


安全のポイント

- ◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。




ヒューズBが溶断しているときは、マイコンの各制御機能が停止状態となります。

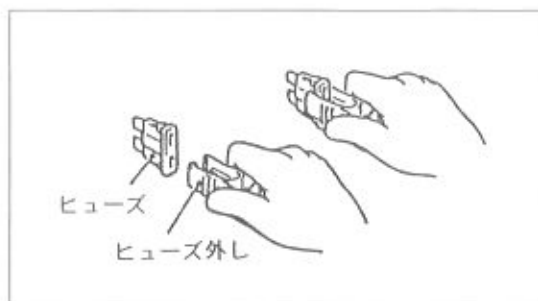


ヒューズボックスのフタの裏に位置を示すマークが貼ってあります。

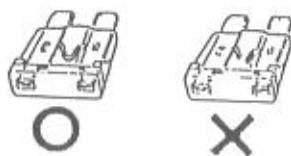
・ヒューズの交換

各ヒューズが受け持っている装置が作動しないときは次のように処置してください。

- (1) スタートスイッチを《》(停止)にします。
- (2) ヒューズ外しを使ってヒューズを引抜きます。(ヒューズ外しはヒューズボックスの中に入っています)



- (3) ヒューズが図の右側(×印)のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



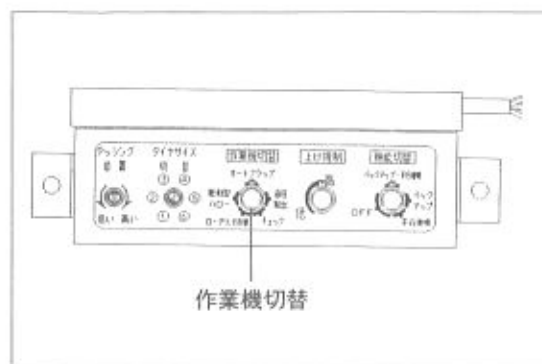
取扱いのポイント

- 取りかえてもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

6 作業機切替

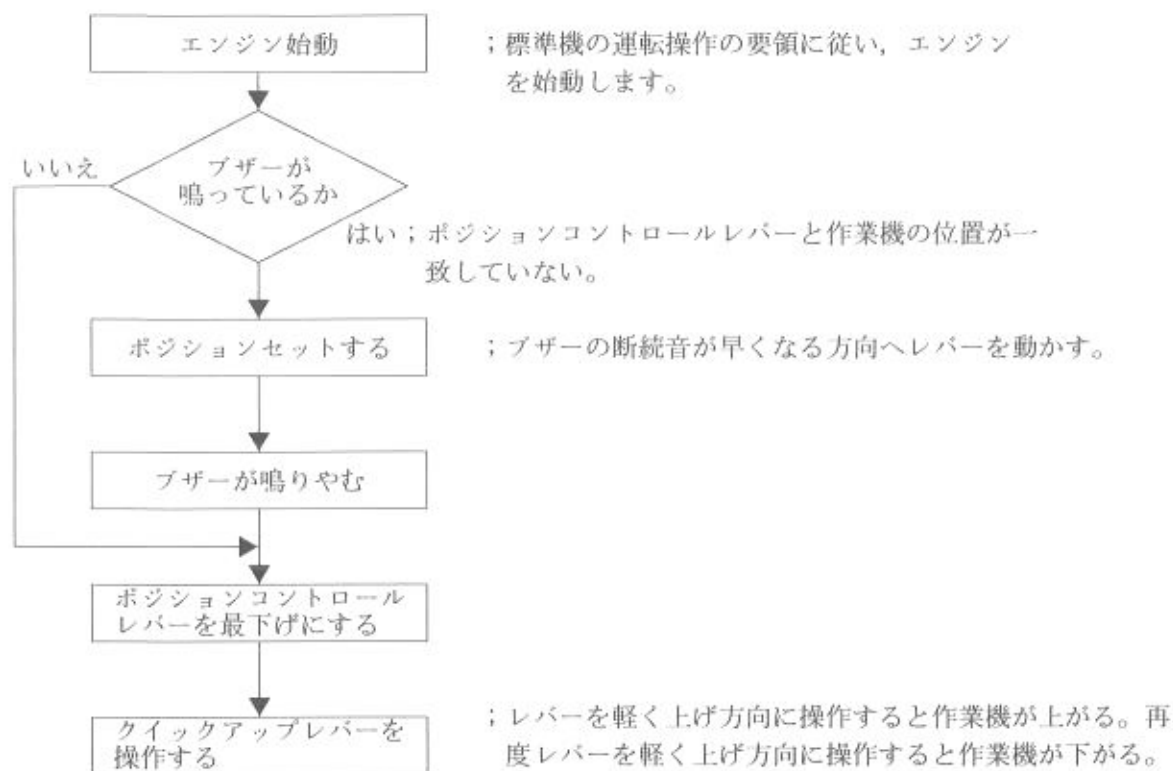
1 作業機切替機能

作業機切替ダイヤルを、各作業機に応じて
セットします。



ボリューム位置	条 件
オートフラップ	純正ロータリでの一般的作業（フラップが自動伸縮）
駆動型ハロー	駆動型ハロー装着時
油圧取出	ダンブトレーラのダンブ等操作時
チェック	入力チェック操作時
ロータリその他	純正ロータリでのフラップ（リヤカバー）を自動伸縮させない特殊作業及びその他の作業機装着時

7 マイコンの操作要領



(耕深あるいは、傾斜自動を使いたいとき)



キャビン装備機の手扱

1 各部の手扱

① ドア・ウインドウ開閉の手扱

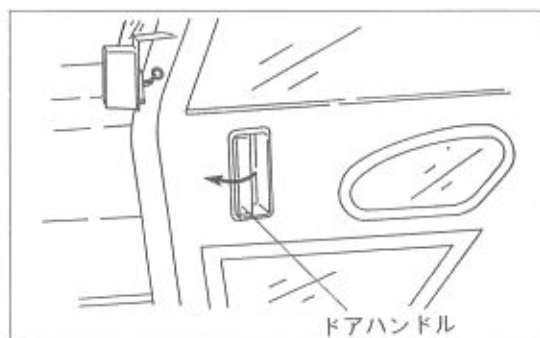
① ドア



◆半ドアの状態でも運転すると、急にドアが開いて事故になることがあります。走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

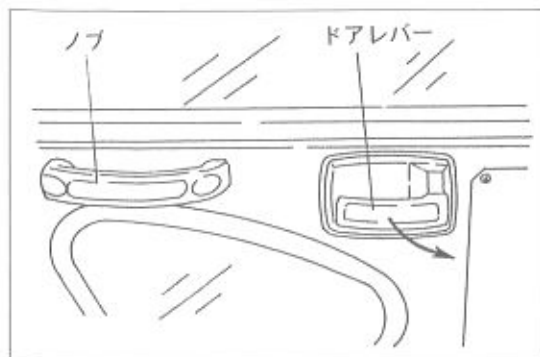
・車外からの開けかた

ドアハンドルを引くと、ドアが開きます。



・車内からの開けかた

ドアレバーを引くと、ドアが開きます。また、閉じるときはノブを引きます。



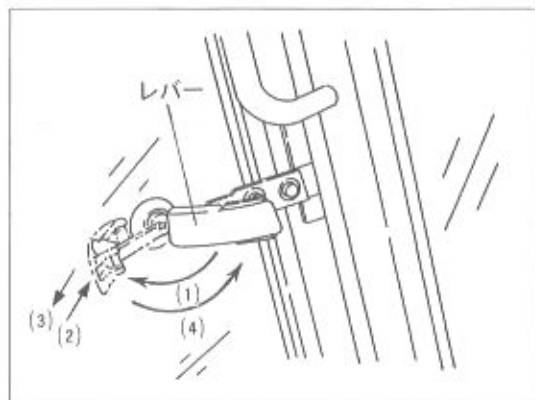
② サイドウインドウ

・開けかた

- (1) レバーを手前に引きます。
- (2) レバーを外側に押し出して固定します。

・閉じかた

- (3) レバーを手前に引き、サイドウインドウを閉じます。
- (4) レバーを元に戻して、確実に固定します。



③ リヤウインドウ

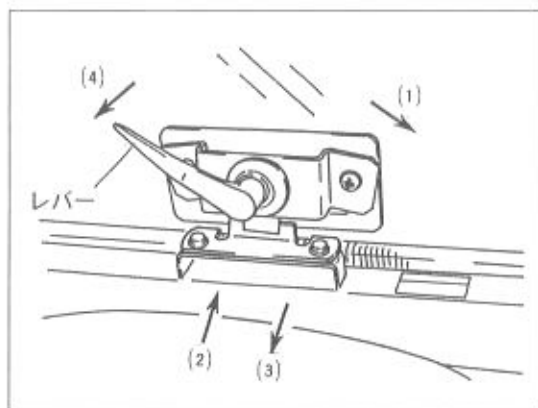
リヤウインドウは、跳ね上げ式です。

・開けかた

- (1) レバーを右に回します。
- (2) レバーを外側に押し出して開けます。

・閉じかた

- (3) レバーを手前に引き、リヤウインドウを閉じます。
- (4) レバーを手前に引きながら左に回し、確実に固定します。



取扱いのポイント

- 作業機によっては、リヤウインドウが開けられないことがありますので、十分確認して行ってください。
- リヤウインドウを開けた状態で作業機を上昇させると、作業機がリヤウインドウに接触し、ガラスが破損することがあります。接触しないことを確認し行ってください。
- トラクタ後方での作業機の脱着、調整等の作業をするときは、開放されているリヤウインドウで頭などを接触する危険がありますので注意して行ってください。
- リヤウインドウを開放したままの路上走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウを閉じ、レバーを確実に固定してください。
- 寒冷時にドアおよびウインドウが凍結している場合は、無理に開けるとドア回りのゴムがはがれたり、損傷することがあります。ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。

② スイッチ操作のしかた

① ワイパ・ウォッシュスイッチ

(1) ワイパの操作

スイッチ①側を押すとワイパが作動し、
スイッチ②側を押すとワイパが停止します。

(2) ウォッシュの操作

- ・ワイパ作動中……スイッチ①側をさらに押すと、押している間、ウォッシュ液が噴射します。
- ・ワイパ停止中……スイッチ②を押すと、押している間、ウォッシュ液が噴射します。



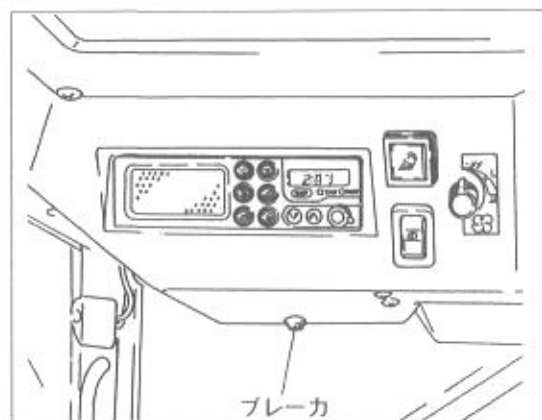
取扱いのポイント

- スタータスイッチが《OFF》(停止)のときは、作動しません。
スタータスイッチを《ON》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車するとか、ウォッシュ液を噴射してから使用してください。
- ウォッシュ液を連続で20秒以上噴射したり、ウォッシュ液が出ないときに使用すると、モータが焼付くことがありますので注意してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると、ワイパが作動できずモータが焼付くことがあります。
使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- 寒冷時にウォッシュを使用するときは、ガラスに噴射したウォッシュ液が凍って視界を妨げることがありますので、先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから、使用してください。
- ワイパ使用中、積雪等によりワイパブレードが途中で止まったときは、ワイパスイッチを《OFF》にしても電気が流れておりスタータスイッチを切らないと、モータが焼付くことがあります。トラクタを安全な場所に停止してスタータスイッチを切り、ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。
- ウォッシュ液は、市販のウォッシュ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し、ウォッシュタンク、ホース等を破損することがあるので注意してください。

② ブレーカ

ワイパモータを保護するため、ブレーカが設けてあります。

ワイパスイッチを《ON》にしても作動しない場合は、ブレーカを確認します。



・正常な状態



・異常な状態



突出(赤色)

取扱いのポイント

- ブレーカを押しても正常な状態に復帰しない場合は、「お買いあげ先」に点検を依頼してください。

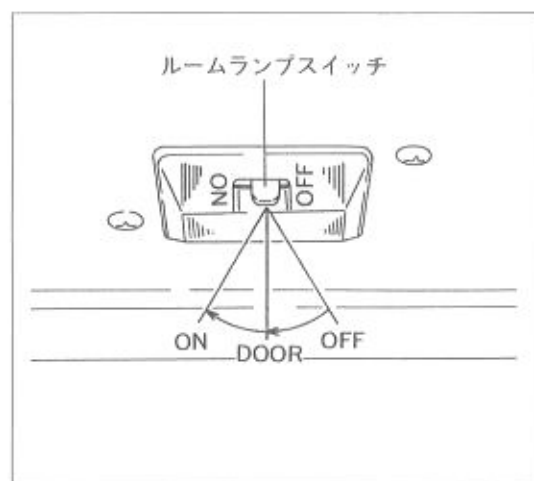
③ ルームランプスイッチ

キャビン室内の照明に使用します。

《OFF》…ランプが消灯します。

DOOR…左側ドアを開くとランプが点灯し、閉じると消灯します。

《ON》……ランプが点灯します。



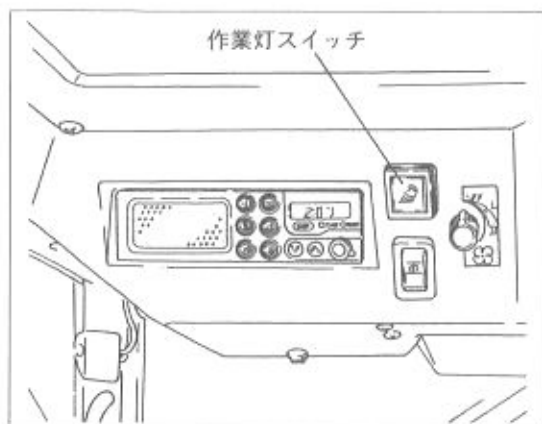
取扱いのポイント

- エンジンが停止しているときに、長時間ランプを点灯させておくとバッテリーがあがることがあります。トラクタから離れるときは、ランプが消えていることを確かめてください。

④ 作業灯スイッチ

スタータスイッチを《ON 00》にし、作業灯スイッチを“カチッ”と音がするまで押すと、作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。

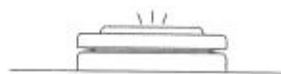
再度、押すと消灯します。



・OFF……消灯



・ON……点灯



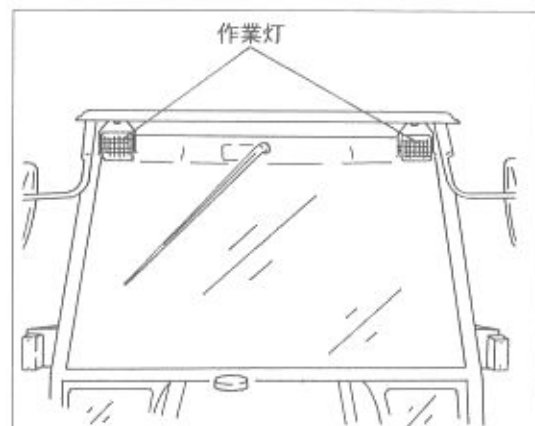
取扱いのポイント

- ルームランプ、作業灯、ラジオ等を使用するときは、バッテリーがあがらないようにエンジンを始動してから使用してください。
- 路上走行時は、作業灯を消してください。

⑤ 作業灯（前）

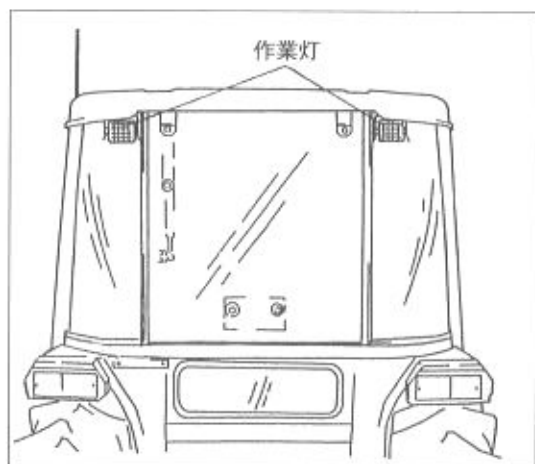
キャビン前方の照明に使用します。

作業灯は照明の方向を上下に変えることができますので適宜、調節します。



⑥ 作業灯（後…エアコン仕様、エアコンDX仕様）

キャビン後方の照明に使用します。作業灯は照明の方向を上下に変えることができますので、適宜、調節します。



2 運転装置の取扱い

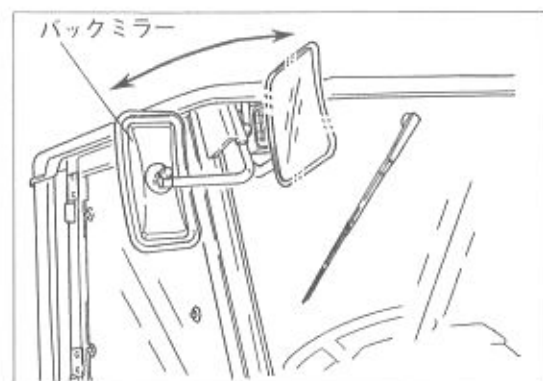
運転各種スイッチ、計器、レバー、ペダルなどの配置、操作方法は、標準機と同様です。

「各部の取扱いかた」の項を参照して行います。

① バックミラー

バックミラーは、運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には、バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。



取扱いのポイント

- バックミラーがキャビンより張り出しているため狭い場所でのすれ違いや格納時は、接触しないように注意してください。
- 路上走行時は、バックミラーを倒したままで運転しないでください。

3 室内装備の取扱い

① 灰皿

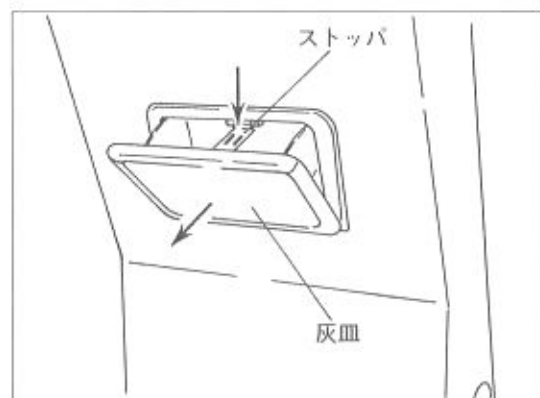


◆タバコ、マッチの火は、消してから灰皿に入れてください。

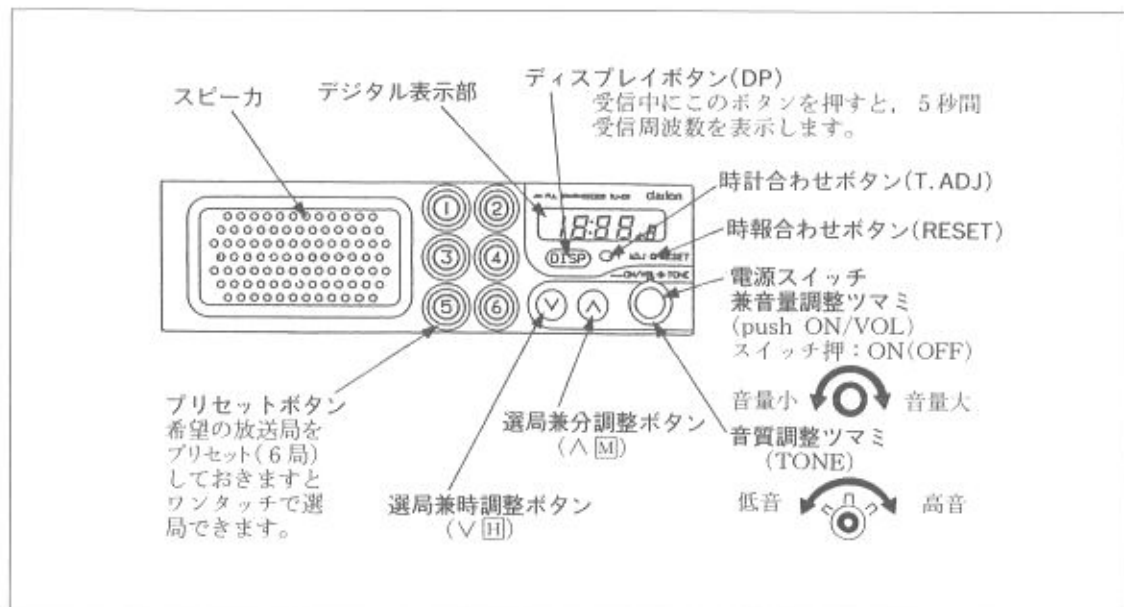
使用后、開けたままにしておくと他の吸がらに火が燃え移ることがありますのでフタを閉めてください。

◆灰皿には、吸がらをためすぎたり、紙屑などの燃えやすいものを入れないでください。火災の原因となります。

手前に引出して使用します。取外すときは、灰皿のストッパを押したまま引きます。



② ラジオ（ヒーター仕様，エアコン仕様）



① 選局ボタン (TUNE) のセットのしかた

- (1) 選局アップボタン (△) を押すと、周波数のデジタル表示数が9 KHz ずつ増加し、ダウンボタン (▽) を押すと、9 KHz ずつ減少します。
- (2) このボタンを2秒以上押し続けると、自動的に選局・停止して受信を継続します。

② プリセットのしかた

- (1) 選局ボタンで放送局を選局します。
- (2) メモリさせたい番号のプリセットボタンを2秒以上押し続けると、一旦音が消え、再度音が出たらメモリ完了です。
このとき、表示部にメモリさせたプリセット番号をチャンネル表示します。

③ 時計の合わせかた

- (1) スタータスイッチのキーを、《ON 00》の位置にします。
- (2) 時計合わせボタン (T.ADJ) を押しながら、時調整ボタン ([H]) を押すと、時表示が変わります。

- (3) 時計合わせボタン (T.ADJ) を押しながら、分調整ボタン ([M]) を押すと、分表示が変わります。

- (4) 時報合わせボタン (RESET) を押すと正時調整ができます。01～29は00分に、30～59は1時間繰上げし、00分になります。

例) 12:01～12:29→12:00

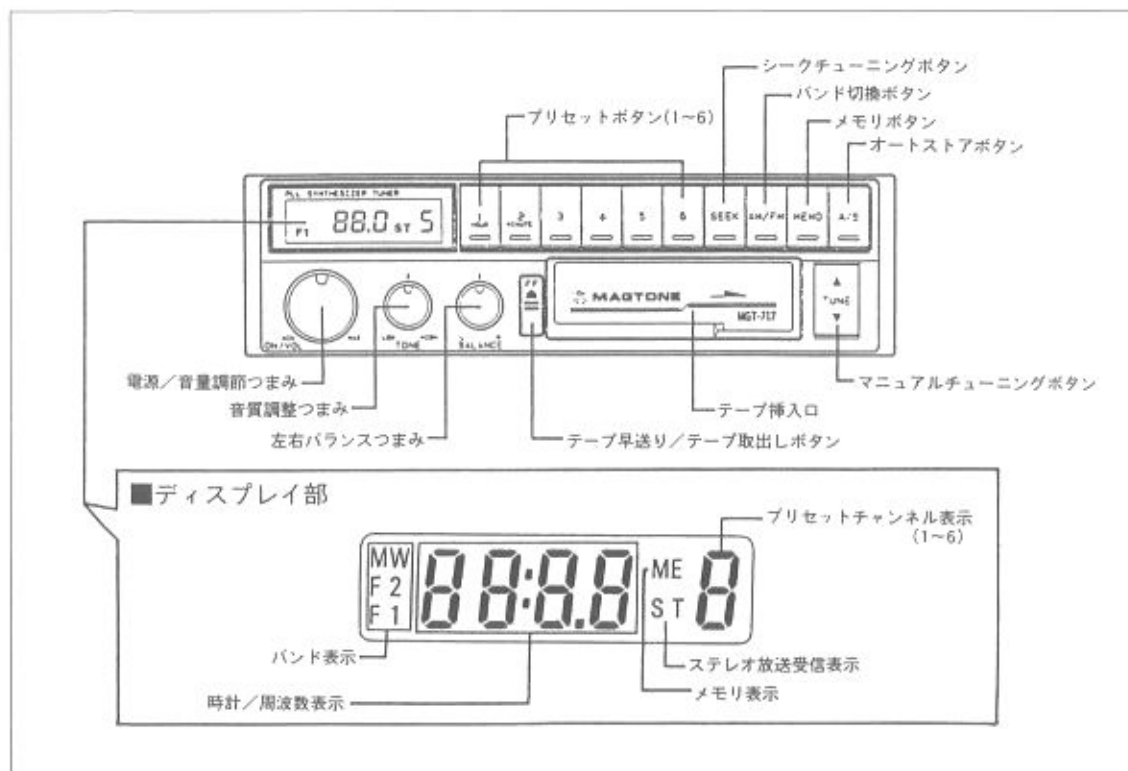
12:30～12:59→1:00

取扱いのポイント

- ラジオはアンテナをいっぱい伸ばしてから聞いてください。
- 屋根の低い所へ入るときは、アンテナを格納してください。
- 停車中でもスタータスイッチを《ON 00》にすればラジオを聞くことができます。但し長時間の使用は、バッテリーがあがる原因となりますので注意してください。

3 カーステレオ（エアコンDX仕様）

1 各部の名称



2 総合部

・電源/音量つまみ《ON/VOL》

右へ回すと電源がONします。更に右へ回すと音量が大きくなります。カセットテープが入っている時はテープ動作、入っていない時はラジオの状態になります。

・音質調整つまみ《TONE》

音質調整つまみで好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。右へ回すと高音が強調、左へ回すと高音が減衰されます。

・左右バランスつまみ《BALANCE》

バランスつまみで左右の音量を調節します。《R》右へ回すと左スピーカの音が小さく、《L》左に回すと右スピーカの音が小さくなります。通常は中央の位置にしておきます。

3 ディスプレイ部

・時刻表示

本体は、テープ動作中は時刻表示となります。また、ラジオ受信中も時刻表示ですが、バンド切換え、チューニング等ラジオに関するボタンを操作した場合、約10秒間周波数表示となり、時刻表示に戻ります。


・時計セット

メモリボタンを押しながらプリセットボタンの1または2を押すと、時刻の修正ができます。プリセットボタンの1を押すと「時間」が、プリセットボタンの2をおすと「分」が変わります。時刻セットはテープ演奏時または、ディスプレイが時刻を表示しているときに行います。

④ カセットテープ部

- (1) テープ挿入口にカセットテープを挿入するとテープ上面のプログラムプレイが始まります。
- (2) 「FFボタン」を軽く押すと、ボタンがロックし、テープの早送りが始まります。
- (3) 早送りを停止するには「FFボタン」を再度軽く押してロックを解除してください。早送り停止位置からテーププレイが始まります。
- (4) テープを取出したい時、及びラジオを聞きたい時は「FFボタン」を強く奥まで押してください。テープはイジェクトされてラジオの状態になります。テープを聞かない時はカセットを抜取っておきます。

取扱いのポイント

- 本体はオートストップメカニズムを使用していますので、テープ上面のプレイが終了すると、テープは自動停止してラジオの状態になります。従って、テープの上面が終端にある状態でテープを挿入しても、テープは動作せずラジオの状態になります。この場合はテープを裏返してから再度挿入してください。
- スタートスイッチを  (停止) にした時はテープ取出しボタンを押してテープを取出してください。
- 120分テープは、テープ自身が非常に薄く、伸びたり切れたりしますので、使用しないでください。
- テープは鉛筆等でたるみをなくしてからご使用ください。たるみのあるときは誤作動を起こす場合があります。
- テープのラベルがはがれかけていたり、厚みのあるラベルが貼ってあるテープは使用しないでください。テープが取出せなくなる場合があります。

- テープはケースに入れて保管してください。
- テープは直射日光に長時間あてないでください。

⑤ チューナ部

- マニュアルチューニングボタン《TUNE》
手動にて選局を行います。ボタンの上側を押すと受信周波数が高く、下側を押すと低くなります。ボタンを押し続けていると早いペースで周波数が変化します。
- シークチューニングボタン《SEEK》
このボタンを押すと自動的に周波数が高い方に変化して放送を探します。受信可能な放送があると、その周波数で停止して継続受信します。
- バンド切替ボタン《AM・FM》
受信周波数帯を変更する時に押します。一度押す毎にFM1-FM2-AMと切替わります。
- マニュアルメモリボタン《MEMO》
記憶したい放送局をマニュアルチューニングボタンか、シークチューニングボタンで選局します。周波数表示中にこのボタンを押すとディスプレイのMEの文字が点滅します。この時1~6までのプリセットボタンを押すとその周波数が記憶され点滅は停止し、チャンネルNoが表示されます。
- オートストアボタン《A/S》
ラジオ受信中にこのボタンを押すと現存受信中のバンド内の放送を自動的に探してその周波数をプリセットメモリに記憶します。この動作中、ディスプレイの右側のチャンネル表示が変化します。これは、各メモリチャンネルに記憶中であることを示します。
- プリセットボタン《1~6》
オートストアで記憶された放送周波数を、1~6のボタンで単独に呼び出し、受信す

ることができます。1～6のボタンはFMおよびAM共用で合計18局の放送をセットすることができます。

取扱いのポイント

- バッテリー端子を外したときはメモリが取消されることがあります。メモリし直してください。

⑥ 日常のお手入れ

(1) パネル面の掃除

乾いた柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは中性洗剤を少し含ませてふきます。

ベンジン、シンナー、化学ぞうきん類はパネル表面が変質しますので使用してはいけません。

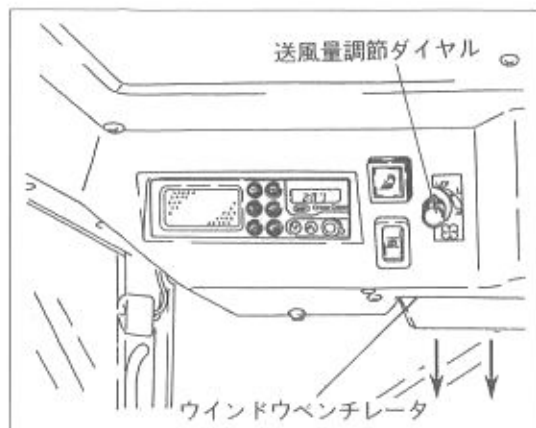
(2) ヘッドの掃除

ヘッドが汚れると音程が狂う、音質が悪くなる、などの原因になりますのでときどき掃除をします。お手入れには市販のクリーニングテープを使用すると便利です。

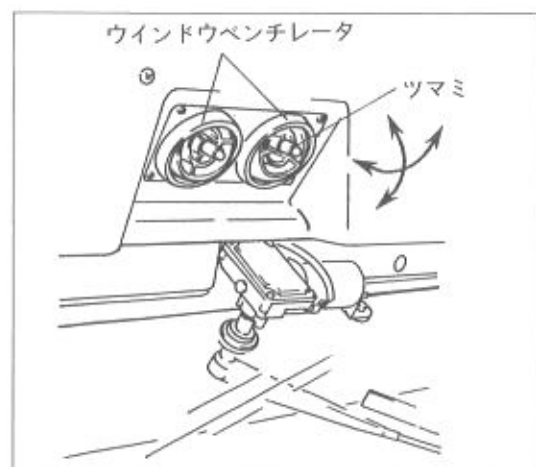
取扱いのポイント

- 電源を《ON/VOL》にしてもラジオまたは、カセットが聞けない場合やディスプレイの色が変わらない場合は、ヒューズG（21ページ参照）を確認してください。異常がない場合は「お買いあげ先」に点検を依頼してください。
- ディスプレイの時刻表示が消えている場合は、ヒューズF（21ページ参照）を確認してください。異常がない場合は「お買いあげ先」に点検を依頼してください。また、その場合はメモリが消えています。メモリをし直してください。

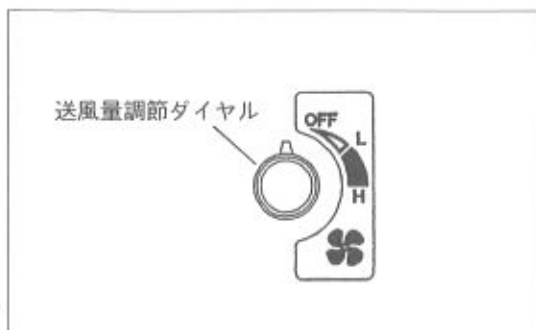
4 ヒーター（ヒーター仕様）



- ① 吹き出し口（ウインドウベンチレータ）
ツマミを動かして風向きを調節します。



- ② 送風量調節ダイヤル
送風量は、2段階に調節できます。



- 《OFF》…送風は止まります。
《L》…送風量は少なくなります。
《H》…送風量は多くなります。

取扱いのポイント

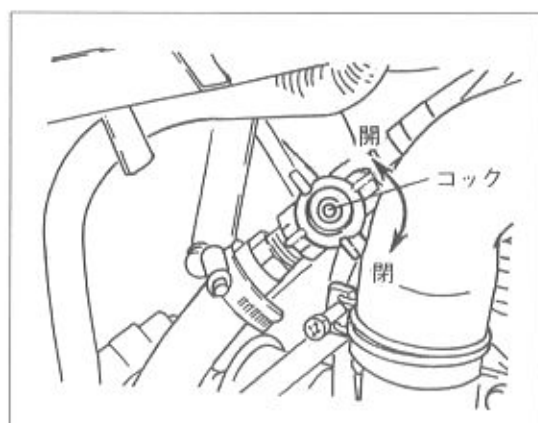
- エンジン冷却水温が低いときに送風しても温風は出ません。

③ ヒーター用コック



- ◆ 運転中またはエンジン停止直後は、コックの温度が上昇していますので、冷えてから操作してください。

ヒーターを使用するときは、ボンネット内のコックを左に回して全開にします。夏期、ヒーターを使用しないときは、ヒーターユニットの熱で室内温度が上昇しないようにコックを閉じてください。



4 使用方法



◆運転中およびエンジン停止直後は、ウォータホースやヒーターユニットに直接ふれないようにしてください。温度が上昇しているため、「火傷」をすることがあります。

(1) 暖房したいときは

- ・ヒーター用コックを開けます。
- ・送風量調節ダイヤルを回して送風にします。

(2) フロントガラスの曇り、霜を取りたいときは

- ・ベンチレータをフロントガラスの方向に向けます。
- ・早く、曇りや霜を取りたいときは、送風量調節ダイヤルを《H》にします。
- ・夏期に曇り止めするときは、ヒーター用コックを閉じて使用します。

(3) 送風したいときは

- ・ヒーター用コックを閉じます。
- ・風向きや送風量は、ツマミおよび送風量調節ダイヤルで適宜、調節します。

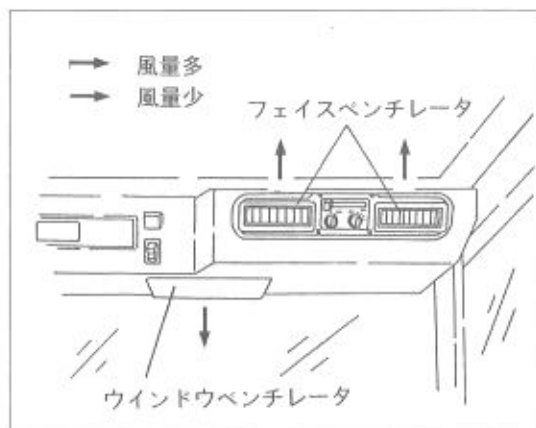
取扱いのポイント

- 長時間作業されるとき、またはタバコを吸われているときは、時々、室内の換気をしてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので、やわらかい布で水気をふき取ってください。
- 送風量調節ダイヤルでは、温度調節はできません。

5 保守管理

- (1) ヒーターには、ラジエータの冷却水を使用しています。冷却水の取扱いについては、「手入れのしかた」の項を参照して行います。
- (2) ウォータホースは、2年ごとに交換します。

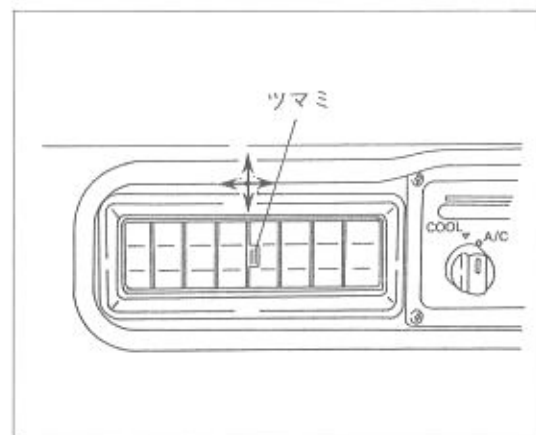
5 エアコン（エアコン仕様、 エアコンDX仕様）



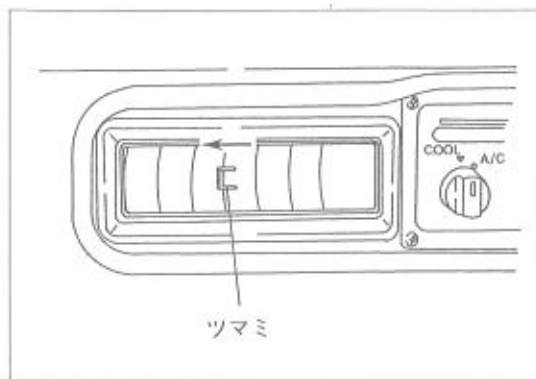
1 吹出し口

（ウインドウ&フェイスベンチレータ）

- ツマミを動かして風向きを調節します。



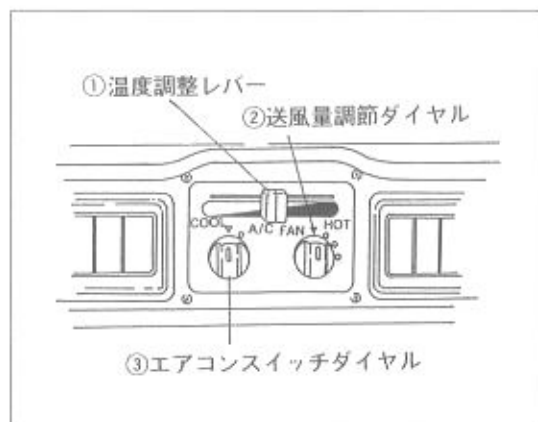
- 送風を止めたいときは、図のように閉じます。



取扱いのポイント

- 冷房し始めたとき、一時的に吹出し口から霧が吹出したように見ることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。

2 コントローラ

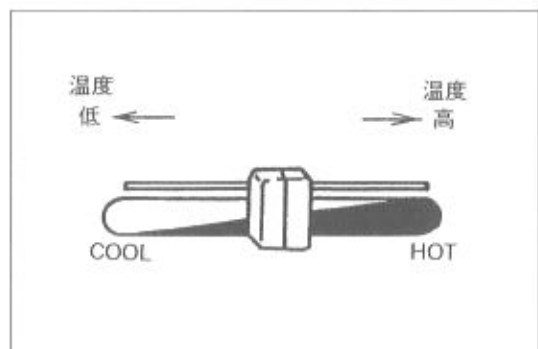


① 温度調整レバー

レバーを動かして送風温度を調整します。

《COOL》…温度が低くなります。

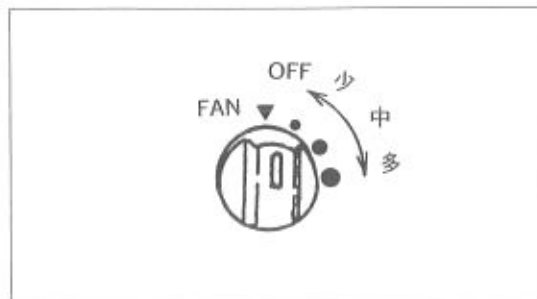
《HOT》…温度が高くなります。



取扱いのポイント

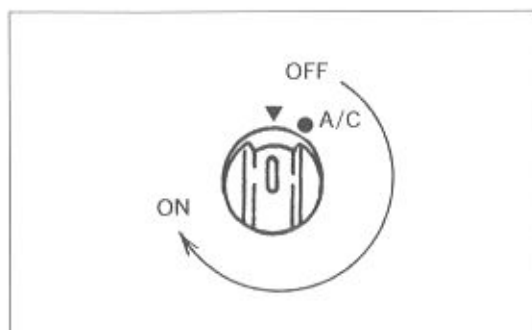
- エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。

- ② 送風量調節ダイヤル
送風量を3段階に調整します。



- 《▼》…送風は止まります。《OFF》
エアコンも同時に切れます。
- 《・》…送風量は少になります。
- 《●》…送風量は中になります。
- 《●●》…送風量は多になります。

- ③ エアコンスイッチダイヤル
エアコンの《ON, OFF》を切替えます。



- 《▼》…エアコンが切れます。《OFF》
- 《●》…エアコンが入ります。《ON》
使用するときには、右いっぱい
回します。

③ ヒーター用コック

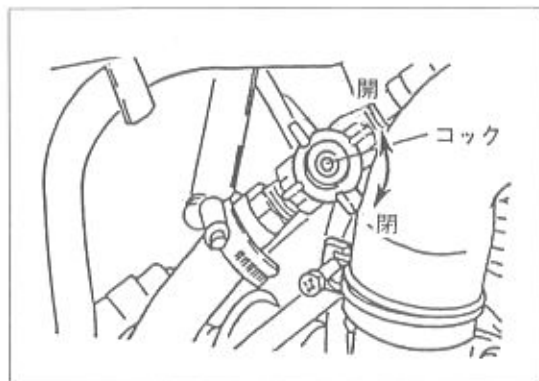


- ◆運転中またはエンジン停止直後は、コックの温度が上昇していますので、冷えてから操作してください。

ヒーターを使用するときには、ボンネット内

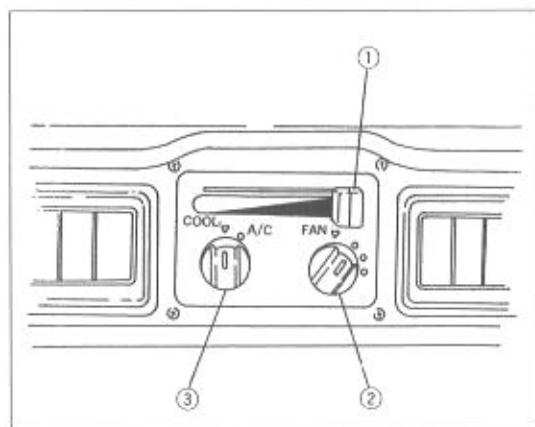
のコックを左に回して全開にします。夏期、ヒーターを使用しないときは、ヒーターユニットの熱で室内温度が上昇しないようにコックを閉じます。

曇りや霜を取りたいときは、コックを半開にします。



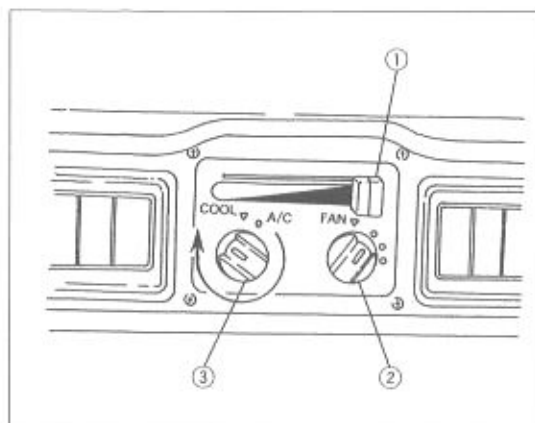
④ 使用方法

- (1) 暖房したいときは



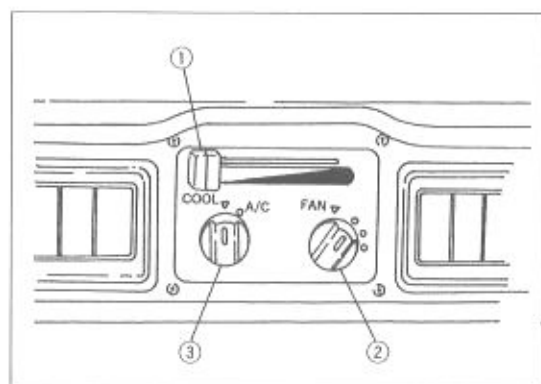
- ①レバー、②③ダイヤルを上図位置にセットします。
- 送風温度および送風量は、それぞれ①レバー、②ダイヤルで適宜、調整します。

(2) ガラスの曇り、霜を取りたいときは



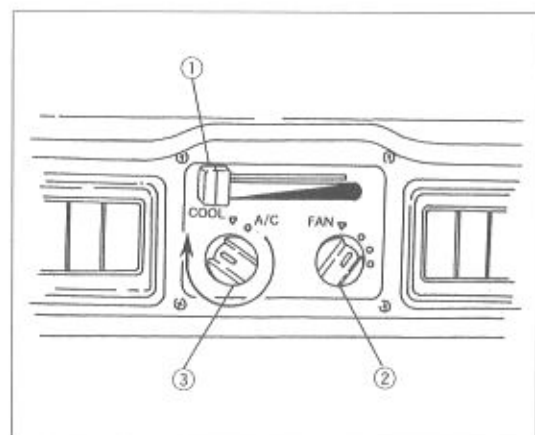
- ①レバー、②③ダイヤルを上図位置にセットします。
- ウィンドウベンチレータをフロントガラスの方向に向け、フェイスベンチレータは適宜、風向きを調整します。
- 送風温度および送風量は、それぞれ①レバー、②ダイヤルで適宜、調整します。
- 夏期に曇り止めするときには、①レバーで送風温度を調整します。

(3) 送風したいときは



- ①レバー、②③ダイヤルを上図位置にセットします。
- ウィンドウベンチレータの送風を止め、フェイスベンチレータは適宜、風向きを調整します。
- 送風量は、②ダイヤルで適宜、調整します。

(4) 冷房したいときは



- ①レバー、②③ダイヤルを上図位置にセットします。
- ウィンドウベンチレータの送風を止め、フェイスベンチレータは、適宜、調整します。
- 送風温度および送風量は、それぞれ①レバー、②ダイヤルで適宜、調節します。

取扱いのポイント

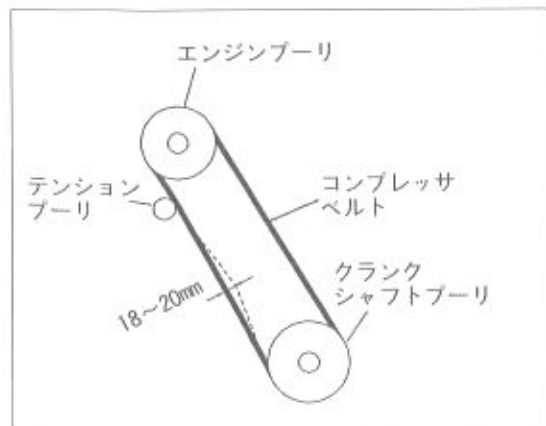
- 長時間作業されるとき、またはタバコを吸われているときは、時々、室内の換気をしてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので、やわらかい布で水気をふき取ってください。
- エアコンは、温度を下げるばかりでなく、湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差5～6℃）に調節してください。また、冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

5 保守管理

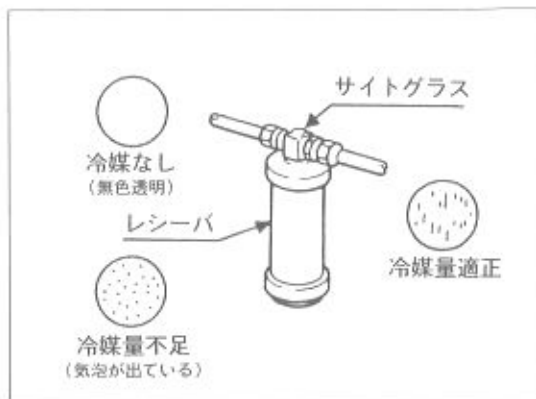
- (1) エアコンは、シーズンオフでも1週間に1度数分間運転してください。

運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ、エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

- (2) コンプレッサベルトのタワミは、下図のように中央部を押して（押す力約10kg）18～20mmの範囲であれば良好です。ベルトが新品の内は初期伸びが大きいため50時間使用後に点検調整を行います。



- (3) 冷媒ガスが不足していると冷えが悪くなります。エアコンの運転中、サイトグラス（点検窓）に気泡が見えないのが適正です。気泡が出ているときは、ガスが不足していますので補充してください。（ガスは新代替物質R134aを使用）



- (4) コンプレッサ及びレシーバへのスチーム洗浄は、冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですのでスチーム洗浄はさけます。

4 キャビンの注油，給水個所

出荷のときは，ウォッシュタンクにウォッシュ液が入っていますが，作業する前に点検します。

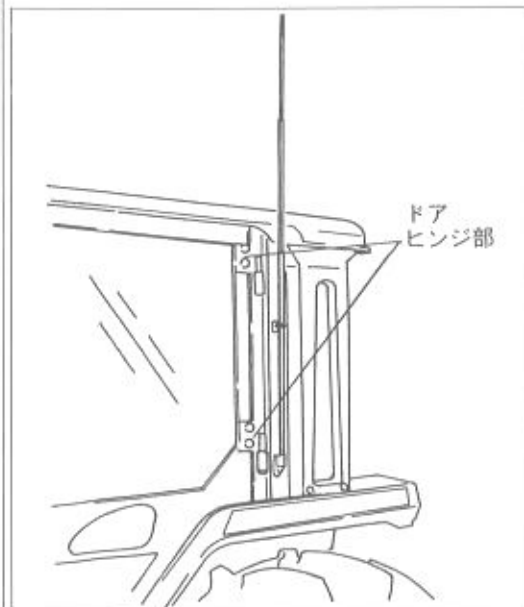
1 注油・給水表

№	油種（水）	注油，給水個所	個所数	容量	交換時間
①	ギヤオイル	ドア（左，右）	4	適量	作業前点検
②	〃	リヤウインドウ	2	〃	〃
③	ウォッシュ液	ウォッシュタンク	1	1.2ℓ	〃（必要量補給）

① ドア（左・右）



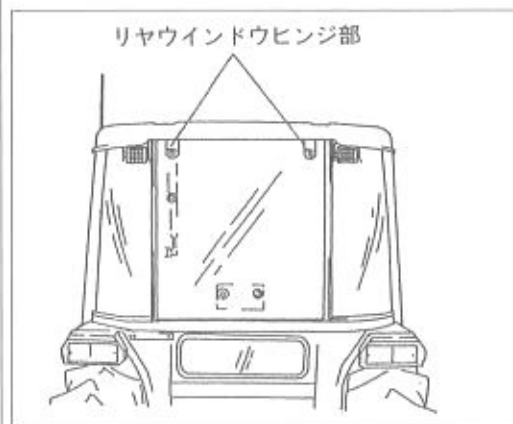
- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（4個所）
- ・ドアの開閉が重いとき，または開閉時に音がする場合は注油します。



② リヤウインドウ



- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（2個所）
- ・リヤウインドウの開閉が重いとき，または開閉時に音がする場合は注油します。



③ ウォッシュタンク



- タンクキャップを外し、ウォッシュ液を給水します。
- 容量……1.2ℓ



手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生ずるので点検・再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。



- ◆掃除・点検・調整・整備する時は、トラクタを平坦な広い場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろし、エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
- ◆作業機を上げて、掃除、点検、調整、整備する時は、油圧をロックし、作業機が降りないことを確認し、作業機の下に固定脚を置いてください。
- ◆取外したカバーは、全て取付けてからエンジンを始動してください。
- ◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検、整備はお買いあげ先へ申しつけてください。
- ◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却するときは、廃却設備のある所で廃却処理してください。
- ◆部品（バッテリー等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」にご相談ください。

1 定期点検整備表

- ・正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期点検整備表」を参考に点検・整備をします。
- ・「定期点検整備表」は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度、調整をします。
- ・表示記号の説明
 - ……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
 - ◎……指定時間ごとに点検し、調整・補給・掃除などの処置をします。
 - ……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					備考
			作業前	50時間	100時間	200時間	300時間	
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	軽油 JIS 2号又は3号・特3号28ℓ
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		エレメント
	燃料ホースの劣化と洩れ	点検・交換	○			●		
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●(初回のみ)	●			ディーゼルオイル CC級以上4.5ℓ
	エンジンオイルフィルタ	交換		●(初回のみ)	●			フィルタ
	ラジエータ(冷却水)	点検・補給・掃除・交換	○					清水、不凍液 6.4ℓ、1年ごとに交換
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				ゴミの多いところでは作業前
	エアクリーナエレメント	点検・掃除		◎				〃
	ファンベルト	点検・調整		◎				ベルト中央部押し 10~13mm
電装関係	バッテリー液	点検・補給	○					
	電気配線(配線、接続部のゆるみ、損傷)	点検・修正	○					損傷の場合交換
本機関係	計器類	点検	○					
	油圧フィルタ	交換			●(初回のみ)		●	
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	●(初回のみ)	●		API.GL-4級以上で湿式ブレーキ用 41ℓ
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎	●(初回のみ)	●		API.GL-3級 SAE80 3.0ℓ
	タイロッド(左・右)、ロッドエンド	点検・補給		◎				グリス適量
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				〃
	クラッチペダル	点検・調整	○					遊び 20~30mm
	ブレーキペダル	点検・調整	○					遊び 25~35mm
	各レバー類の作動	点検	○					
	ボルト、ナットのゆるみ	点検	○					
	タイヤ空気圧	点検	○					前輪 1.5kgf/cm ² 、後輪 1.0kgf/cm ²
	トイーン	点検・調整				◎		0~10mm
	パワステシリンダ油圧ホース	点検・交換						2年ごとに交換

2 点検と掃除

① エンジンオイル、オイルフィルタの点検と交換



安全のポイント

- エンジンオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- オイル交換は、オイルが暖かいうちに行くと容易にできます。
- エンジンオイルは推奨銘柄をご使用ください。(129ページ参照)
- オイルの粘度は、外気温によって下表のように使い分けてください。

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジン オイル	SAE10W-30		SAE20		SAE30
燃料 (軽油)	JIS 特3号	JIS 3号	JIS2号		

① エンジンオイルの点検

レベルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから拔出し、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より規定量位置まで入れます。さらに、油もれのないことも調べます。

② エンジンオイルの交換

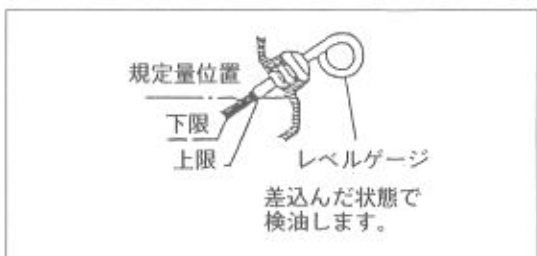
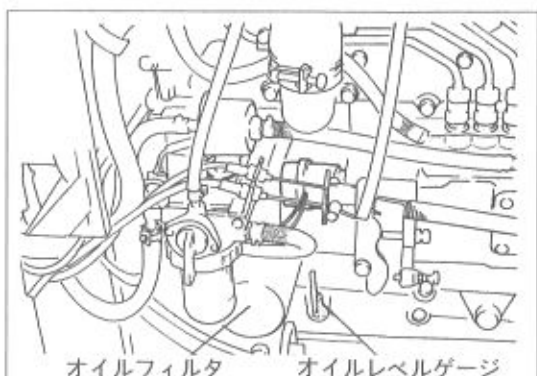
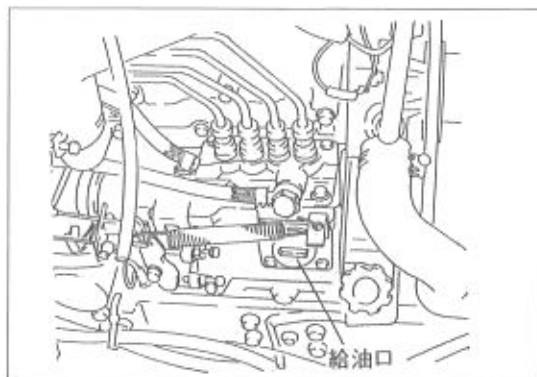
エンジンオイルの交換は、初回は50時間運転後に、第2回目からは100時間運転ごとに行います。

- (1) オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓(2箇所)を外し、オイルを抜

きます。

- (2) 排油栓を締め新しいエンジンオイルを、オイルレベルゲージの刻み線《上》まで給油します。

- オイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CC級以上
- オイル量…4.5ℓ



③ オイルフィルタの交換

オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので、ご購入のうえ交換します。

- ・第1回目……………50時間運転後に交換
 - ・第2回目より…100時間運転ごとに交換
- (1) オイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して、外します。
- (2) オイルフィルタを交換したときは、「オイル量」が多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し、不足のときは規定量まで補給します。

取扱いのポイント

- オイルフィルタを取付けるときは、パッキン面にオイルを塗り、オイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

② 燃料の補給

安全のポイント

- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。
- ◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし、もれている場合は交換してください。

燃料タンクの残量を確認し、「こし網をとおして」燃料（ディーゼル軽油JIS 2号または3号・特3号軽油）を補給します。



取扱いのポイント

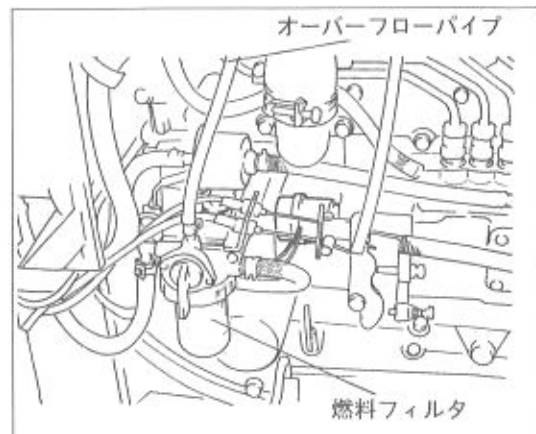
- 軽油は、気温に合わせて、JIS 2号、3号、特3号軽油を使用してください。
 - －10℃までは 2号
 - －20℃までは 3号
 - －20℃以下は特3号

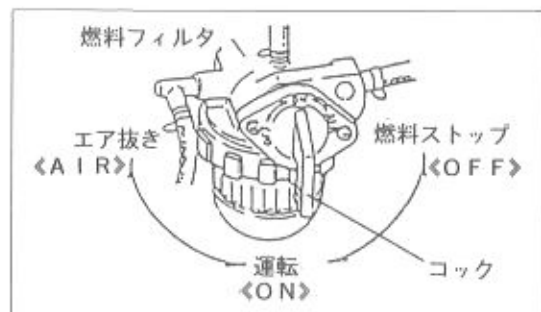
① エア抜き要領（エア抜き容易化装置）

安全のポイント

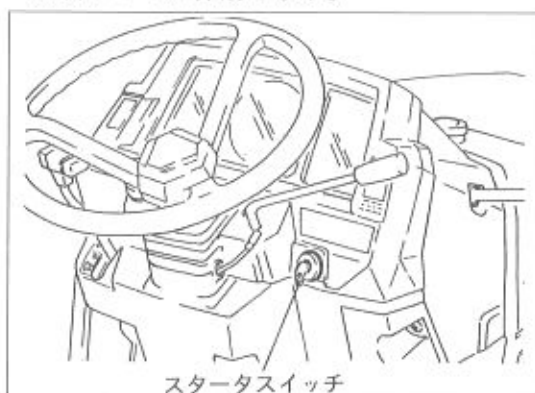
- ◆燃料満タン時や、前傾になっているときは、コックが《AIR》状態になったままですとオーバーフローホースより燃料が洩れますのでこぼれた燃料をふきとってください。

- (1) 燃料が空のときは5ℓ以上補給します。
- (2) ボンネットを開け、右サイドカバーを外します。
- (3) 燃料フィルタのコックを《AIR》にします。





- (4) オーバーフローホースに燃料が上って来るのを確認します。
- (5) オーバーフローホースに燃料が上ったら燃料フィルタのコックを《ON》に戻します。
- (6) スタータスイッチを《ON/OFF》にすると燃料ポンプが作動します。

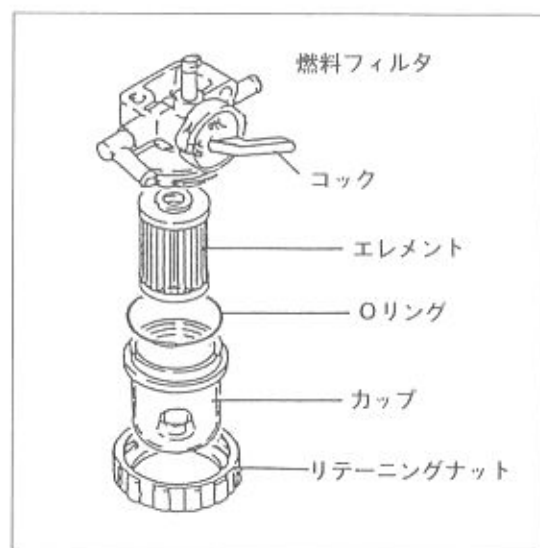


- (7) (6)項の状態を約15秒間保持すると、インジェクションポンプ内のエアが抜けます。
- (8) 以上でエア抜きは完了ですのでエンジンを始動します。
- (9) 始動しないときは、(3)~(7)項を繰返します。
- (10) 右サイドカバーを取付けます。

② 燃料フィルタの掃除と交換

- (1) 50時間ごとに掃除し、200時間ごとに交換します。
- (2) コックを《OFF》の位置にしてリテーニングナットを外します。
- (3) カップを取外し、きれいな軽油で洗浄します。

- (4) エレメントを取外し、きれいな軽油で洗浄または交換します。
- (5) Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け、リテーニングナットを締付けます。
- (6) エア抜き要領に従ってエア抜きをします。



③ 冷却水の保守管理

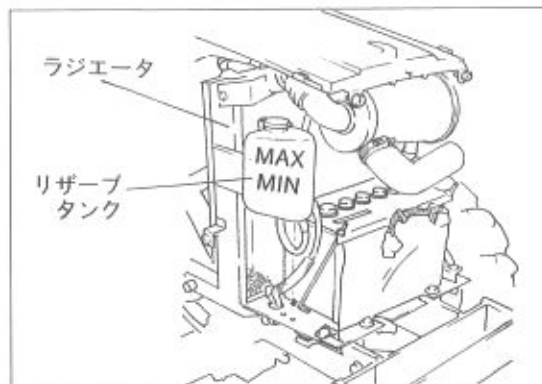


- ◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると、エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

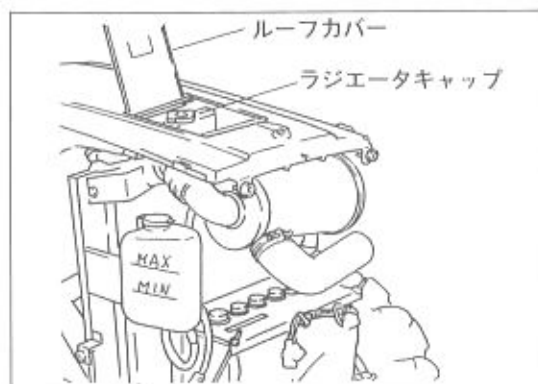
① 冷却水の点検

- (1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。「日常点検」し、冷却水が不足している時は補給します。
- (2) サイドカバー右を開いてリザーブタンク内の冷却水が《MAX》(上限)、《MIN》(下限)の間にある事を確認します。
- (3) 冷却水が不足している時は補給します。

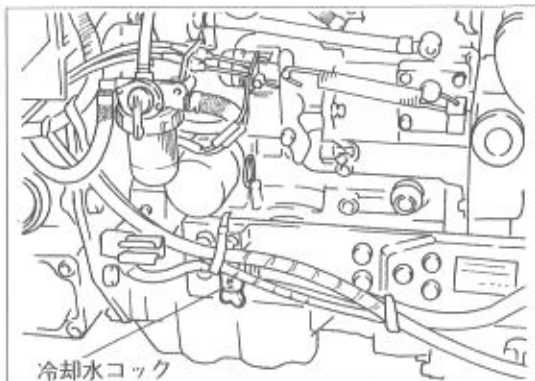


② 冷却水の交換

- (1) ボンネットのルーフカバーを開きラジエータキャップを外します。



- (2) 右サイドカバーを外し、エンジン冷却水コックをゆるめ、冷却水を排水します。
リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



- (3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰り返し、内部を洗浄します。
 - ・洗浄剤を使用すると効果的です。
- (4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで清水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。
 - ・一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補給します。
 - ・エンジンラジエータ内部の腐食を防止するため、冷却水に防錆剤を添加します。
 - ・冷却水量…6.4ℓ

③ 不凍液の注入要領

- (1) 工場出荷のときは不凍液が注入され「外気温度 -25°C 」を保っていますが、納入後1年以上経過すると効力が低下しますので、冷却水を抜き「不凍液濃度基準」を参考に入替えます。

不凍液濃度基準

外気温度	℃	-5	-10	-15	-20	-25	-30
不凍液濃度	%	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50

- ・不凍液は「ロングライフクーラント」を使用します。

- (2) 別容器(ポリバケツ)に不凍液を必要量

(濃度基準表参照) 入れます。

- (3) 清水を加えよく攪拌した後ラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

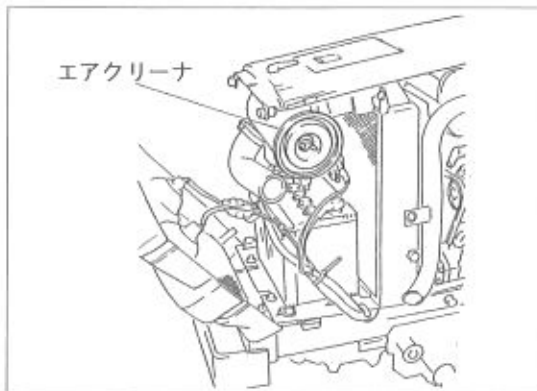
- 一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補給します。

取扱いのポイント

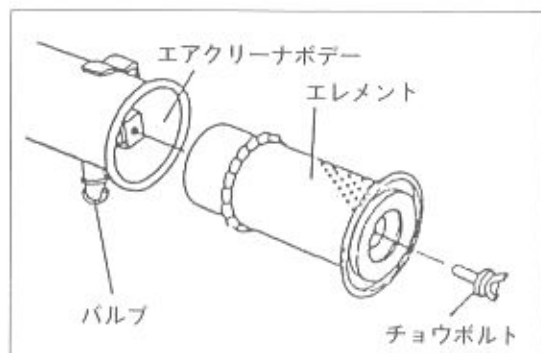
- 冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。
- 冬季には冷却水が凍結し、エンジンやラジエータを破損することがあります。使用後は冷却水を抜きとるかまたは不凍液を混合してご使用ください。

④ エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると、エンジンの内部の摩耗、あるいは出力が低下します。



- ① チョウボルトを外し、エレメントを取出します。
- ② エレメント・エアクリーナボデーの内部・バルブの内部を掃除します。



取扱いのポイント

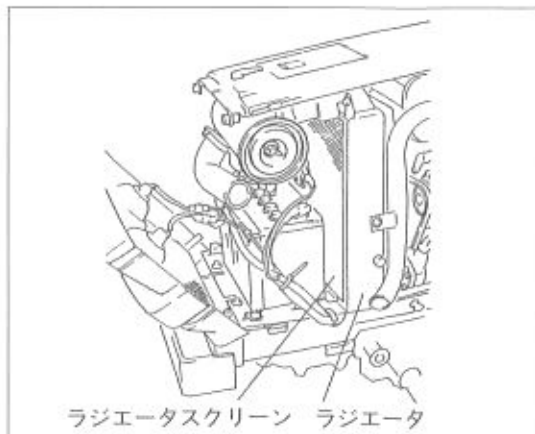
- コンプレッサで吹きつける場合は、空気圧「7 kgf/cm²以下」で行なってください。

⑤ ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除



- ◆ ラジエータ、ラジエータスクリーンの掃除をするときは、エンジンを停止してエンジンが冷えてから行ってください。

- ① ラジエータスクリーンを上側に抜取り、手で「ゴミ・ワラ」等を取除きます。
- ② ラジエータの目詰まりを点検し、詰まっている場合は、まずラジエータ前面の手で取れる大きな「ゴミ・ワラ」等を取除き、エアをファン側より吹きつけ「ホコリ・ゴミ」等を取除きます。



⑥ ミッションオイルの点検と交換

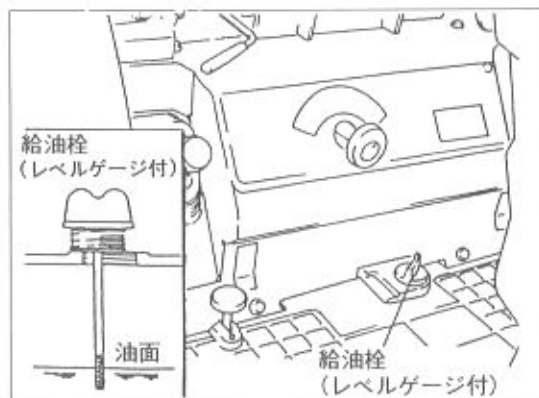


安全のポイント

- ◆ミッションオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

① 点検・補給

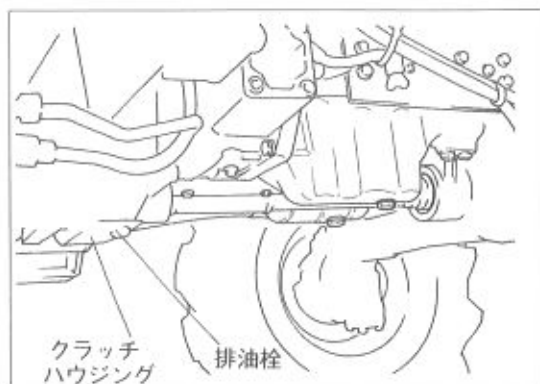
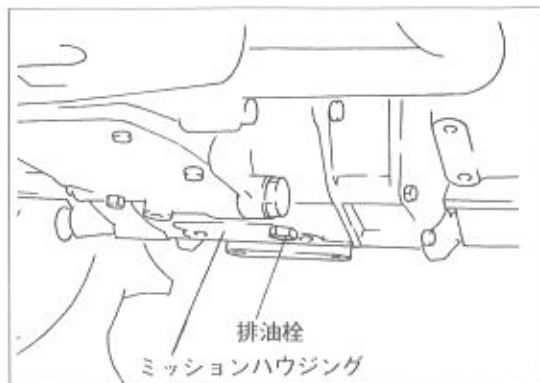
- ・給油栓を外し、レベルゲージの刻み線まであれば適量です。
- ・エンジンを始動しているときは、オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止してから30分以上たってから行います。
- ・エンジン始動前にはオイルレベルを確認します。
- ・不足している場合はレベルゲージの刻み線まで補給します。



② オイルの交換

ミッションオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) ミッションハウジング後方下部およびクラッチハウジング下部1個所の排油栓を外しオイルを抜きます。
- (2) オイルが暖かいうちに行くと容易に抜けます。



- (3) 排油栓を締め新しいギヤオイルを、レベルゲージの刻み線「上」まで給油します。
 - ・ギヤオイル……API, GL-4 級以上で
湿式ブレーキ適性オイル
 - ・オイル量………41ℓ

取扱いのポイント

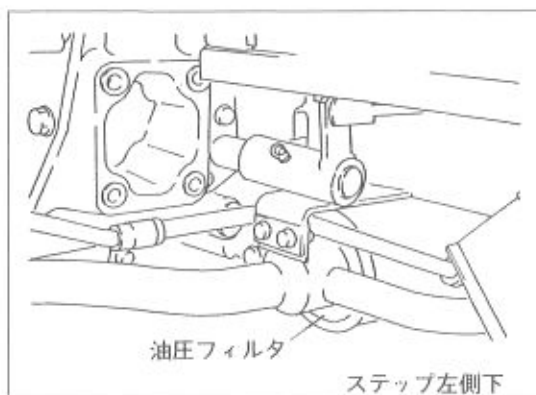
- オイルの量は、エンジン始動前かエンジンが冷えているときに調べてください。

⑦ 油圧フィルタの交換

油圧フィルタは「カートリッジタイプ」ですので、購入のうえ交換します。

- ・初回…100時間運転後に交換
 - ・第2回目より…300時間運転ごとに交換
- ① ステップ左下の油圧フィルタの回りの土などを取除きます。
 - ② 油圧フィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して、外します。

- ③ 油圧フィルタを交換したときは、「オイル量」が多く入るので、5分間運転してからレベルゲージで確認し規定量まで補給します。



取扱いのポイント

- 油圧フィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り、油圧フィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

⑧ フロントアクスルオイルの点検と交換

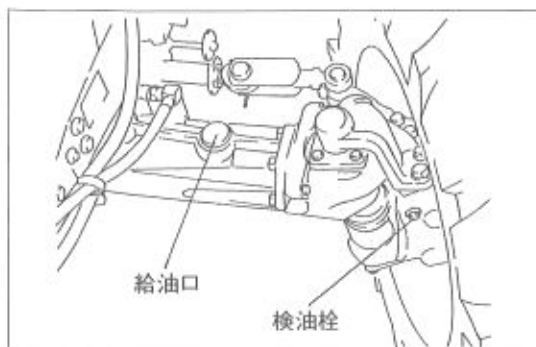


安全のポイント

- ◆ フロントアクスルオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

① 点検・補給

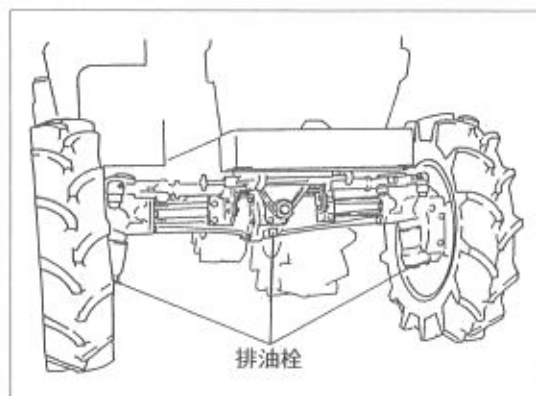
検油栓を外しオイルが出れば適量です。不足している場合は検油穴からオイルが出るまで補給します。



② オイルの交換

フロントアクスルオイルの交換は、初回は100時間運転後に、第2回目からは200時間運転ごとに行います。

- (1) 排油栓（3箇所）を外し、オイルを抜きます。オイルが暖かいうちに行うと容易に抜けます。
- (2) 排油栓を締め、新しいギヤオイルを給油口（右）より規定量給油します。
 - ・ギヤオイル……API, GL-3級, SAE80
 - ・オイル量………3.0ℓ
- (3) 左右の検油栓を取外し、オイルが出たら栓を締めます。



取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- 給油栓を外しデフシャフトの中心から下面までの間にオイルがあるか確認してください。

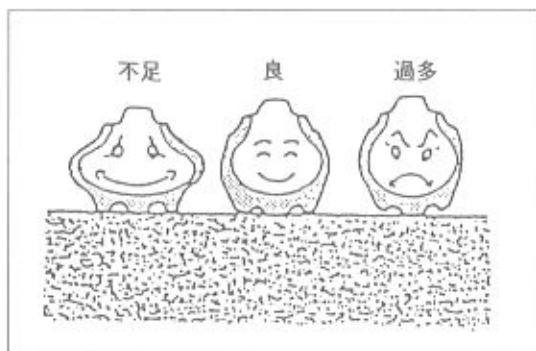
9 タイヤの空気圧および損傷

・空気圧および損傷を点検します。損傷のひどい場合は交換します。

・標準空気圧

前輪……1.5kgf/cm²

後輪……1.0kgf/cm²



取扱いのポイント

●フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を2.5kgf/cm²にしてください。

10 ハンドルの遊びの点検

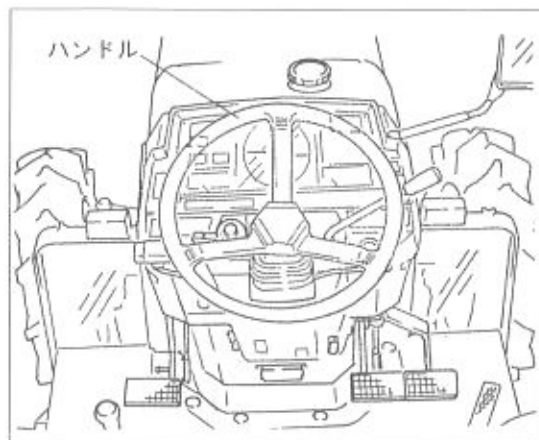
安全のポイント

◆ハンドルに著しいガタや遊びがないか作業前に点検してください。著しいガタや遊びがあると思わぬ事故になることがあります。

ハンドルの遊び量が適正でないと、ハンドルが重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点検します。

① ハンドルを軽く左右に動かして遊び量が40～70mmであれば適正です。

② 遊び量が適正でない場合はただちに点検サービスを受けます。



11 ホース類の点検

安全のポイント

◆燃料ホースの損傷（割れ、破れ、継ぎ部のゆるみ）、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し、もれている場合は、火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると、熱湯が吹き出します。

◆パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや、油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起こす原因になります。

燃料ホース、ラジエータホース、パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。


取扱いのポイント

●燃料ホースは定期交換部品ですので2年ごとに交換してください。

●燃料ホースを交換したときは、エア抜きをしてください。（90ページ参照）

12 電気配線の点検と掃除

安全のポイント

- ◆電気配線の点検時には、スタータスイッチを《》(停止)にし、バッテリーコードのアース側⊖端子を外してください。
- ◆ワイヤハーネスおよびバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。
- ◆エンジン、バッテリー、電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

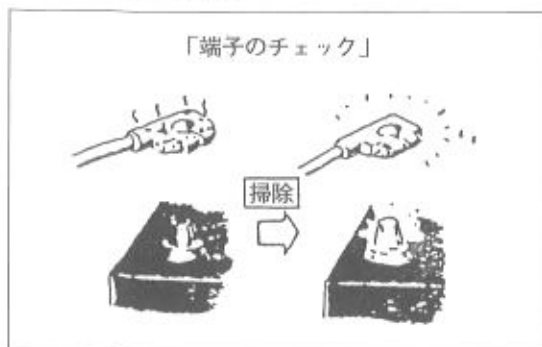
① 電気配線の点検

配線の端子部の「緩み」や「接続不良」または配線が「損傷」していると電気部品の性能を損うだけでなく、「ショート(短絡)」等をする場合があります。

傷んだ配線は、交換、修理します。

② 電気配線の掃除

- (1) エンジン、バッテリー、電気配線部にたまっている「ワラやゴミ」などは「火災」の原因になりますので取除きます。
- (2) バッテリー端子にバッテリー液がかかると、端子が「腐食」することがあります。バッテリー端子が腐食すると、「接触抵抗」が大きくなり、電流が流れにくくなりますので、「定期的」に汚れや腐食をサンドペーパーやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



取扱いのポイント

- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。
エンジン始動不良の原因となります。

13 バッテリーの点検と充電

安全のポイント

- ◆ブースタケーブル接続前にエンジンを停止してください。
- ◆ブースタケーブルは100A以上の仕様のもので使用してください。
容量の小さいケーブルを使用するとケーブルが焼損し火災の原因となることがあります。
- ◆バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、始動キーを抜取ってください。
- ◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると、電装部分が焼損し、負傷をすることがあります。
- ◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
- ◆バッテリーを充電するときは、液口栓をすべて取外してください。
- ◆バッテリーは、充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し、「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり、「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
- ◆⊖端子を取付けたままで充電すると発電器やハーネスを焼損することがあります。
- ◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。
- ◆バッテリー液(電解液)は、希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。

ヤケドをすることがあります。

◆充電のとき「バッテリー液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし、弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

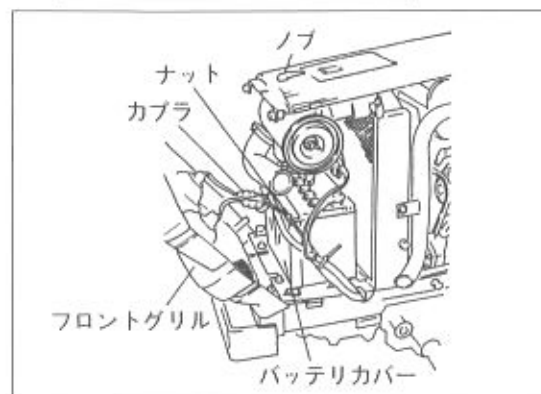
① ボンネット上のノブを時計方向に回して、フックを外し、フロントグリルの上側を少し前に倒します。

② 電気配線のカブラを2箇所外します。

③ フロントグリルを上方に引上げて取外します。

④ ナット2個を緩めて、バッテリーカバーを取外し、バッテリーの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリー……65D31R



⑤ バッテリー取付金具の点検

バッテリーの取付けがゆるいと上下左右に動き、電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

取付金具でしっかり固定します。

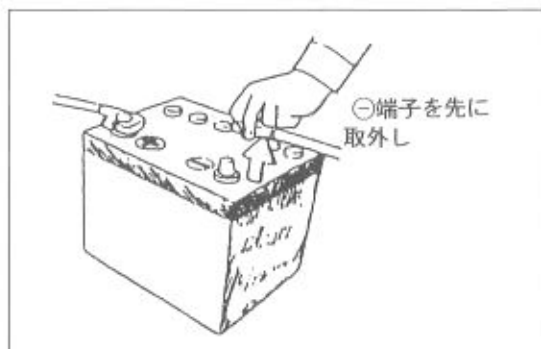
取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

⑥ バッテリー着脱時の注意

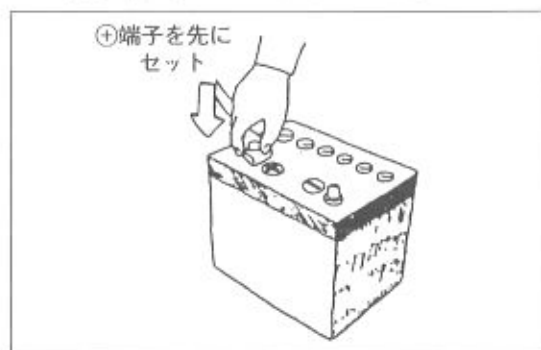
(1) バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、「始

動キー」を抜取り、すべての制御スイッチを「OFF」(切)にします。

(2) バッテリー端子を取外すときは「アース側⊖端子」を先に外します。



(3) バッテリー端子をセットするときは「プラス側⊕端子」を先に取付けます。

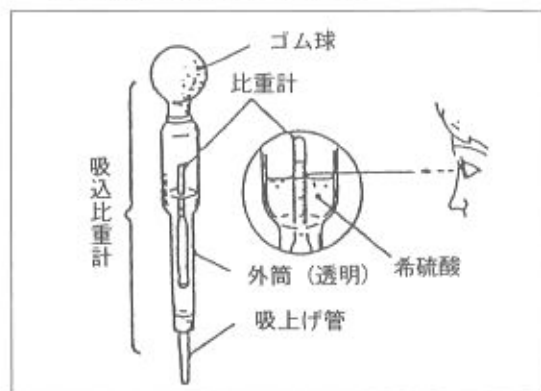


⑦ 残存容量の確認

バッテリー液の「比重」を測定する方法と、「バッテリーテスタ」で測定する方法があります。

残存容量が低下していれば、ただちに補充電をします。

(1) バッテリー液の比重が「1.220(20℃)」以下であれば補充電をします。



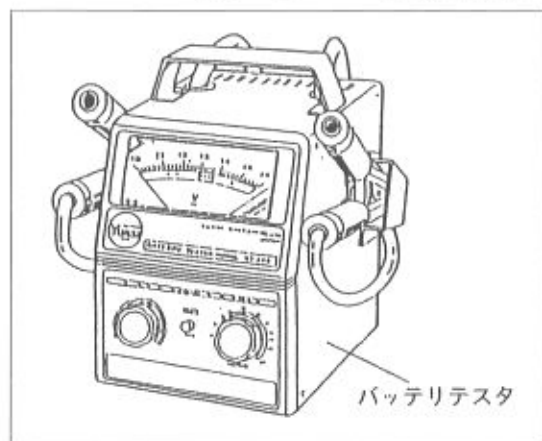
比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残容量 (%)
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

(2) バッテリテスタで測定し、メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

緑ゾーン……………正常

黄ゾーン……………やや放電

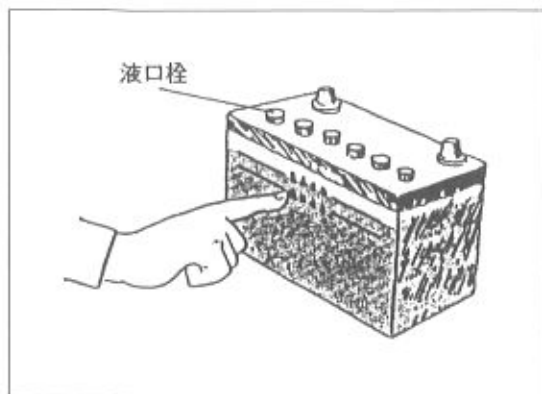
赤ゾーン……………かなり放電



8 バッテリ液量の確認

使用状態での充電電流によりバッテリー液が電気分解され、しだいに液面が低下します。バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。

減っていれば、バッテリー補充液を「最高液面」まで注水補給します。

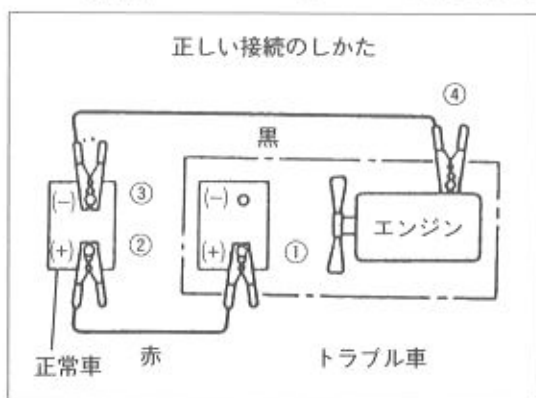


9 ブースタケーブルの使いかた

バッテリーが放電し、エンジンが始動できないとき、他車(12V仕様車)の良好なバッテリーを電源として始動するため、ブースタケーブルを使用します。ブースタケーブルは100A以上の仕様のものを使用します。このときは次の手順を守って行います。

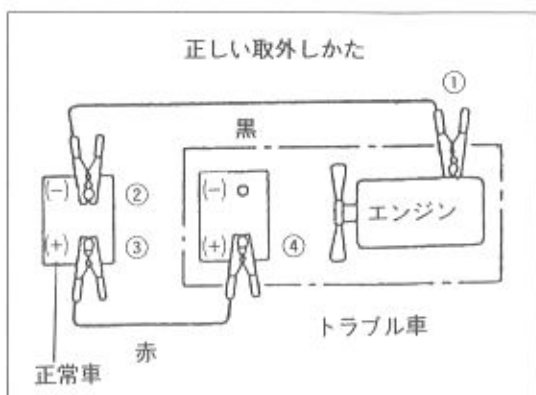
「ブースタケーブルの接続のしかた」

- (1) 正常車のエンジンを停止して、図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。
- (2) 放電バッテリー搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから、放電バッテリー搭載車のエンジンをスタートさせます。



「ブースタケーブルの取外し方」

- (1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは、接続の場合と逆の順序で行います。

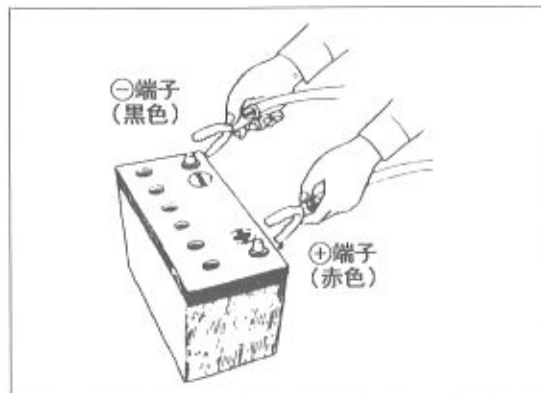


⑩ バッテリーの充電

- (1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し、「始動キー」を抜取ります。
- (2) 機械からバッテリーを外します。
- (3) 充電するときは「液口栓」をすべて取外します。



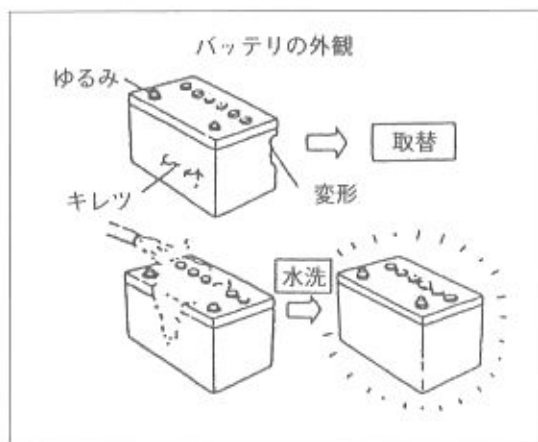
- (4) 急速充電はできるだけ避け、普通充電し液温が「45℃」を超えないようにします。
- (5) 「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。
- (6) 「火気」を近づけたり「スパーク」による電気火花が発生ないようにします。
- (7) 充電器のクリップを着脱するときは、充電器のスイッチを「切」にし、⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



- (8) 充電のとき「バッテリー液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- 各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき、バッテリー部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリー部には、腐食防止のためグリスを塗布してください。
- バッテリー⊕端子のゴムブーツは、取付けてください。
- 厳寒時は、機械を格納するときにバッテリーを外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリーは新品と取替えてください。汚れていけば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。
- 化学繊維製布による拭きとりは、静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。



3 調整のしかた

- 各部は出荷のときに正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくる場合がありますので再調整を行い、損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。



安全のポイント

- ◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

1 ベルトの点検・調整

ファンベルトの張り調整

点検	ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し、たわみ量が「10～13mm」となっていますか。	
調整	<ol style="list-style-type: none"> オルタネータ取付ボルト、ナットをゆるめます。 ・オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。 ・オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。 調整後は取付ボルトを確実に締付けます。 	

2 ペダルの点検・調整

クラッチペダルの遊び調整

点検	クラッチペダルの遊び量が「20～30mm」となっていますか。	
調整	<ol style="list-style-type: none"> ロックナットをゆるめます。 ロッドを回して調整します。 ねじ込む…遊びが少なくなります。 ねじ戻す…遊びが多くなります。 ロックナットを締付けます。 締付トルク…120～170kgf・cm 	



安全のポイント

- ◆調整後、クラッチペダルを踏込んで、クラッチが確実に切れることを確認してください。

ブレーキペダルの遊び調整

点検	<p>左右のブレーキペダルの遊び量が各々「25～35mm」になっていませんか。</p>	
調整	<ol style="list-style-type: none"> ① ロックナットをゆるめます。 ② ロッドを回して調整します。ねじ込む…遊びが少なくなります。ねじ戻す…遊びが多くなります。 ③ ロックナットを締付けます。締付けトルク…210～300kgf・cm 	
確認	<p>左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効き…片輪制動その場旋回をしてみてもブレーキの効きを確かめます。(左右) ・片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し、普通走行で走り、両方のブレーキペダルを一緒に踏んで、タイヤスリップ跡により片効きの有為を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが、曲がって止まる場合は再調整します。 	



安全のポイント

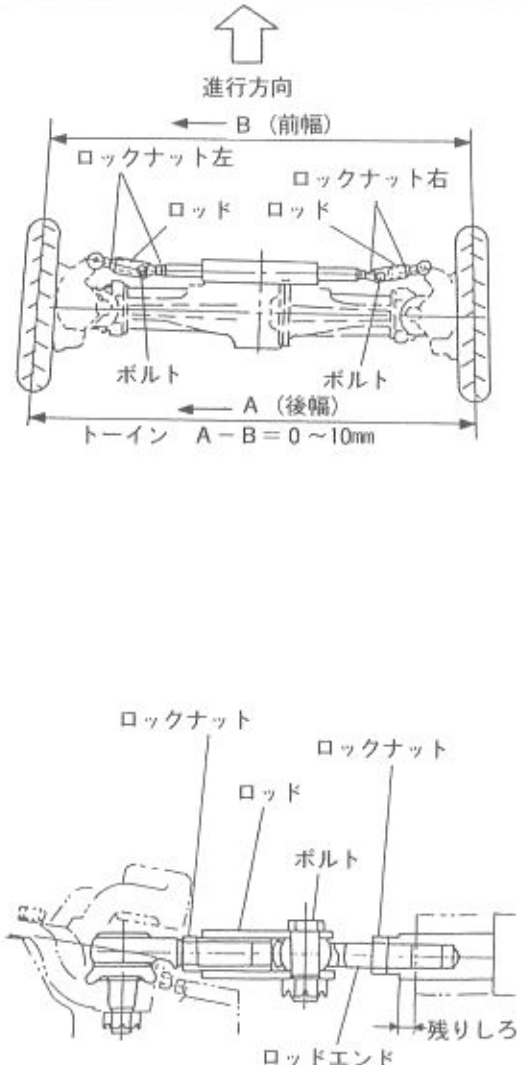
◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。

ブレーキの効きが悪かったり、片効きなどがあると転落、転倒事故の原因となります。

③ トーインの点検・調整

- ・トーインは車の安定性を左右する重要な役目を持っています。走行中にハンドルがとられやすくなった時はトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。
- ・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

タイロッドの調整

点検	<p>トーインが「0～10mm」になっていますか。(タイヤ中心)</p>	
調整	<p>シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように、次の要領でロッドを調整します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。 ② 調整する側のロッドのロックナット（2個所）をゆるめます。 ③ ロッドを回してロッドエンドをネジこめばトーインは大きくなります。 調整は1回転単位とし、ボルトの頭は「上方」になるよう調整します。 ④ 調整後はロックナットを確実に締付けて、フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。 締付トルク 1500～1700kgf・cm 	



安全のポイント

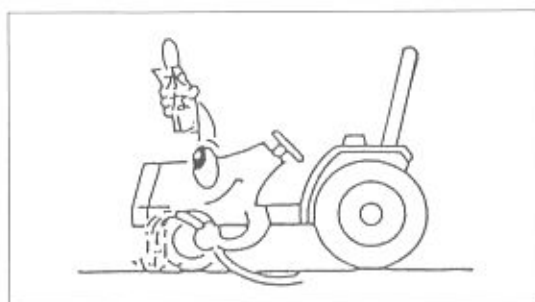
- ◆トーインの調整が悪いとハンドルを取られたり、異常に振られることがあります。

4 格納のしかた

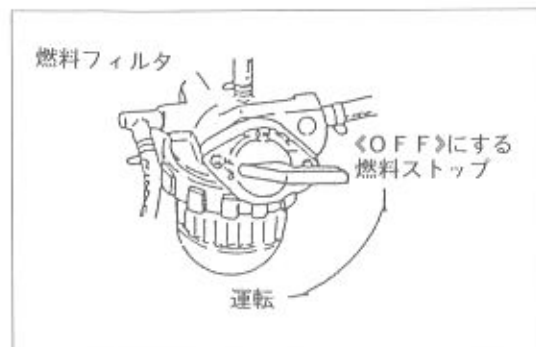
1 機械の掃除・洗浄・格納

トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

- ① 金属露出部、ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。
- ② 油もれ個所、各部の油量を点検し約5分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせませす。
- ③ 冷却水を完全に排出する。この場合「水なし」の警告札をハンドルにつけておくと、次回に冷却水の入れ忘れがなく重宝です。但し、不凍液を入れている場合は抜く必要はありませんが不凍液の濃度を調整します。



- ④ 燃料タンクに軽油を満タンにし、燃料フィルタのcockを《OFF》にします。



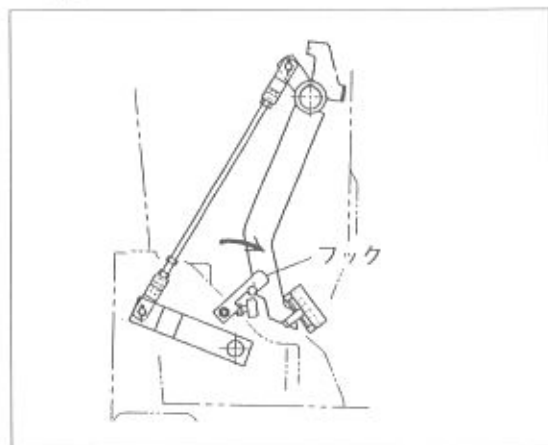
- ⑤ タイヤの老化を防止するために空気圧を高めて入れてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かない。
- ⑥ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

安全のポイント

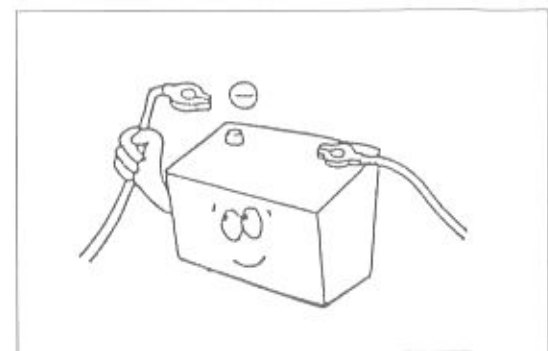
◆機械にシートカバーを掛ける時はエンジンが冷えてから行なってください。

エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

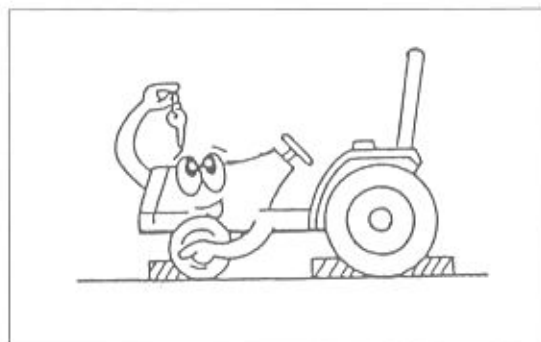
- ⑦ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「熱い状態」ではシートカバーをかけない。
- ⑧ ウェイト類を取外します。
- ⑨ クラッチこら着防止のため、クラッチペダルを押下げ、フックをかけてクラッチ「切」の状態にします。



- ⑩ 保管中の不意な漏電、発火を防ぐためバッテリーを車体から取外し、風通しの良い屋内に保管します。また機体に取付けたまま保管するときはバッテリーのマイナスターミナル（アース側）を外しておきます。



- ① 保管中、不意にトラクタが動き出すのを防ぐため、タイヤに歯止めをし、キーを抜取っておきます。



取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。
- 高圧洗車機にて洗浄する場合には、メータパネルおよび電装品に直接水をかけないでください。
- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。

② 格納中の手入れ

- ① 1ヶ月に1度、防錆、バッテリー補充電のためエンジンを約10分間回します。
- ② 金属露出部、ネジ部を点検し、防錆処置をします。
- ③ 油もれ、水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

取扱いのポイント

- エンジンを回す前に冷却水、バッテリーターミナル等保管準備で処置した項目を復元してください。

③ 再使用にあたって

格納後、はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

- ① 冷却水、バッテリーターミナル等保管準備で処置した項目を正しく復元します。
- ② 始業点検を確実にを行います。

不調の発見と処置

- ・異常を感じたときは、すぐにその原因を調べて対策をし故障を大きくしないようにします。
- ・原因がわからないときは、「お買いあげ先」に相談のうえ処理します。
- ・そのときは「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」を合わせてお知らせください。



安全のポイント

- ◆掃除・点検・調整・整備は、機械を平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジン回りを点検・整備するときは、エンジンが冷えてから行なってください。

1 エンジン部

始動しない、または始動困難

状 況	原 因（点検箇所）	処 置	参照ページ
① スタータスイッチを回しても、スタータが回らない	○クラッチペダルの踏み忘れ	・ペダルをいっぱい踏込みます。	33, 34
	○バッテリーの放電	・バッテリーを充電、交換をする	96, 100
	○各部端子のゆるみ	・はずれ、ゆるみ、腐食を点検し掃除して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく	96
	○ヒューズブルリンクの熔断	・配線をチェックしヒューズブルリンクを交換する	22, 96, 126
② スタータが回るが、回転が上がらない	○セフティスイッチの故障	・サービス工場での修理または交換をする	96～100 96 29, 30, 89
	○スタータの故障	・サービス工場での修理または交換をする	
	○バッテリーの放電	・バッテリーの充電をする	
	○アース不良	・接続部を掃除し、アースを確実にする	
	○エンジンオイルの粘度不適	・適正粘度のオイルに交換する	

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
③スタータは回るが、エンジンがかからない	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料タンクに燃料がない ○燃料フィルタのコックが《O N》になっていない ○燃料フィルタ詰まり ○燃料系統にエア混入 ○燃料ポンプの故障 ○エンジン本体の不具合 	<ul style="list-style-type: none"> ・補給する ・《ON》にする ・フィルタの掃除または交換をする ・エア抜きを行う ・燃料ポンプの交換 ・サービス工場で修理する 	29, 30, 90 30, 90 91, 125 - 90, 91

エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①エンジン回転が不規則	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料系統にエア混入 ○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり ○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり ○パイプ系の燃料もれ ○燃料噴射の不揃い 	<ul style="list-style-type: none"> ・エア抜きを行う ・フィルタの掃除または交換をする ・サービス工場で修理する ・クランプの締付け、パイプ交換をする ・サービス工場で修理する 	90, 91 91, 125
②エンジンを低速にすると停止する	<ul style="list-style-type: none"> ○インジェクションポンプの不良 ○エンジンバルブクリアランス不良 ○ノズル不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する 	
③エンジンが過回転する	<ul style="list-style-type: none"> ○ガバナにゴミ等が詰まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス工場で修理する 	
④運転中エンジンが突然停止した	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料不足 ○ノズル不良 ○オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付き 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料補給とエア抜きを行う ・サービス工場に依頼し交換をする ・サービス工場に依頼する 	29, 30, 90, 91

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
	<ul style="list-style-type: none"> ○エンジンオイル不足などによる油圧低下 ○ヒューズEの溶断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンベルトの張り調整をして動けば燃料不足か、ノズル不良の場合が多い ・配線をチェックしヒューズを交換する 	<p style="text-align: center;">101</p> <p style="text-align: right;">21, 96</p>
⑤エンジンが過熱する	<ul style="list-style-type: none"> ○ラジエータの目詰まり ○冷却水の不足 ○ファンベルトのゆるみ、破損 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジエータスクリーンを掃除する ・冷却水を補給する ・ベルトの張り調整または交換をする 	<p style="text-align: center;">93</p> <p style="text-align: right;">29, 31, 91, 92 101, 125</p>
⑥エンジンの排気色が白い (除く始動直後)	<ul style="list-style-type: none"> ○エンジンオイル量が多すぎる ○エンジン本体の不具合 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検し適正量にする ・サービス工場での修理 	<p style="text-align: right;">29, 30, 89</p>
⑦エンジンの排気色が黒すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ○エアクリナーが詰まっている ○燃料が悪い ○燃料の供給過剰 ○ノズル不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレメントの掃除をする ・正規の燃料に入替える ・サービス工場での修理 ・サービス工場での修理 	<p style="text-align: right;">93, 125 29, 30, 90</p>
⑧エンジンの出力不良	<ul style="list-style-type: none"> ○エアクリナーの詰まり ○燃料不足, 燃料フィルタの詰まり ○噴射時期不良 ○バルブクリアランス調整不良 ○圧縮圧力の不足, バルブシート部よりガスもれ ○ノズルの焼付き, 詰まりおよびカーボンのたまり 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレメントを掃除する ・燃料系統をチェックする ・サービス工場での修理 	<p style="text-align: right;">93, 125 29, 30, 90 91, 100, 125</p>
⑨運転中オイルランプが点灯する	<ul style="list-style-type: none"> ○エンジンオイル量が少ない ○エンジンオイルの粘度が低い ○オイルフィルタの目詰まり ○プレッシャスイッチの故障 ○オイルポンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・規定量まで補給する ・適正粘度のオイル交換する ・オイルフィルタを交換する ・スイッチを交換する ・サービス工場での修理 	<p style="text-align: right;">29, 30, 89 29, 30, 89, 129 89, 90, 125</p>

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
⑩運転中に チャージラ ンプが点灯 する	○配線の故障 ○ヒューズの断線 ○オルタネータの故障 ○ファンベルトのゆるみまたは 破損	・端子のゆるみ汚損, アース不 良の修理をする ・配線をチェックしヒューズを 交換する ・サービス工場で修理する ・張り調整またはベルト交換を する	96 101, 125
⑪始動する がすぐとま る	○エンジンオイル量が少ない (安全装置が作動)	・オイルを補給する	29, 30, 89
⑫エンジン が停止しな い	○バッテリーの放電 ○キー切りタイマ接続不良 ○キー切りタイマ故障 ○ヒューズA, Eの断線 ○ヒューズブルリンクの断線	・充電 ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する ・配線をチェックしヒューズを 交換 ・ヒューズブルリンク交換	98, 99, 100 21, 96 22, 96, 126

2 走行・運転操作部

走らない、ブレーキがきかない

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
①クラッチがすべる	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングの摩耗・焼付き	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場でライニングを交換する	101
②クラッチが切れない	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングの錆付き	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場で修理する	101
③ブレーキの効きが悪 いまたは片 効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる	・ペダルの遊びを調整する	102
	○ブレーキライニング摩耗・焼付き ○左右の踏込み量が異なる	・サービス工場でライニングを交換する ・踏込み量を左右同じにする	102
④ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷 ○各摺動部のグリス切れ	・スプリングを交換する ・グリスアップをする	29, 32
⑤ダイヤクイックター ンが作動し ない (ダイヤク イックター ン装備機)	○配線のキボシおよびカブラの外れ	・点検しセットする	21, 96
	○ヒューズBの断線 ○ソレノイドバルブ、ダイヤクイックターンスイッチ、副変速スイッチの故障	・配線をチェックしヒューズを交換する ・サービス工場で修理する	21, 96
		故障したときはダイヤクイックターンスイッチを速やかに切ってください。	7, 8, 46

パワーステアリング

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①圧力があ がらない	<ul style="list-style-type: none"> ○回路中のエア溜まり ○シール類の損傷 ○配管の損傷、油もれ ○パワーステアリングのユニット不良 ○ポンプの不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・サクシヨン系配管を点検し完全にエア抜きをする ・サービス工場で修理する ・増締め、又は交換する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する 	<p>26</p> <p>26, 100</p>
②ハンドル が重い ハンドル がとられる	<ul style="list-style-type: none"> ○タイヤ空気圧の不揃い ○ロッドエンドの遊び発生 ○使用オイルの粘性大 ○トーイン不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・左右共に規定空気圧にする ・サービス工場で交換する ・オイル交換または暖機運転を十分に行う ・修正をする 	<p>95</p> <p>26, 29, 31</p> <p>93, 94</p>
③追従性不 良	<ul style="list-style-type: none"> ○油量不足 (ミッションオイル) ○各締付部のゆるみ発生 ○ロッドエンドの遊び発生 ○エア混入 ○パワーステアリングユニットの不良 ○ギヤポンプの損傷・摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・規定量まで補給する ・増締めをする ・サービス工場で交換する ・サクシヨン系配管を点検し完全にエア抜きをする ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理・交換をする 	<p>29, 31, 93, 94</p>
④前輪のふ らつき (ハンドル の遊びが多 い)	<ul style="list-style-type: none"> ○各締付部のゆるみ発生 ○ロッドエンドの遊び発生 ○トーイン不良 ○エア混入 	<ul style="list-style-type: none"> ・増締めをする ・サービス工場で交換する ・修正をする ・サクシヨン系配管を点検し完全にエア抜きをする 	<p>103</p> <p>103</p> <p>26</p>
⑤油圧回路 系の異常音	<ul style="list-style-type: none"> ○油量不足 (ミッションオイル) ○吸入抵抗過大によるキャビテーション音 	<ul style="list-style-type: none"> ・規定量まで補給する ・暖機運転を十分に行う ・オイル粘度を点検し、指定オイルに交換する ・油圧フィルタの交換 ・パイプのつぶれ等は修理 	<p>29, 31, 93</p> <p>26</p> <p>26, 29, 31</p> <p>93, 94</p> <p>94, 125</p>

3 油 圧 部

油 圧 関 係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①油圧回路の異常音	<ul style="list-style-type: none"> ○油量不足 (ミッションオイル) ○吸入抵抗過大によるキャビテーション音 	<ul style="list-style-type: none"> ・規定量まで補給する ・暖機運転を十分に行う ・オイル粘度を点検し、指定オイルに交換する ・油圧フィルタの交換をする ・パイプのつぶれ等は修理する 	29, 31, 93 26 29, 31, 93, 94 94, 125
②油圧が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> ○油量不足 (ミッションオイル) ○吸入パイプ系統からエアを吸込む ○油圧フィルタの詰まり ○ギヤポンプの故障 ○コントロールバルブの故障 ○シリンダの破損 	<ul style="list-style-type: none"> ・規定量まで補給する ・フィルタケースや取付部などを増締め、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換する ・交換する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で交換する 	29, 31, 93 94, 125
③配管に油もれがある	<ul style="list-style-type: none"> ○各部ジョイントのゆるみ ○Oリングの切れ ○パイプの亀裂 	<ul style="list-style-type: none"> ・増締めを行う ・交換する ・サービス工場で交換する 	
④油圧レバーを上げにするとピーというリリースバルブの音がする	<ul style="list-style-type: none"> ○ストップ位置の調整不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・上げ側ストップを調整します 	23
⑤リフトアームが下がらない	<ul style="list-style-type: none"> ○降下速度調節レバーがロック位置になっている ○コントロールバルブの故障 ○リフト・シャフト回動部の焼付き ○バルブ下げスプリングの切損 (PAC車) 	<ul style="list-style-type: none"> ・《開》の方向に操作する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する 	24

4 電気・自動制御部

電気関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
① バッテリーが充電しない (運転中チャージランプが点灯する)	○配線の故障	・端子のゆるみ汚損, アース不良を修正する	21, 96
	○ヒューズブルリンクの断線	・配線をチェックし, ヒューズ・ヒューズブルリンクを交換する	22, 96, 126
	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	101, 125
	○バッテリーの機能不良 ○オルタネータ不良	・端子のゆるみ, 腐食, 電解液の不足などを修正する ・サービス工場での修理する	96~100
② 前照灯が暗い	○バッテリーの放電 ○オルタネータ不良	・充電する ・サービス工場での修理する	96~100
③ 前照灯が点灯しない	○ヒューズEの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 96
	○電球の切れ	・電球交換をする	126
	○配線のコネクタ外れ	・点検しセットする	96
	○接触不良	・アースおよびターミナルの点検掃除をする	96
④ ホーンが鳴らない	○ヒューズCの断線 ○ホーンの損傷	・配線をチェックしヒューズを交換する ・修理または交換する	21, 96
⑤ 方向指示灯が点滅しない	○電球切れ	・電球を交換する	126
	○ヒューズCの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 96
	○フラッシュユニットの故障	・交換する	
⑥ パネルランプ類が点灯しない	○電球切れ ○ヒューズCの断線	・交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する	21, 96

電気関係 (285H型)

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
①制動灯が点灯しない	○ヒューズCの断線 ○電球切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96
②後退灯が点灯しない	○ヒューズCの断線 ○電球切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96 126
③車幅灯が点灯しない	○ヒューズCの断線 ○ヒューズEの断線 ○電球切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96 21, 96 126
④尾灯が点灯しない	○ヒューズCの断線 ○ヒューズEの断線 ○電球切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96 21, 96 126
⑤番号灯が点灯しない	○ヒューズCの断線 ○ヒューズEの断線 ○電球切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96 21, 96 126

自動制御関係 (マイコン装備機)

状 況	原 因 (点検個所)	処 置	参照ページ
①ポジションコントロールが作動しない	○ヒューズBの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する (再発するとき、それでも作動しないときは、点検サービスを受ける)	21, 61, 96
②傾斜自動が作動しない	○ヒューズBの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する (再発するとき、それでも作動しないときは、点検サービスを受ける)	21, 61, 96
③耕深自動が作動しない	○ヒューズBの断線	・配線をチェックしヒューズを交換する (再発するとき、それでも作動しないときは、点検サービスを受ける)	21, 61, 96

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
④ 電動シリンダが作動しない	○ヒューズBの断線 ○電動シリンダのコネクタが外れている	・ヒューズを交換する ・確実に差込む	21, 61, 96
⑤ ブザーが鳴らない	○ヒューズCの断線	・ヒューズを交換する	21, 61, 96

キャビン関係 (キャビン装備機)

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
① 室内灯が点灯しない	○ヒューズFの断線 ○電球切れ	・ヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96 126
② ラジオ (カーステレオ) の時計が表示しない	○ヒューズFの断線 ○カーステレオのヒューズ (1 A) の断線 (カーステレオ)	・ヒューズを交換する ・ヒューズを交換する	21, 96 21, 96
③ ラジオ (カーステレオ) が作動しない	○ヒューズGの断線 ○カーステレオのヒューズ (5 A) の断線 (カーステレオ)	・ヒューズを交換する ・ヒューズを交換する	21, 96 21, 96
④ ウォッシュ液が出ない	○ヒューズGの断線	・ヒューズを交換する	21, 96
⑤ ワイパが作動しない	○ヒューズGの断線 ○ブレーカが突出している	・ヒューズを交換する ・ブレーカを押し上げる	21, 96 72
⑥ ヒーター (エアコン) が作動しない	○ヒューズHの断線	・ヒューズを交換する	21, 96
⑦ 作業灯が点灯しない	○ヒューズIの断線 ○電球切れ	・ヒューズを交換する ・電球を交換する	21, 96 126

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線のソケット外れ、接触不良およびアース不良の点検も合わせて行ってください。
- ヒューズの断線が再発するときは点検サービスを受けてください。

付 表

1 主要諸元

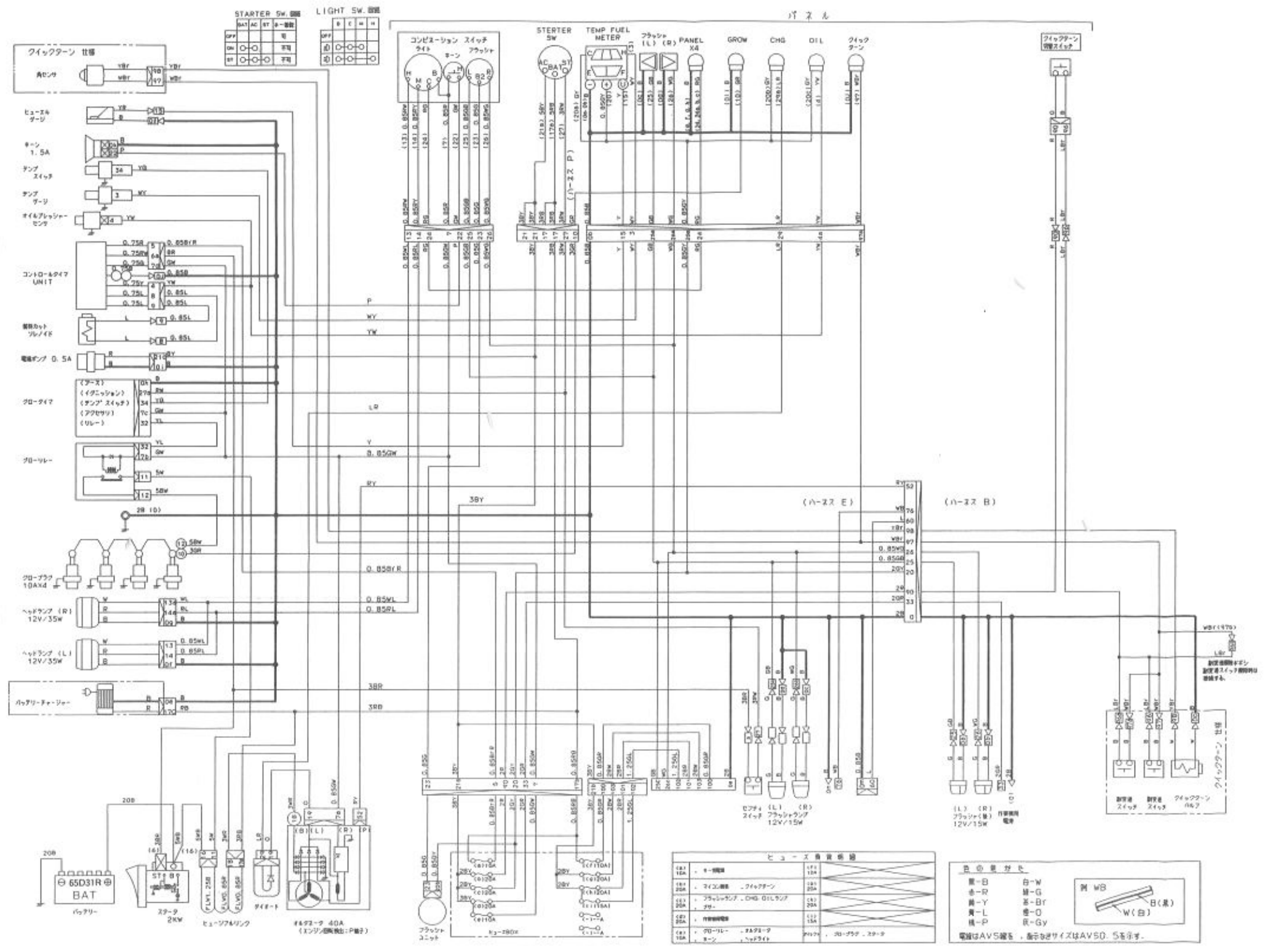
型 式	225型	245型	265型	285型	285H型	305型	
駆 動 方 式	4 輪駆動						
機 体 寸 法	全 長 (ロワリンク先端) mm	3015			3075	3150	
	全 幅 mm	1280	1290	1355	1390	1410	
	全 高 (ハンドル上端) mm	1855<1920> (1410)	1880<1945> (1430)	1905<1970> (1455)	1930<1995> (1470)	1930<2010> (1470)	1930<1995> (1470)
	最 低 地 上 高 mm	300	315	345			
機 体 質 量 (重 量) kg	1200<1330>	1230<1370>	1260<1390>	1310<1440>	1320<1450>	1295<1425>	
エ ン ジ ン	型 式 名	S4L9		S4L			
	種 類	水冷4サイクル4気筒ディーゼル					
	総 排 気 量 cc{ℓ}	1462 {1.462}		1500 {1.500}			
	出力/回転速度 PS{kW}/rpm	22.5{16.5}/2500	24.5{18.0}/2500	26.5{19.5}/2500	28.5{21.0}/2500	30.5{22.4}/2500	
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量 ℓ	28					
	バ ッ テ リ V・Ah	12・56 (5)					
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	6-14	7-14	7-16		
		後 輪	9.5-22	9.5-24	11.2-24	11.2-26	12.4-24
	軸 距 mm	1565		1605		1755	
	輪 距	前 輪 mm	1070			1115	
後 輪 mm		1015,1160 (2段階)		1050~1350 (5段階)	1095~1345 (4段階)	1095~1395 (4段階)	
ク ラ ッ チ 形 式	乾式単板						
ブ レ ー キ 形 式	ディスク式 (湿式)						
か じ 取 方 式	パワーステアリング						
変 速 方 式	[標準機]常時かみ合い式 [バルソフト装備機]同期かみ合い式						
変 速 段 数	前進16段, 後進16段						
走 行 速 度	前 進 km/h	0.24~12.54	0.25~13.23	0.26~13.04	0.28~13.75	0.29~22.35	0.29~13.88
	後 進 km/h	0.22~11.60	0.24~12.24	0.24~12.06	0.26~12.73	0.20~15.74	0.27~12.84
最 小 旋 回 半 径 m	2.1		2.2				
P T O 軸	回 転 速 度 rpm	543, 774, 965, 1266 513, 731, 912, 1197		555, 791, 986, 1294 500, 712, 888, 1165		581, 828, 1033, 1312 523, 746, 930, 1181	
	軸 径 mm	35 (6 スプライン)					
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール					
	装 着 方 式	3点リンク1形					

〈 〉内はキャビン装備機を示します。

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

2 電気配線図

1 標準機 [225・245・265・285・305型]



ユーズ負荷表

181	0-000	111	10A
182	10-000	112	10A
183	20-000	113	10A
184	30-000	114	10A
185	40-000	115	10A
186	50-000	116	10A
187	60-000	117	10A
188	70-000	118	10A
189	80-000	119	10A
190	90-000	120	10A

色の表がた

黒-B	白-W
赤-R	緑-G
青-Y	茶-Bt
黄-L	橙-O
紫-P	灰-Gy

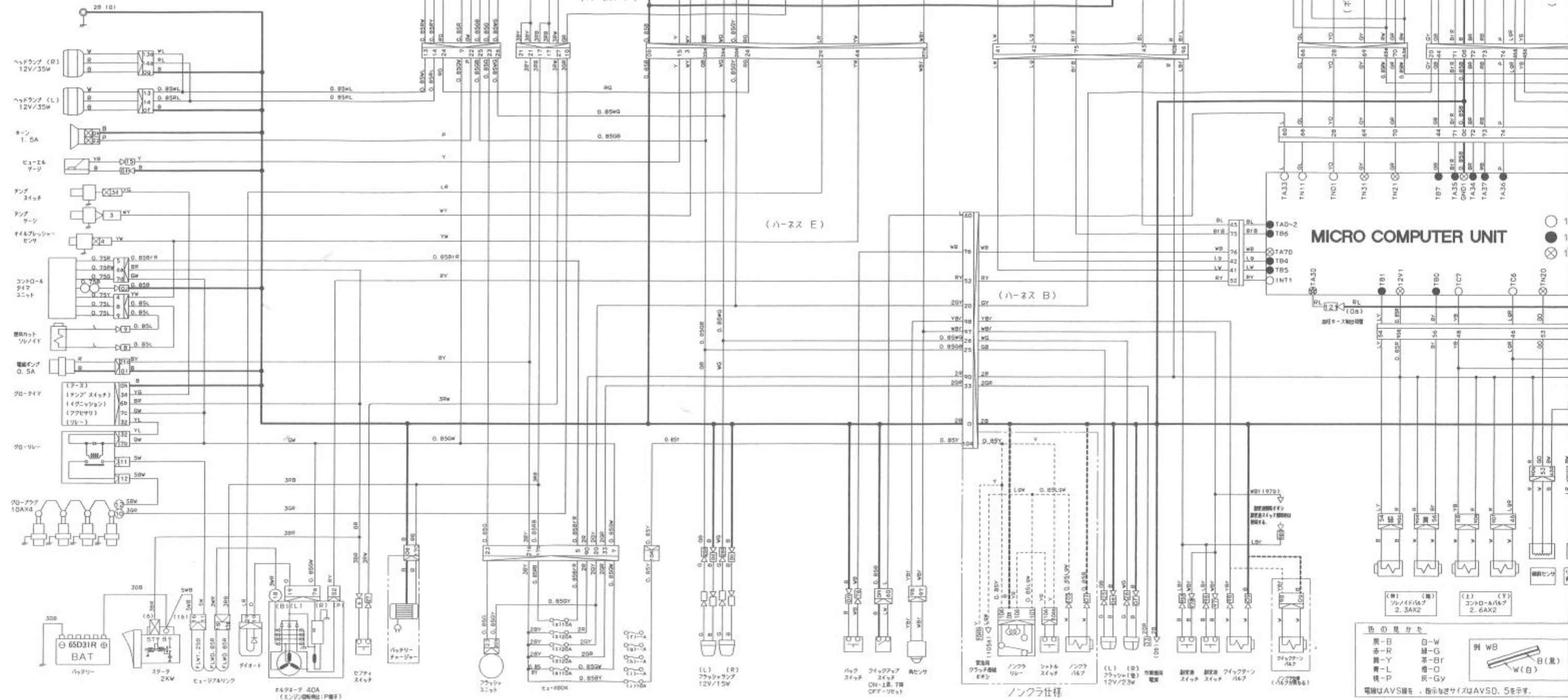
電線はAVS線を、表示のサイズはAVSD. Sを示す。



3 マイコン装備機

ヒューズ負荷明細		LIGHT SW	
品番	仕様	色	容量
101	10A	B	5W
102	20A	C	10W
103	30A	M	15W
104	40A	W	20W

STARTER SW	
品番	仕様
101	10A
102	20A
103	30A
104	40A

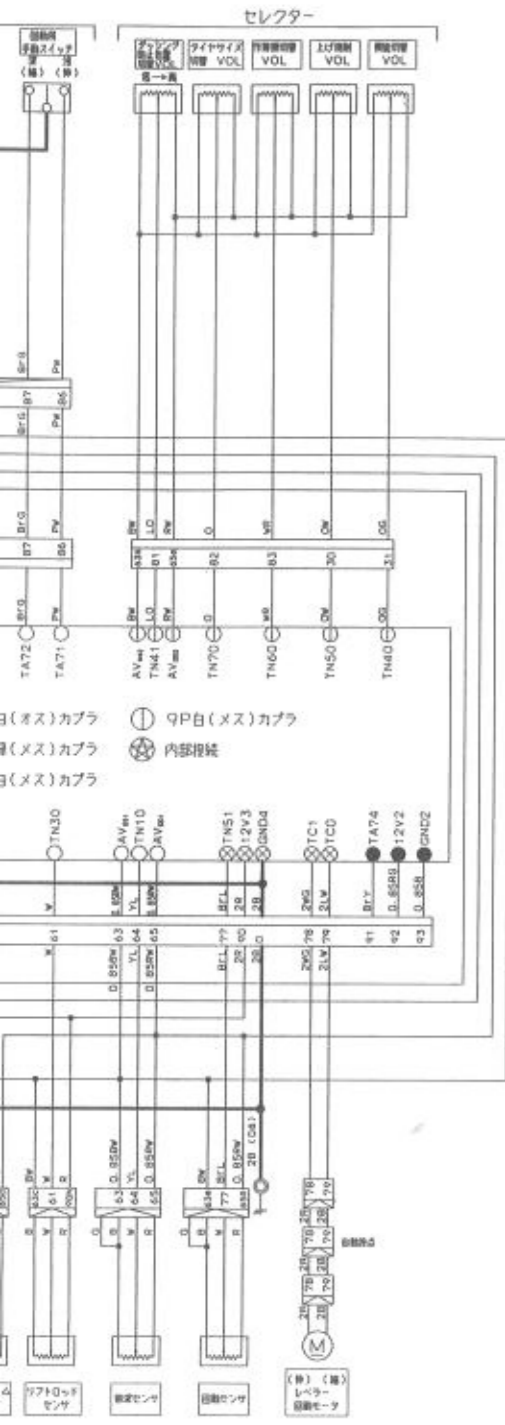


色の見分け

黒-B 白-W
赤-R 緑-G
黄-Y 茶-BR
青-L 青-O
紫-P 灰-GY

例 WB
W(白)
B(黒)

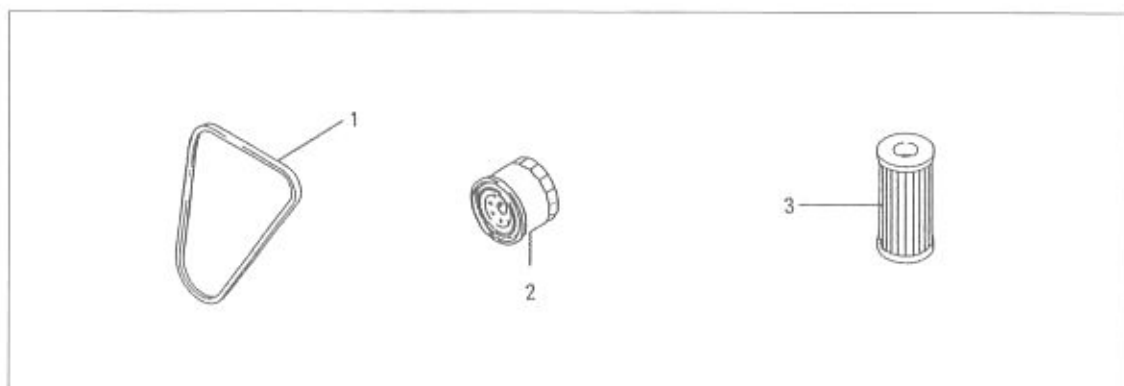
電線はAVS線を、指示サイズはAVSD.5を示す。



付表

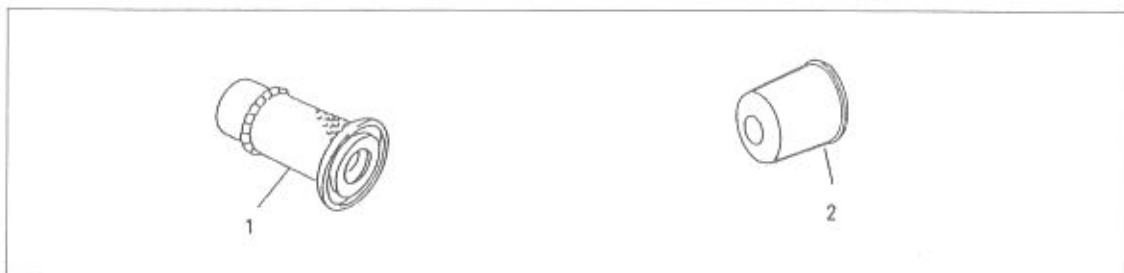
3 主な消耗部品

① エンジン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	MD088955	ファンベルト	1		HM L=980
2	MD134953	フィルタアセンブリ	1		
3	MM320886	フュエルエレメント	1		

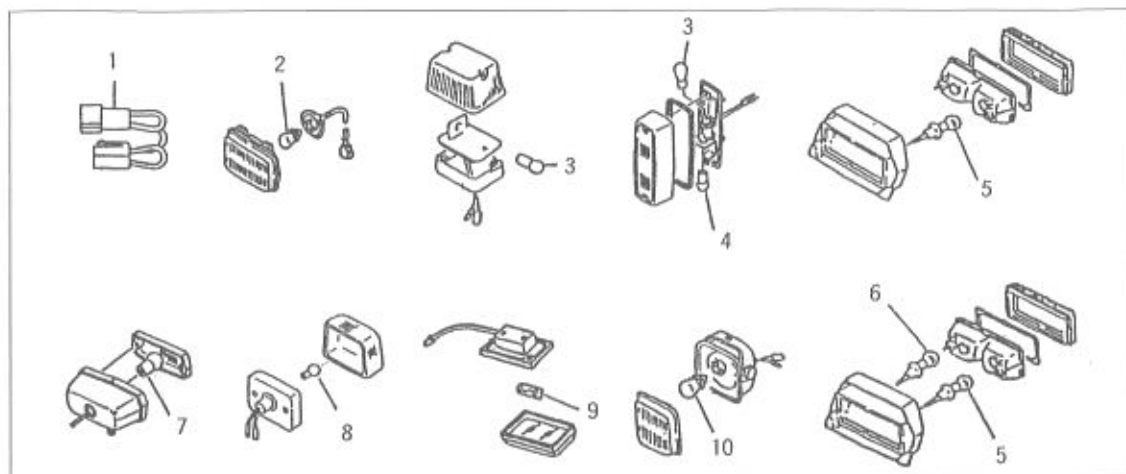
② エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1031 0511 200	エレメント	1		
2	1035 2509 000	油圧フィルタ	1		

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3 電装関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1025 3543 000	ヒューズブルリンク	1		※1
	1025 2879 200	ヒューズブルリンク	1		※2
2	6740 4-01 720	バルブ	2	12V-35W	前照灯
3	0980 8121 504	バルブ	2	12V-15W	方向指示灯(前)
	1179 2938 110	バルブ	2	12V-23W	方向指示灯(前)[285H型]
4	1179 2938 120	バルブ	2	12V-10W	車幅灯[285H型]
5	0980 8121 504	バルブ	2	12V-15W	方向指示灯(後)
	0980 8122 304	バルブ	2	12V-23W	方向指示灯(後)[285H型]
6	1035 2816 200	バルブ	2	12V-23/8W	制動灯/尾灯[285H型]
7	1179 2942 110	バルブ	1	12V-20W	後退灯[285H型]
8	0980 8121 001	バルブ	1	12V-10W	番号灯[285H型]
9	3532 3833 200	バルブ	1	12V-10W	室内灯 ※2
10	1035 6281 200	バルブ	2(4)	12V-27W	作業灯 ※2

注) ※1…キャビン装備機以外

※2…キャビン装備機

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただきます場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

4 アタッチメント一覧表

次のアタッチメントを基本作業機として準備しておりますのでご利用ください。

コードNo	名 称	型 式	225型	225L型	245型	245L型	265型	265L型	主 な 仕 様	
			○	○	○	○	○	○		
1	3211110010	リンケージドロバ	○	○	○	○	○	○	JIS1型	
2	3210640200	ドロバ	○	○	○	○	○	○	引出し式	
3	3210120030	パンパウェイト	○	○	○	○	○	○	20kg 5個まで装着可	
4	3210150161	パンパウェイト	○	○	○	○	○	○	20kg 6個まで装着可	
5	3210150171	パンパウェイト	○	○	○	○	○	○	22kg 6個まで装着可	
6	3210150211	シャーンウェイト	○	○	○	○	○	○	32kg	
7	3210330041	リヤホイールウェイト	○	○	○	○	○	○	32kg 4個まで装着可	
8	3211650080	ルーフキット	○	○	○	○	○	○	2柱折り畳み式	
9	3214011311	LK ホイル (SB)	○						9.55-22用	
10	3214112411	LK ホイル (LB)	○						9.55-22用	
11	3214112761	LK ホイル (LA)	○						9.55-22用	
12	3214112421	LK ホイル (LB)		○	○				9.55-24用	
13	3214112621	LK ホイル (LA)		○	○				9.55-24用	
14	3214112431	LK ホイル (LB)				○	○		11.2-24用	
15	3214112781	LK ホイル (LA)				○	○		11.2-24用	
16	3214112851	LK ホイル (LA)						○	○	11.2-26用
17	3215210476	ダイヤホイール	○						9.55-22用	
18	3215210516	ダイヤホイール		○	○				9.55-24用	
19	3215210526	ダイヤホイール				○	○		11.2-24用	
20	3254111351	代かきロータ(サイド用)	○	○	○	○	○	○	RB140S用	
21	3254111361	代かきロータ(サイド用)	○	○	○	○	○	○	RB150S用	
22	3254211270	代かきロータ(サイド用)	○	○	○	○	○	○	RB160S用	
23	3254211300	代かきロータ(センタ用)	○	○	○	○	○	○	RB140C用	
24	3254210507	代かきロータ(センタ用)	○	○	○	○	○	○	RB150C用	
25	3250160070	延長パイプキット	○	○	○	○	○	○	R1416C、R1516C用、延長幅150mm×2	
26	3250160090	延長カバーキット	○	○	○	○	○	○	RB140C、RB150C用、延長幅150mm×2	
27	3255910306	クイックレベラ	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.2m	
28	3255910181	クイックレベラ	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.2m、デラックス型	
29	3255910276	クイックレベラ	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.4m	
30	3255910216	クイックレベラ	○	○	○	○	○	○	レベラ幅2.4m、デラックス型	
31	3250511120	うね立器ブラケット	○	○	○	○	○	○	固定式 (ℓ:130)	
32	3250511140	反転うね立器ブラケット	○	○	○	○	○	○	反転式 (ℓ:130)	
33	3250511240	うね立器45型	○	○	○	○	○	○	底幅135mm	
34	3250511250	うね立器6型	○	○	○	○	○	○	底幅180mm	
35	3252111010	反転式片培土器 (右)	○	○	○	○	○	○	横反転式 (右用) 底幅120mm	
36	3252111020	反転式片培土器 (左)	○	○	○	○	○	○	横反転式 (左用) 底幅120mm	
37	3252111030	反転式片培土器 (右)	○	○	○	○	○	○	横反転式 (右用) 底幅190mm	
38	3252111040	反転式片培土器 (左)	○	○	○	○	○	○	横反転式 (左用) 底幅190mm	

	コードNo	名 称	型 式	225型	225L型	245型	245L型	265型	265L型	285型	主 な 仕 様
				○	○	○	○	○	○	○	
39	3281111070	ロードマスタ	LAD-2228MA	○	○	○	○	○	○	○	制限荷重350kg、手動レバー式
40	3281111080	ロードマスタ IC	LAD-2228MAIC	○	○	○	○	○	○	○	制限荷重350kg、電磁バルブ式
41	3281410211	標準バケット	B-W25	○	○	○	○	○	○	○	容量0.13m ³
42	3281410221	爪付きバケット	TB-2125F2	○	○	○	○	○	○	○	爪数6本、容量0.13m ³
43	3281410231	広幅バケット	WB-2125F2	○	○	○	○	○	○	○	容量0.13m ³
44	3281410241	マニアフォーク	M-W25	○	○	○	○	○	○	○	フォーク長さ600mm×6本
45	3281410251	ハイフォーク	H-W25	○	○	○	○	○	○	○	フォーク長さ1100mm×7本
46	3281410261	グレーダ	G-W25	○	○	○	○	○	○	○	排土量0.26m ³
47	3281410271	広幅爪付バケット	WTB-W25	○	○	○	○	○	○	○	爪数6本、容量0.13m ³
48	3218140201	ビートバケット	BB-W25	○	○	○	○	○	○	○	容量0.23m ³
49	3281410281	広幅マニアフォーク	WM-W25	○	○	○	○	○	○	○	フォーク長さ600mm×7本
50	3281410181	ローディングフック	L-W25	○	○	○	○	○	○	○	制限荷重350kg
51	3281410171	パレットフォーク	P-W25	○	○	○	○	○	○	○	フォーク長さ705mm
52	3212410580	サブバルブ1連(手動)	D1-2228GO	○	○	○	○	○	○	○	安全フレーム用手動レバー式、単複切換式1連
53	3212410590	サブバルブ2連(手動)	D2-2228GO	○	○	○	○	○	○	○	安全フレーム用手動レバー式、単複切換式2連

5 潤滑油

使用オイル表

オイルを使用する場合は下記の表を参照の上温度条件に合わせて使用します。

① エンジン

メーカ	商 品 名
純 正 油	マルチ STOU オイル (SAE10W-30)
全 農	クミアイエンジンオイル (ディーゼル用)
三 菱 石 油	ダイヤモンド HDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

取扱いのポイント

- やむをえず他のメーカーのオイルを使用される場合は API サービス分類 CD 級以上のオイルをお使いください。

② ミッション、フロントアクスル

API サービス分類 GL-4 級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

銘 柄 (メーカ)	オ イ ル 商 品 名
純 正 油	マルチ GB オイル (SAE80W)
〃	マルチ STOU オイル (SAE10W-30)
三 菱 石 油	ダイヤモンドファームギヤオイル B (SAE80W)
〃	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル (SAE10W-30)
日 本 石 油	アントイル B (SAE80W)
全 農	クミアイトラクタオイル (SAE80W)
昭和シェル石油	ギヤオイル HTS-56 スーパー (SAE80W)

※商品名は変更することがあります。

取扱いのポイント

- パルシフト装備機のトランスミッションオイルは、マルチ STOU オイルをお使いください。

《三菱農機 純正油 マルチオイルペア》

- ・マルチSTOUオイルは、1種類でエンジンオイル、ギヤオイルとして、一年中ご使用いただける、オールシーズンタイプのオイルです。
- ・マルチGBオイルは、ギヤ及び湿式ブレーキの特性を考慮して開発された、ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。

スト
マルチSTOUオイル



マルチGBオイル



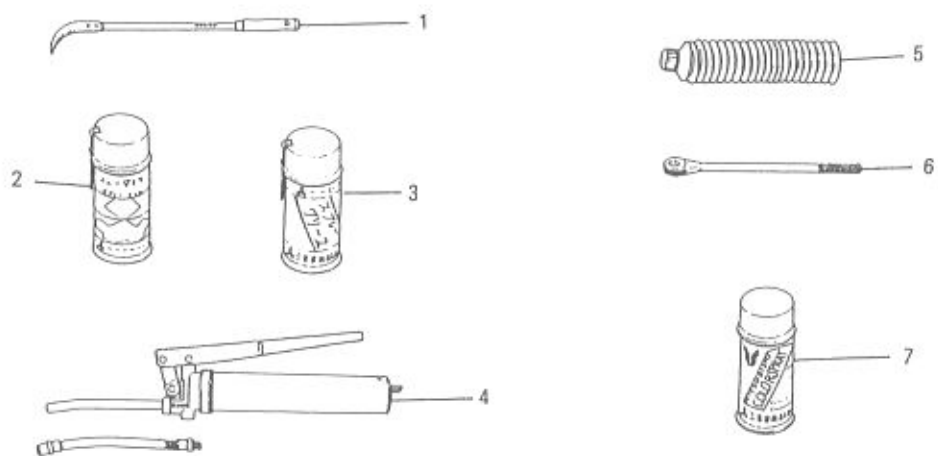
性状		品名	マルチSTOUオイル	マルチGBオイル
比	重	15/4℃	0.883	0.893
引	火	点	210	230
流	動	点	-37.5	-35.0
動粘度cSt		@ 40℃	62.2	78.4
		@100℃	10.8	9.8
粘	度	指	168	104
A P I サービス分類			SD/CD/GL-4	GL-4
S A E 粘度番号			10W-30	80W
荷	姿		ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶

・お買い求めは、弊社「特約販売店」で取扱っていますのでご相談ください。

6 トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No	商品名	商品番号	
1	万能鎌 (ノコ刃)	S309DX	土、ワラの除去に最適
2	ダイアスプレー (防錆・潤滑)	K1-420DX	金属部品の防錆, 潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850-666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ (17)	HT3100	爪の脱着, 増締
7	カラスプレー (赤) 〃 (白) 〃 (黒)	0975 0000 490 0975 0000 160 0975 0000 470	補修用塗料

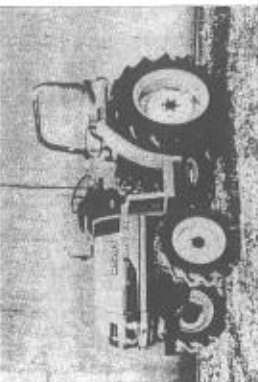


・ご用命のときは、「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

農用トラクター (乗用型) 検査成績表



型式名 三菱MT285
依頼者名 三菱農機株式会社
住所 島根県八束郡東出雲町大字埴原町667番地1



4 輪駆動
小型特殊自動車
機関許容出力: 21.0kW (28.5PS) / 2500rpm
走行速度: 前進16段 後進16段 (シフト変速)
クリーブ変速付き
PTO変速段数: 正4段, 逆4段
パワーステアリング付き
後回時前輪加速機構付き
水字・耕深時間装置付き
安全キャブ付きもあり
装着安全フレーム: 型式名 三菱2F285 (合格番号: 92072)

I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
 - 全長: 3.08m (バンパ〜下部リンク後端)
 - 全幅: 1.39m (後輪最外側)
 - 試験時前輪軸距: 1.12m
 - 試験時後輪軸距: 1.10m
 - 全高: 1.93m (安全フレーム上端)
 - 質量: 1316kg (付加重量なし)
 - 前輪 592kg 後輪 724kg
 - 軸距: 1.61m
 - 前輪 1.12m (固定)
 - 後輪 1.10, 1.19, 1.25, 1.35m (4段階)
- タイヤ**: 前輪 7-16-4 PR 後輪 11.2-26-4 PR
- PTO軸高**: 0.58m
- PTO軸端〜下部リンク後端**: 0.68m

- 機関**
 - 種類: 水冷4サイクル4気筒ディーゼル
 - 呼称出力: 21.0kW (28.5PS) / 2500 rpm
 - 総行程容積: 1.500 l
 - 燃焼室形式: 渦流室式
 - 過給機: なし
- 伝動装置**
 - 主クラッチ形式: 乾式単板
 - 主変速: 4段
 - 副変速: 2段
- 3. 走行性能**
 - 型式: 油圧式 (全油圧式)
 - 型式名: 三菱 2F285 (合格番号: 92072)



1. PTO性能

- トルクバックアップ比: 1.20
- 弾性係数: 1.94
- 最大出力時: 73.5N・m

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
18.7kW (25.4PS)	290g/kW・h (123g/PSh)	540rpm	4%

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	9.52kN (971kgf)	4.35kW (5.91PS) (8速)	1.65km/h
7.5km/hに最も近い速度段	7.65kN (780kgf)	16.0kW (21.8PS) (10速)	7.53km/h
最大けん引出力	6.01kN (613kgf)	16.3kW (22.2PS) (11速)	9.76km/h

- 作業機昇降装置性能**
 - リリーフ弁設定圧力: 15.0MPa (153kg/cm²)
 - 油圧ポンプ性能:

条件	流量	圧力	出力
最大出力	27.8 l/min [148kg/cm ²]	14.5MPa (9.14PS)	6.72kW (9.14PS)
リリーフ弁設定圧力の90%	27.8 l/min [138kg/cm ²]	13.5MPa (8.53PS)	6.27kW (8.53PS)

条件	播種	力
下部リンクヒッチ点	11.87kN	[1210kgf]
フレーム上	8.34kN	[850kgf]

- 騒音** (運転者の耳もと): 84dB(A)
- 静的横転角**: 37°

トルクバックアップ比: 最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
 弾性係数: 最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比 × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。
 排気煙濃度: 排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
 最大けん引出力: コングリートのスリップ率15%時のけん引出力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引出力。
 けん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引出力としている。
 最大けん引出力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力。
 騒音: 無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

II 検査成績



* 調整レバー位置
 * 実線: 全機位置
 * 破線: PTO回転数で最大出力の得られる位置は全機位置と同じ

- 最小旋回半径 (コングリート上) プレーキ使用時: 2.17m
- 安全装置 可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他 後回時前輪滑速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。



農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全ブレーム検査成績表

		型式名: 三菱 C 225
		合格番号: 9 3 0 3 1
種類: 安全キャブ		依頼者名: 三菱農機株式会社
住所: 鳥取県八束郡東出雲町大字掛懸町 667番地1		

4. 主要材料
- フレーム: STKR 400, STK 400, SS 400, SPFC, SPOC
 - 装着ブレーケット: SS 400, SPFC
 - 組立・装着ボルト: S44C, SCM 435

III 検査成績

1. 強度試験
- 1) 水平負荷試験は、キャブの後部右側、側部左側に対して実施。
 - 基準質量: 1500 kg
 - 所載吸収エネルギー: 後部負荷 2.42 kJ (245 kgf・m)
 - 側部負荷 3.20 kJ (325 kgf・m)
 - 2) 試験後のキャブの永久変位
 - 後部(前方へ): 右側 3.0 cm 左側 1.0 cm
 - 前部(後方へ): 右側 -2.0 cm 左側 -0.5 cm
 - 側部(右側方へ): 前側 5.5 cm 後側 7.5 cm
 - 上部(下方へ): 前側 右側 0.5 cm 左側 0.0 cm
 - 後側 右側 0.5 cm 左側 0.5 cm
 - 3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差: 8.0 cm
2. 騒音検査
- 8T dBA (三菱 MT305) 85 dBA (三菱 MT225)
- ※ 1.5m/1hに近い環境中で、60分間隔をかけた時のキャブ内騒音、運転席の耳もと

IV 付記

本キャブは、既合格機(合格番号 92070)であり、装着トラクター1型式(三菱 MT305)の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。

強度試験、分解検査

I 装着可能トラクター

1. 型式名	三菱 MT225H	三菱 MT285	三菱 MT265
	三菱 MT245	三菱 MT225	
2. 主要諸元(最大及び最小トラクター)			
■ 型式	三菱 MT305	三菱 MT225	三菱 MT265
■ 種類	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■ 質量(キャブ付き)	kg: 1491	kg: 1330	kg: 1330
■ 軸距	mm: 1755	mm: 1565	mm: 1565
■ 機関出力(回転数)	kW(PS)/rpm: 22.4(30.5)/2700	16.5(22.5)/2500	

II 構造の概要

1. 構造及び設置法

供試キャブは、調整及び調整を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部及び後軸軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン、ドア(両側)、後窓を装備。
2. 主要要素

シートベルト(2点式)、視界装置、電動ワイパー(前)
3. 主要寸法
 - 座席基準点から取付部材(内側下面)までの高さ: 90.5 cm
 - フートプレートから取付部材(内側下面)までの高さ: 129.5 cm
 - 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内径: 89.5 cm
 - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内径: 96.0 cm
 - 戸口の幅(上部): 61.5 cm
 - (中部): 85.0 cm
 - (下部): 34.0 cm
 - (フートプレートから): 124.5 cm
 - 最低点ステアリングの高さ: 41.0 cm
 - キャブ装着時のトラクターの全高(キャブ上端まで): 199.5 cm
 - キャブの全備(フェンダーを含む): 123.5 cm
 - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離: 21.0 cm

※ 1. 三菱 MT305(タイヤサイズ: 前輪 7-16 後輪 12.5-24)に設置時。
2. トラクターシーターの標準型式: 標準プレス工、GOシート
3. ステアリングホイールの中心高は中央位置に調整。



農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名: 三菱 22285

台格番号: 93032

種 類: 安全フレーム(2柱式)

依頼者名: 三菱農機株式会社
住 所: 島根県八束郡東出雲町大字指原町
667番地1



I 装着可能トラクター

型式名	三菱 MT305	三菱 MT285H	三菱 MT285	三菱 MT265
型式	三菱 MT245	三菱 MT225		
主要諸元(最大及び最小トラクター)				
■型 式	三菱 MT305	三菱 MT285	三菱 MT285	三菱 MT265
■種 類	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg : 1330	kg : 1330	kg : 1199	kg : 1199
■軸 距	mm : 1755	mm : 1755	mm : 1565	mm : 1565
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm : 22.4(30.5)/2700	kW(PS)/rpm : 22.4(30.5)/2700	kW(PS)/rpm : 16.5(22.5)/2500	kW(PS)/rpm : 16.5(22.5)/2500

II 構造の概要

- 構造及び検査法
供給フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、防衝突・防衝突・防衝突
取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。
なお、吊钩等のためにフレーム上部を折曲げることができる。
- 主な諸元
シートベルト(2点式)
- 主要寸法表

■座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ	: 82.0 cm
■フロントプレートから屋根部材(下面)までの高さ	: 124.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	: 77.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅(上部)	: - cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離(下部)	: - cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離(フロントプレートから)	: - cm
■最低ステップの高さ	: 41.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高(座席部材上面まで)	: 193.0 cm
■フレームの全高	: 102.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	: 35.0 cm

※1. 三菱 MT305 (タイプA) : 四輪 11.6 速輪 (11.4-24) に装着時。
※2. トラクターシートは別売型式 : 鋼管フレーム工法、GOシート
※3. ステアリングホイールの中心高さは車体設置に依存。

- 主要材料
 - 主 フ レ ー ム : STEEL 400, SS 400, STEEL 11A, STEEL 12C, SS 490B
 - 装着ブラケット : SS 400
 - 組立・装着ボルト : S45C, SCM 435

III 検査成績

- 強度試験
 - 1) 水平負荷試験は、フレームの後部右側、側部左側に対して実施。
 - 基 準 質 量 : 1350 kg
 - 所要取込エネルギー : 後部負荷 2.17 kJ (222 kgf·m)
 - 側部負荷 2.99 kJ (305 kgf·m)
 - 2) 試験後のフレームの永久変位
 - 圧 縮 力 : 19.86 kN (2025 kgf)
 - 後 部 (前 方 へ) : 右側 9.5 cm 左側 10.5 cm
 - 側 部 (右側方へ) : 15.0 cm
 - 上 部 (下 方 へ) : 右側 1.0 cm 左側 -2.0 cm
 - 3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 : 8.0 cm
- 騒 音 表
 - 85 dBA (三菱 MT305) 85 dBA (三菱 MT225)

※ 7.5m以内に近づく場合は、けん引機をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

IV 付 記

本フレームは、既合格機(合格番号 92072)であり、装着トラクター1型式(三菱 MT305)の追加に供して受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問い合わせください。

- ご使用機の型式名と機械番号(製造番号)は……？

型 式

機械番号(製造番号)

- ご使用状況は……？

(何速で、どんな作業のとき)

- どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用后)

- トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



どんなに小さなことでも、
お気軽にお問い合わせ
ください。

(ご相談窓口) お買いあげ先

T E L ()



未来をひらく

三菱農機株式会社

- 本社** 鳥取県八東郡東出雲町大字揖屋町667-1
〒699-01 ☎(0852)52-2110内
- 営業本部** 東京都新宿区富久町15番地1号 三菱重工新ビル
〒162 ☎(03)5360-7330内
- 札幌支店** 千歳市上善郡1046
〒066 ☎(0123)22-1213
- 仙台支店** 宮城県多賀城市宮内2-3-1
〒985 ☎(022)364-1181
- 秋田営業所** 秋田市寺内字神屋敷295-28
〒011 ☎(0188)46-6530
- 東京支店** 埼玉県北葛飾郡笠宮町桜田2-133-4
〒340-02 ☎(0480)58-9511
- 新潟営業所** 新潟県西蒲原郡基崎町大字山田字中道上
〒950-11 ☎(025)267-6112
- 千葉営業所** 千葉県八街市吉倉字桑敷506-21
〒289-11 ☎(043)445-6144
- 名古屋支店** 愛知県海部郡美和町大字二ツ崎字東高須賀1
〒490-12 ☎(052)445-4300
- 三重営業所** 三重県安土郡安濃町大字内多字蓮番田2904-1
〒514-23 ☎(0592)58-1255
- 西日本支店** 岡山県邑久郡邑久町豆田字東大上161番1
〒701-42 ☎(08692)4-0808
- 広島営業所** 広島県市川条町大字御儀字字通之共6400-5
〒724 ☎(0824)22-6767
- 島根営業所** 鳥取県八東郡東出雲町大字揖屋町621
〒699-01 ☎(0852)52-4546
- 九州支店** 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1
〒841 ☎(0942)85-2821
- 熊本営業所** 熊本県熊本市下横川町2202-1
〒861-55 ☎(096)322-1142

販売会社

(販売会社は広域販売会社のみを記載)

- 北海道** 北海道千歳市上善郡1046
三菱農機販売㈱ 〒066 ☎(0123)22-1234
- 東北** 宮城県多賀城市宮内2-3-1
三菱農機販売㈱ 〒985 ☎(022)364-1188
- 関東** 埼玉県北葛飾郡笠宮町桜田2-133-4
三菱農機販売㈱ 〒340-02 ☎(0480)58-9521
- 甲信越** 長野県長野市小島田町字中村北沖2126-1
三菱農機販売㈱ 〒381-22 ☎(0262)83-1124
- 北陸** 福井県福井市問屋町2-38
三菱農機販売㈱ 〒910 ☎(0776)22-1965
- 東海** 愛知県海部郡美和町大字二ツ崎字東高須賀1
三菱農機販売㈱ 〒490-12 ☎(052)445-4861
- 西日本** 岡山県邑久郡邑久町豆田161-1
三菱農機販売㈱ 〒701-42 ☎(08692)4-0820
- 九州** 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1
三菱農機販売㈱ 〒841 ☎(0942)84-1888